



Kansai University  
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2015

第20号

図書館 サ・エ・ラ

2014 図書館記録写真



日・EUフレンドシップウィーク展示  
「アナザー・ワールド」(2014.7)



2階開架閲覧室に自動貸出機を導入 (2014.4)



秋学期のKUコアラ展示



エントランスにデジタルサイネージ (社会連  
グループ提供) を設置 (2014.11)



KOALAのスマートフォン版アプリをリリース (2014.12)

# 総合図書館ラーニング・コモンズ

## ワークショップ・エリア



旧雑誌架スペース工事 (2015.2)

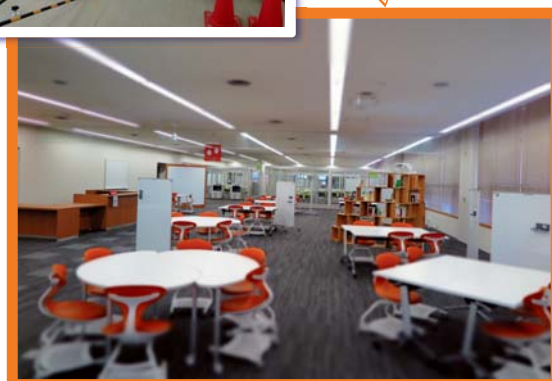
旧東閲覧室 (2015.2)



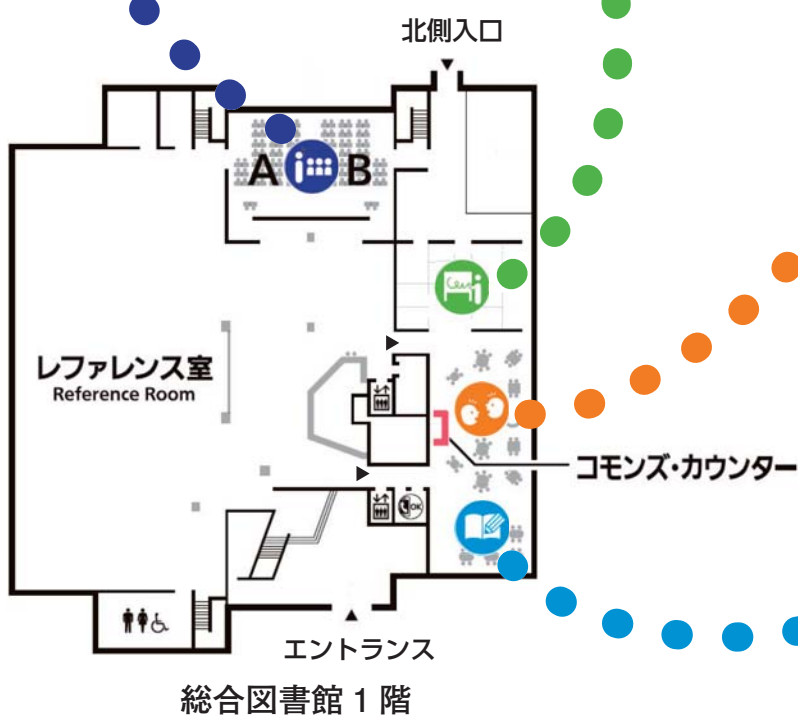
工事中 (2015.2)



## ワーキング・エリア



ラーニング・エリア



ライティング・エリア

研究論文

- 「学校読書調査」から見る戦後の小中高生の読書傾向 ..... 比 佐 篤 ..... 3

書見台

- 南京図書館新館・金陵図書館見聞記 ..... 鳥 井 克 之 ..... 16

虫ぼし抄

- 『Global Trade Atlas』—貿易データベースの紹介 ..... 後 藤 健 太 ..... 23  
新たな歴史資料との出会いを求めて  
—企業史料統合データベース購入にあたって— ..... 橋 口 勝 利 ..... 26  
企業の歴史をたどる —ProQuest Historical Annual Reports の紹介— ..... 西 村 成 弘 ..... 29  
平成 26 年度基本図書購入リスト ..... 32

- 〈図書館自己点検・評価について〉 ..... 関西大学図書館自己点検・評価委員会 ..... 33

図書館談話室

- 総合図書館ラーニング・コモンズについて ..... 広 瀬 雅 子 ..... 53  
第 75 回 (2014 年度) 私立大学図書館協会研究大会に参加して ..... 鶴 谷 かおり ..... 57  
ラーニング・コモンズに関する研修を受講して ..... 上 田 夏 実 ..... 62

図書館活動報告

- 平成 26 年度図書館活動報告 ..... 66  
図書館出版物案内 ..... 69

- 『図書館フォーラム』投稿要項 ..... 70

編集後記

# 「学校読書調査」から見る戦後の小中高生の読書傾向

比 佐 篤

## はじめに

「こどもたちの読書の低迷状態を見ると、日本の将来に対して不安を禁じ得ない。日本では、一部の人がだけが読書し、大部分の人はマンガと雑誌だけを読む、という状況になってしまうのではなかろうか」<sup>1)</sup>。これは、1995年に実施された、第41回学校読書調査の報告に対するコメントからの引用である。学校読書調査とは、4年生以上の小学生および中学生と高校生を対象にして、全国学校図書館協議会と毎日新聞社が共同で1954年より毎年行っている、読書に関する調査である<sup>2)</sup>。この調査は6月に実施され、1か月の間に本や雑誌をそれぞれ何冊ずつ読んだかについてと、読書に関連する諸テーマについてのアンケート調査を行っている<sup>3)</sup>。2014年の段階で、例年通り1万人以上の小中高生を対象としていて、小中学生は地域や都市の規模を、高校生は全日制における学科別の在籍生徒数の比率に応じて対象校を定めており、信頼度の高いデータと言える<sup>4)</sup>。この調査によって、月に1冊も本を読まない児童や生徒の割合を示す不読書率と、読んだ冊数の平均が判明する。

さらに、どのような本や雑誌を読んだのかについてのアンケートも行われており、具体的な読書内容の傾向も窺い知れる。

さて、冒頭にあげたコメントが述べる通り、1995年の不読書率は中学生の男子が53.7%で女子が39.1%、高校生の男子が65.1%で女子が58.5%と、小学生と中学女子を除いて不読書率は半数を超えている。ところで、こうした警句は昔からしばしば耳にしてきたと思われるが、いったいいつごろからそうした事態が生じているのであろうか。学校読書調査はすでに50年以上にわたって実施されており、長期的な状況を検討するのに格好の素材である。そこで本稿では、「学校読書調査」の総体的な検討に基づいて、小中高生の読書状況の実態に迫ると共に、どのように対応していくべきかについての展望を述べてみたい。

## 一 不読書率と読書冊数の変遷

まずは、学校読書調査に基づき、不読書率と読書冊数の推移を確認する。全年度の不読書率をグラフ

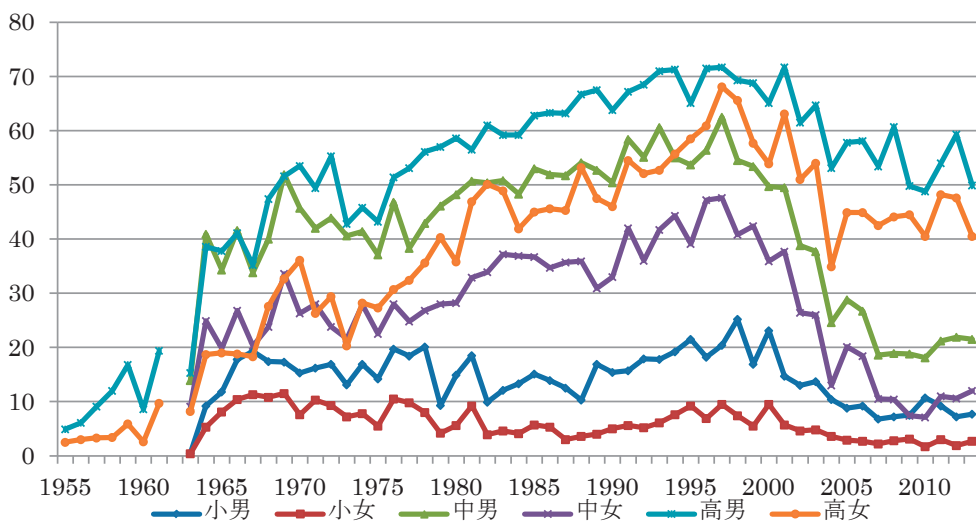


図1 小中高生の不読書率（学校読書調査、1955年～2013年（1962年はデータなし））  
（小中学生は1963年から調査を行っている）

化したのが図1である。小中高生ともに1960年代半ばに急上昇している。ただし、小学生はそこから横ばい傾向が続き、2000年代に入ると減少している。中高生も、1990年代末まで緩やかな上昇傾向にあるものの、同じく2000年代には減っているのが分かる。高校生はやや高止まりしているものの、中学生は低い水準のまま現在に至っている。

同様の傾向は、1か月あたりの読書冊数の変遷を示した図2からも窺い知れる。小学生については、1970年代よりも1980・90年代の方が読書冊数は増加している。さらに2000年代には、小学生だけではなく中学生の読書冊数も、調査開始以来で最多となっている。高校生については、1990年代末に至るまで緩やかな減少傾向にあったものの、やはり2000年代に入るとわずかだが上昇している。

このように、読書冊数と不読書率のデータのいずれからでも、2000年代以後の小中高生は明らかに本を読むようになってきている事実が判明する。実は同様の指摘はすでになされている。たとえば、末次則子と今村秀夫、秋田喜代美、神永正博らは、学校読書調査の結果に基づき、小中高生の読書傾向が2000年に入って改善傾向にあるとそれぞれ指摘している<sup>5)</sup>。加えて米谷茂則は、学校読書調査を行う5月に本を1冊も読まなかったからと言って、本を全く読まないと決めつけるべきではないと主張している。実際に、全国学校図書館協議会が1993年に実施した、1年間に本を読んだことがあるかという調査では、最も低い高校生でも、本を読む者は85%を超えている<sup>6)</sup>。

2000年代に入って読書をする小中高生、特に小学生が増えているが、これは朝の読書運動の効果が

現れていると考えてよいだろう<sup>7)</sup>。朝の読書運動とは、1日の授業が始まる前に十分ほどの読書時間を設定し、自由に好きな本を黙読するというものである。朝の読書推進協議会の公式サイトにて公表されているデータによれば、地域ごとの普及率にばらつきはあるものの、確実に全国で普及しつつある<sup>8)</sup>。朝の読書運動と読書状況の関連性は、2007年の学校読書調査にて行われた、全校一斉読書で何が変わったと考えたかの調査で確認できる。これによれば、本を読むことが増えたと答えたのは、最も高い中学生女子で58.1%にのぼり、最も低い高校生男子でも34.3%であった。ただし、朝の読書運動の普及率は2014年3月の時点で、小中学校は共に80%と高いが、高校は43%とやや低めである。となれば、特に高校生に関して、朝の読書運動だけでは不読書率が減少した理由を説明できるとは言い難い。上記の文献では、この点に関する説明は特になされていない。これに関しては、上記の文献では取り上げられていない、1970年代後半以前の状況が意味を持つと考えられる。

上述した通り、1960年代半ばには急激に不読書率が上昇し、それ以後も漸増し続けた。その原因としてまず考えられるのは、テレビの影響であろう。図3は、テレビの普及率と不読書率を合わせたグラフである。これを見ると、白黒テレビの普及と1960年代後半の読書をしない小中高生の増加との間に、明らかな相関関係を読み取れる。

となると、新しいメディアの登場が不読書率の上昇を引き起こすという推論が成り立つ。実際にこれ以後も、不読書率の上昇とリンクするように、マン

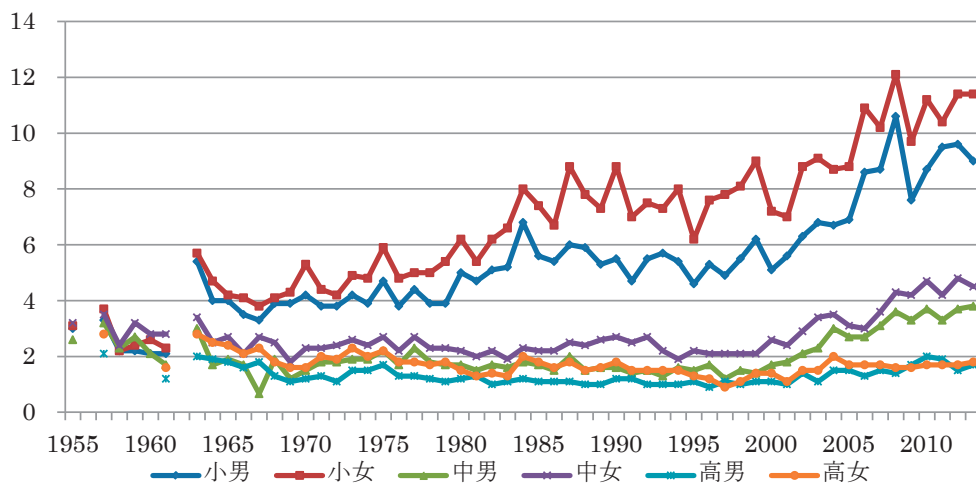


図2 小中高生の読書冊数 (学校読書調査、1955年～2013年 (1956・62年はデータなし))  
(高校生は、1957年を除き、1961年から調査を行っている)

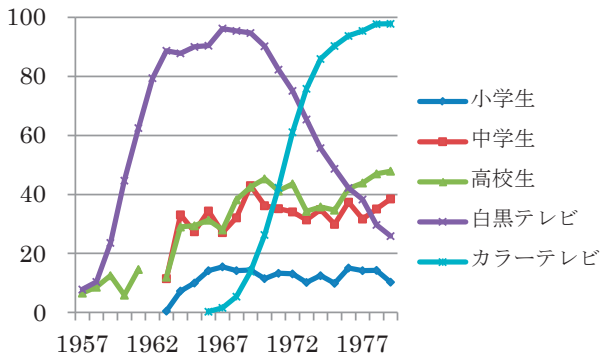


図3 テレビの普及率と不読書率

岡田滋男「不読児—“本離れ”か「本ざらい」か」『学校読書調査25年—あすの読書教育を考える』毎日新聞社、1980年、97頁、図3-2より作成

ガや家庭用ゲーム機などの若者を主たる対象とした新たなメディアが続々と現れていく。

ただし新しいメディアは、必ずしも読書状況を悪化させる要因であるとは言い切れない。実際に、図3でカラーテレビの普及率について確認してみれば、白黒テレビの普及率と異なり、不読書率は上昇していない。同様の傾向は、携帯電話についても言える。携帯電話は、現在の若者にとって最も身近なメディアであろう。総務省による通信動向調査では、2001年より世代別の携帯電話の利用率を調査しているが、2001年は6歳から12歳で7.1%、13歳から19歳までで51.4%だったのが、2009年にはそれぞれ31.6%と84.0%へと上昇している<sup>9)</sup>。しかし確認した通り、2000年代の小中高生は、それまでよりも読書をしている。となれば、新しいメディアは、読書状況を悪化させる要因であると、単純には結論づけられない。

さらに、2007年の読書世論調査では、インターネットの利用時間別の1か月の平均読書量という興味深い調査も行われている。読書世論調査は、学校読書調査と同じく1年に1回実施されているが、15歳以上の未成年及び全年齢の成人を対象にしている点が異なる。したがって、日本人の平均的な読書傾向を知るには有用である<sup>10)</sup>。さて、このネットの利用時間と読書時間の調査結果によれば、インターネットをまったく利用しない人は読書をする率が低い、という結果になっている(表1)。ここからも、新しいメディアが必ずしも読書を疎外しているわけではない傾向が窺える<sup>11)</sup>。特に2000年代には、メディアとリンクして大ヒットした作品が目につくようになる。その代表は、映画化された『ハリー・ポッター』

表1 ネット利用時間別の一か月平均読書量

	書籍	不読書率
しない	1.0冊	61%
30分未満	1.8冊	38%
30～1時間未満	1.6冊	36%
1～2時間未満	2.0冊	35%
2～3時間未満	2.1冊	43%
3時間以上	3.9冊	35%

(『読書世論調査2008年版』毎日新聞社、41頁より作成)

と、携帯電話のサイトで発表された作品を書籍化したケータイ小説である。

『ハリー・ポッター』の第1巻は、日本では1999年に出版された。第2巻が2000年に、第3巻が2001年に発売されると、同じ年の12月には映画化され、その後も続刊が刊行された。学校読書調査に基づけば、『ハリー・ポッター』シリーズを読んだと回答した小中高生の延べ人数の合計は、2000年が23人、2001年が417人、2002年が1559人、2003年が2043人となっており、映画化後に上昇している様相が判明する。2002年は、小中高生のいずれの世代においても、不読書率が減少へと転じた年である。

同じような影響を与えたと考えられるのは、2001年に出版された片山恭一『世界の中心で、愛をさけぶ』であろう。映画化された2004年(5月)には、全体で804人が読んでいる。特に、高校男子は95人、中学女子は261人、高校女子は381人と多数を占めているが、2004年の不読書率はいずれも10%以上は下がっている。

同様の傾向を見て取れる作品として、あさのあつこ『バッテリー』シリーズも挙げられる。『バッテリー』は1996年に第1巻が刊行されて、2005年の第6巻で完結した。2004年以後にはランキングに挙がるようになってきているが、注目すべきは映画化された2007年(3月)に、読んだ人数が前年の152人から477人へ増加した点である。その過半数を占める中学男子では、前年の86人から263人へと増えているのだが、2007年には中学男子の不読書率が8%ほど下落している。

携帯電話用のサイトで公開された小説が書籍化された、いわゆる「ケータイ小説」も、上記の映画化された書籍のブームとほぼ同じ時期に流行が始まっている。学校読書調査のランキングにケータイ小説が登場するのは2003年からだが、まだ少数であり、

本格的に読んだ人数が増えるのは2004年に入ってからである。ケータイ小説<sup>12)</sup>を読んだ合計人数は、その2004年が308人であったが、2005年が219人、2006年が241人とやや横ばいが続いた後に、2007年には1555人と急激に増える。高校女子が395人(前年は105人)であったのに対して、中学女子は1137人(前年は125人)とより多数にのぼるため、主たる対象読者は中学女子であったと分かる。そうした状況を反映して、2007年の中学女子の不読書率は、8%ほど減少している<sup>13)</sup>。

このように、他のメディアとの相乗効果は、それまで本を読む習慣のなかった小中高生に読書をするきっかけをつくる場合もあった。さらに小中学生に関しては、朝の読書運動の活発化に伴い、不読書率の減少と読書冊数の上昇が続く傾向を強めたと考えられよう。逆に言えば、高校ではそれほど朝の読書運動が定着していないために、横ばい傾向が続いていると推測できる。

ただし、こうした書籍は軽い内容のものにすぎず、古典的な名著を読まなくなったとの批判も珍しくない。それでは、学校読書調査からは、そうした変化を見て取れるのであろうか。続いては、この点について確認してみたい。

## 二 読んでいる本の変遷

学校読書調査では、どんな本を読んだのかを挙げてもらう調査も毎年行われている。これを調べれば、主に読まれている書籍の傾向が判明する。それでは、小中高生の読書傾向は何らかの変化が生じているのであろうか。

これに関わるものとして、すでに米谷茂則が、1950～60年代から90年代までの学校読書調査における総得票数を集計し、その上位十位のデータを提示している<sup>14)</sup>。ただし、2000年代に関しては集計されていないし、下位のものについてはデータがカットされている。そこで、1970年、1980年、1990年、2000年、2010年の10年ごとの各年における、小中高生が読んだ本の全得票数について、小中高生別の上位20位までのデータの集計結果を挙げてみた。順番に確認していこう。

まず、小学生である(表2)。シャーロック・ホームズシリーズや日本の歴史などが、1960年代から変わらず上位に位置する。ただし2010年には、伝記物や古典的な作品が減り、エンタテインメント的なもの

が増えている。2010年にはブームが一段落したものの、先に見た『ハリー・ポッター』シリーズはその筆頭であろう。だが、古典的な作品といえども、そもそもは小学生向けにアレンジされているのが一般的である。したがって、1960年代の小学生に比べて2000年代の小学生は、内容の薄いものしか読まなくなったという批判はやや不当であろう。

中学生の場合(表3)、1980年から古典的な作品が減少し始め、1990年にはほぼ姿を消している。そして2010年には、エンタテインメント的な作品がほぼすべてを占めるようになってきている。となると、中学生の読書状況は、1980年から1990年にかけての変化が、現在まで続いていると言えよう。

ただし、いわゆる名著を読むべきと見なされているのは、小中学生よりも高校生であろう。その高校生の読書(表4)には、中学生と同様の傾向をさらにはっきりと見て取れる。

1980年には、1970年にランクインしていたような古典的作品が半分ほどに減っている。その代わりに刊行年の新しい作品が登場している。注目すべきは、それらの多くがTVドラマ化または映画化された作品という点であろう。五木寛之『青春の門』(1970年刊、1975・77年映画化、1976・77年TVドラマ化)・同『四季・奈津子』(1979年刊、1980年映画化)のような現代小説、井上靖『天平の甕』(1957年刊、1980年映画化)のような歴史小説、小松左京『復活の日』(1972年刊、1980年映画化)・半村良『戦国自衛隊』(1975年刊、1979年映画化)のようなSF小説、山本茂実『あゝ野麦峠』(1968年刊、1979年映画化)のようなノンフィクションなど、いずれも1970年代後半から1980年にかけて映像化されている。

たとえば、『青春の門』を読んだ人数について「学校読書調査」の調査結果を見てみよう。本書は、高校生でしかランクインしておらず、1973年は6人、1974年では90人である。これが映画化された、1975年には242人に増えており、その後の1976年には91人、1977年には60人と減少していく。ただし読んだ人数の合計は、先に見たハリー・ポッターシリーズやケータイ小説ほど多数ではない<sup>15)</sup>。それゆえに、不読者率の低下にはつながらなかったと思われる。

同じく興味深いのは、1973年に出版された五島勉『ノストラダムスの大予言』であろう。1973年の中高生の読書人数が186人にもものぼった後は、続刊が



表2 小学生が5月一か月間に読んだ本

1970年		1980年		1990年	
シャーロック・ホームズ	173	江戸川乱歩シリーズ	192	日本の歴史	406
イソップ物語	168	日本の歴史	123	ヘレン・ケラー	96
野口英世	145	怪盗ルパン	112	ナイチンゲール	73
怪盗ルパン	139	トム・ソーヤーの冒険	102	エジソン	67
シートン動物記	131	野口英世	100	野口英世	64
日本の昔話	118	エジソン	94	日本の昔話	59
若草物語	111	日本の昔話	92	あしながおじさん	51
小公女	110	若草物語	87	ドラゴンクエスト	50
アンデルセン童話	99	ヘレン・ケラー	74	魔女の宅急便	50
日本の歴史	91	一休さん	71	武田信玄	47
フランダーズの犬	82	先生のつうしんぼ	71	赤毛のアン	41
アルプスの少女	79	赤毛のアン	61	西遊記	41
グリム童話	75	キュリー夫人	58	若草物語	41
家なき子	71	小公女	56	織田信長	40
ヘレン・ケラー	71	ナイチンゲール	53	怪盗ルパン	40
江戸川乱歩シリーズ	66	ベープ・ルース	46	シャーロック・ホームズ	39
キュリー夫人	65	ふしぎなかぎばあさん	41	世界の歴史	39
リコはおかあさん	64	アンデルセン童話	40	キュリー夫人	38
ピノキオ	61	シートン動物記	39	シートン動物記	36
宝島	55	チョコレート戦争	39	イソップ童話	31
2000年		2010年			
日本の歴史	182	日本の歴史	68		
学校の怪談	101	三国志	39		
江戸川乱歩シリーズ	89	ふしぎの国のアリス	25		
はだしのゲン	77	恐竜の谷の大冒険	19		
シャーロック・ホームズ	66	シャーロック・ホームズ	19		
ヘレン・ケラー	63	化け猫レストラン	18		
五体不満足	54	若おかみは小学生！	18		
野口英世	41	織田信長	17		
エルマーのぼうけん	38	ヘレン・ケラー	17		
それいけズッコケ三人組	33	IQ探偵ムー			
アンネ・フランク	31	そして彼女はやって来た	15		
エジソン	31	お化け屋敷レストラン	15		
日本の昔話	28	かいけつゾロリたべるぜ！			
ベートーベン	28	大ぐいせんしゅけん	15		
ベープ・ルース	27	ダレン・シャン 1	15		
ハッピーバースデー	25	ほくらの七日間戦争	15		
赤毛のアン	21	イチロー	14		
ナイチンゲール	21	恋空	14		
ライト兄弟	19	秘密のとびられすとらん	14		
怪盗ルパン	18	殺人レストラン	13		
		ベートーベン	13		
		死神レストラン	12		

※各年の学校読書調査より作成。各年において、読んだ本として挙げた人数が多い順に上位20位までを挙げている。左欄が書名、右欄がその本を上げた人数。

1979年の年末に刊行されるまでランキングから姿を消すが、1980年には再び読書人数が68人に上昇した。1981年には87人にはさらに増えたものの、1982年には24人とブームは去っていくが、現在から見れば本書は、サブカルチャー的なエンタテインメント作品の先駆けと言えるのではなかろうか。実際に1990年には、アニメやゲームなどのサブカルチャー的な世界観を反映した小説が、ランクインし始めている。藤川桂介『宇宙皇子』、水野良『ロードス島戦

記』、氷室冴子『なんて素敵にジャパネスク』、田中芳樹『銀河英雄伝説』・『創竜伝』・『アルスラーン戦記』などである。なお、先に挙げた米谷の調査では、1980年代全体では『なんて素敵にジャパネスク』（277票）と『宇宙王子』（240票）が第1・2位を占めている。第3位は夏目漱石『心』（189票）だが、第4・6・10位に赤川次郎の作品がランクインし、『ノストラダムスの大予言』（131票）も第7位となっている<sup>16)</sup>。こうした状況は、2000年代に入るとますます

表3 中学生が5月ーか月間に読んだ本

1970年		1980年		1990年	
シャーロック・ホームズ	175	坊っちゃん	131	三国志	87
坊っちゃん	151	江戸川乱歩	98	シャーロック・ホームズ	87
怪盗ルパン	144	怪盗ルパン	86	江戸川乱歩シリーズ	83
赤毛のアン	99	赤毛のアン	57	怪盗ルパン	83
江戸川乱歩	73	中学生日記	54	日本の歴史	75
吾輩は猫である	72	アンネの日記	52	ロードス島戦記	58
次郎物語	47	シャーロック・ホームズ	51	ドラゴンクエスト	57
若草物語	46	ガラスのうさぎ	43	さようならこんにちは	46
二十四の瞳	45	二十四の瞳	35	あしながおじさん	42
十五少年漂流記	41	ノストラダムスの大予言	31	武田信玄	35
アンネの日記	40	復活の日	31	ほくらの七日間戦争	33
星の王子さま	38	トム・ソーヤーの冒険	30	キッチン	32
エドガー・アラン・ポー集	37	吾輩は猫である	30	桜の下で逢いましょう	32
あしながおじさん	35	戦国自衛隊	25	赤毛のアンシリーズ	29
怪談	32	若草物語	24	2100年の人魚姫	26
戦争と平和	28	あしながおじさん	23	宇宙皇子	26
ケネディ	25	路傍の石	23	TUGUMI	24
車輪の下	25	にんじん	20	吾輩は猫である	24
ああ無情	24	伊豆の踊子	17	天使の降る夜	22
ジェーン・エア	24	機動戦士ガンダム	17	エンジェル・ティアアが聴こえる	21
少年少女世界文学全集	24	次郎物語	17		
路傍の石	24				
2000年		2010年			
だから、あなたも生きぬいて	108	恋空	65		
五体不満足	89	リアル鬼ごっこ	64		
ハッピーバースデー	48	バッテリー	38		
江戸川乱歩シリーズ	36	三国志	37		
シャーロック・ホームズ	30	ホームレス中学生	33		
封神演義	30	親指さがし	32		
学校の怪談	24	×ゲーム	27		
少年H	24	白いジャージ	25		
空想科学読本	21	シャーロック・ホームズ	23		
赤毛のアン	19	赤い糸	21		
さくら日和	18	パズル	21		
怪盗ルパン	17	君空	18		
スター・ウォーズ	16	告白	18		
ラグナロク	16	レンタル・チルドレン	15		
カラフル	13	Aコース	14		
創竜伝	12	デュラララ!! 3	14		
ハリー・ポッターと秘密の部屋	12	あそこの席	13		
本当は恐ろしいグリム童話	12	怪盗ルパン	13		
銀の海、金の大地	11	西遊記	13		
さるのこしかけ	11	僕の初恋をキミに捧ぐ	13		
もものかんづめ	11				

※各年の学校読書調査より作成。各年において、読んだ本として挙げた人数が多い順に上位20位までを挙げている。左欄が書名、右欄がその本を上げた人数。

す顕著になり、いわゆる名著は姿を消していく。

読書傾向の変化が、高校生全体の状況の変化に基づくとは考えにくい。高校進学率は、文部科学省による「学校基本調査」の「進学率（昭和23年～）」によれば<sup>17)</sup>、1950年には男子が48.0%、女子が36.7%に留まっていたが、1970年には男女共に80%を超えると、1975年には90%を上回り、その状況が現在まで続いているからである。となれば、中高生の読書傾向は、1980年ごろから変化していると言える。

ところで、小中高生が1か月間に読む本をもう一度眺めれば、ノンフィクションがほぼ挙がっていない事実気づく。フィクションの描かれた小説を楽しむのは同じであるものの、その対象が古典的小説からサブカルチャー的な小説へと変化したわけである。

それでは、古典的小説が読まれなくなった理由は何であろうか。最大の理由は、時代背景が違うために、内容を理解しにくい点であろう。これについて

表4 高校生が5月一か月間に読んだ本

1970年		1980年		1990年	
友情	50	赤毛のアン	59	宇宙皇子	54
車輪の下	48	復活の日	57	ロードス島戦記	51
野菊の墓	47	青春の門	48	三国志	48
赤頭巾ちゃん気をつけて	42	ノストラダムスの大予言	37	ノルウェイの森	39
シャーロック・ホームズ	40	こころ	33	キッチン	35
こころ	38	四季・奈津子	31	赤毛のアン	34
女の一生	35	老人と海	29	オンディーヌの聖衣	31
ジューン・エア	33	人間失格	22	TUGUMI	30
どくとるマンボウ	28	シャーロック・ホームズ	19	愛する君のために	27
嵐が丘	27	坊っちゃん	19	さようならこんにちは	24
戦争と平和	26	怪盗ルパン	15	なんて素敵にジャパネスク	23
坊っちゃん	24	戦国自衛隊	15	創竜伝	22
狭き門	19	初恋	14	ロマンス	21
橋のない川	19	友情	14	銀河英雄伝説	20
怪盗ルパン	17	あゝ野麦峠	13	シャーロック・ホームズ	19
カラマーゾフの兄弟	17	天平の薨	10	後宮小説	18
雪国	17	鼻	10	こころ	18
若きウェルテルの悩み	17	飛翔	10	アルジャーノンに花束を	17
愛と死	16	ようこそ地球さん	10	機動戦士ガンダム	
赤毛のアン	16			閃光のハサウェイ	17
				アルスラーン戦記	16
2000年		2010年			
だから、あなたも生きぬいて	161	告白	72		
五体不満足	33	リアル鬼ごっこ	26		
永遠の仔	29	スイッチを押すとき	21		
シャーロック・ホームズ	19	余命一か月の花嫁	21		
創竜伝	19	デュラララ!! 1	18		
三国志	16	デュラララ!! 2	16		
僕は勉強ができない	15	デュラララ!! 3	16		
“It (それ)”と呼ばれた子	14	1Q84 1	14		
ラグナロク	14	白いジャージ	13		
アナザヘヴン	13	あそこの席	12		
キッチン	13	パズル	12		
本当は恐ろしいグリム童話	13	×ゲーム	11		
ハリー・ポッターと賢者の石	11	teddybear	11		
燃えよ剣	9	オール	11		
アムリタ	8	“It (それ)”と呼ばれた子	10		
車輪の下	8	Aコース	10		
小説ドラゴンクエスト	8	植物図鑑	10		
氷点	8	あおぞら	8		
カラフル	7	アバター	8		
さくら日和	7	王様ゲーム	8		
十七歳	7	生徒会の一存	8		
水滸伝	7	デュラララ!! 5	8		
デモン・スレイヤーズ!	7	図書館戦争	8		

※各年の学校読書調査より作成。各年において、読んだ本として挙げた人数が多い順に上位20位までを挙げている。左欄が書名、右欄がその本を上げた人数。

は、『読書世論調査1997年版』における「古典・名作や現代作品の読まれ方」という記事にて、すでに指摘されている。それによれば、『坊っちゃん』を読んだ生徒は、1968年に比べて確実に減少している。たとえば1968年には、小学生の11.6%、中学生の41.2%、高校生の59.0%が読んだ経験があったものの、1988年にはそれぞれ11.1%、23.8%、41.6%に下落し、1996年には7.1%、19.2%、32.0%とさら

に減少している。これは、先に見た1980年代から読書傾向が変化した様相と、おおよそ一致している。この調査結果に対して、「昔の人なら『坊っちゃん』の滑稽さは分かったが、現代っ子にとってはユーモアを感じにくく、とっつきにくい小説になっている」<sup>18)</sup>とのコメントがある。1世紀近くも前に書かれた作品を、予備知識もなく楽しんで読み進めるのが困難なのは、何ら不思議ではない。

とはいえ、サブカルチャー的な作品には、マンガやアニメ、さらにはRPG（ロール・プレイング・ゲーム）を下敷きにしつつ、異世界を舞台にしているものも多い。だが、知識がないために理解ができないという事態は生じず、若者に受け入れられているのはなぜだろうか。重要なのは内容ではなく、そうした作品の構造である。こうしたサブカルチャー的な作品が持つ構造の特徴については、すでに論じられている<sup>19)</sup>。

マンガでは、登場人物が「キャラ」として表現される。これは、それまでの文芸作品に見られた、内面を有する架空の人物たる「キャラクター」とは微妙に異なる。なぜならばキャラは、図像によってまずは認識されて、類型化された記号のような役割を果たすからである。他方、RPGにもこうしたキャラが登場し、主としてプレイヤー側が動かす登場人物にも、それぞれの職業という役割分担が与えられる。さらに彼らは、パラメータという数値によって能力を表される点で、内面を有するキャラクターではなく、記号化されたキャラに近い。マンガやRPGなどですでに現れていたこのような類型化されたキャラが、サブカルチャー的な小説にはしばしば登場している。類型化されたキャラが様々なサブカルチャー作品に共通しているのだから、たとえ舞台や物語が異なろうとも、キャラという存在からその世界観を受け入れるのは容易となるわけである。

こうした点を踏まえれば、RPGを小説化した『小説ドラゴンクエスト』や『ロードス島戦記』などのサブカルチャー的な作品が、1990年代に登場したのは決して偶然ではなからう。それらは、たとえ現代社会から遠く離れた架空世界を描いていても、その構造という点において、若者たちを惹きつける素地を備えていたわけである。つまり、現実社会についての「リアリティ」が欠如しても、若者にとっては自分たちの身近に存在するかのような「リアル」な感覚がそこから読み取れると言える。『ハリー・ポッター』シリーズが魔法を扱うファンタジー小説でありつつ大ヒットしたのは、こうした1990年代のサブカルチャー的な作品の流れの延長線上にあると考えられよう<sup>20)</sup>。

さらに、この「リアリティ」ではなく「リアル」という感覚が重視されるのは、ケータイ小説についても同様である。ケータイ小説についても、主たる読者である中高生の女子にとって、登場人物の言動に現実感があるかよりも、自分たちのすぐそばにあ

るように感じる親近感のあるリアルさが重視されているとの指摘がなされている<sup>21)</sup>。

すでに見たとおり、1980年代は不読書率が増加し続けていた時代である。そのころ、中高生の間では過去の読書傾向からの変化が生じ、不読書率が減少する2000年代には、メディアとリンクした作品やサブカルチャー的な作品が、読書対象のほとんどを占める状態へ変わったと言えよう。

とはいえ、先に不読者率の低下を概観したように、読書をする若者がかつてよりも増えているのは事実である。これもすでに確認した通り、朝の読書運動が読書指導に果たした役割が大きい。いわば、読書を行う習慣に対する指導法は、それなりの効果を上げていると言える。となれば、そうした若者をさらに深い思索へと誘う書籍へ促すための方法論が続いて検討されるべきであろう。そこで、読書指導の現状を確認しつつ、さらなる読書指導の方法論の提示を試みてみたい。

### 三 若者の読書と推薦図書の問題

生徒をさらに深い読書の世界へと誘うには、導く側の立場である教員がそれに対する知識を蓄えておき、児童や生徒の求めに応じて適切な書籍を薦められるように備えておく必要がある。それでは現在の教員は、小中高生へ読書に関する適切な助言を行い得ているのであろうか。

現在の状況を間接的に確認しうるデータが、学校読書調査にいくつか見られる。たとえば、先に見た2007年の学校読書調査にて行われた、全校一斉読書で何が変わったと考えたかについての調査である。すでに確認したとおり、本を読むことが増えたと答えた小中高生は多い。にもかかわらず、先生と本の話をするようになったとの回答は、最も高い小学生女子で2.1%、最も低い高校生男子は0.5%にすぎない。これは、読書習慣が身に付いたとしても、教員とは読書の話をしていない状況を示している<sup>22)</sup>。

さらに、教師の側からきちんと指導ができていない実態は、2010年の学校読書調査にて行われた、本を選ぶ際の基準に関する調査から判明する（表5）。「先生のすすめ」と回答した者は極めて少なく、小中高生の男女すべてにおいて最低である。これでは、現場の教師によって、具体的な読書指導が行われていると想定できない。

そもそも読書をしていなければ、若者と本の話は

表5 本を選ぶときの基準は何か（複数回答可）

	小男	小女	中男	中女	高男	高女
表紙	37.4	44.4	41.3	52.5	33.5	41.1
本の題名	60.8	62.5	54.8	53.0	42.1	44.2
活字の大きさ	8.7	15.4	6.5	7.7	3.6	6.3
本の大きさや重さ	14.0	11.4	10.6	7.3	6.2	6.8
本の値段	19.7	13.2	19.5	17.4	19.4	17.0
友だちのすすめ	21.6	28.6	22.3	30.0	24.0	31.1
家族のすすめ	10.2	13.6	6.3	6.7	3.7	3.8
先生のすすめ	4.8	6.7	1.9	2.0	1.8	2.2
世の中の人気や評判	19.7	15.5	23.6	25.0	39.6	36.5
新聞や雑誌の広告	5.4	7.3	7.1	11.4	9.5	13.8
好きな作家	14.9	25.4	19.9	33.7	29.7	34.4
映画やテレビの原作	31.4	24.5	35.9	34.8	27.4	26.9
その他	10.8	10.9	11.5	9.7	8.9	9.2
無回答	0.3	0.3	1.0	0.4	0.8	0.3

〔学校読書調査〕（2010年）より作成）

できないであろう。実は1960年代から、生徒よりも教員こそが読書をしていないのではないかと、という批判が見られる<sup>23)</sup>。自らの読書経験が乏しければ、生徒に推薦すべき書籍を見出すことは不可能に近い。となれば、他者が作成した推薦図書のリストに頼らざるを得ない。それでは、そうした推薦図書は現在の小中高生の状況を踏まえたものとなっているのであろうか。

学校における読書指導は様々な方法論に基づいて実施されてきたが、推薦（必読）図書の紹介は、戦後から行われ続けてきた<sup>24)</sup>。その代表例として挙げられるのは、全国学校図書館協議会必読図書委員会が編集している『何をどう読ませるか』であろう。本書は小中高生別の各巻に分かれており、それぞれの巻で推薦図書を挙げてその解説を行っている。加えて、さらなる指導をする際にはどのような図書があるのかも、それぞれの著作ごとに補足図書として2～5冊ほど挙げられている。先述の通り、名著を読むべきと特に見なされているのは高校生と思われるので、高校生用の『何をどう読ませるか』第6訂版（2000年）について見てみたい。

挙げられている作品は、『アンネの日記』や『こころ』などの古典的な作品から、『TUGUMI』のような新しい作品までを含む50冊である。サブカルチャー的なライトノベルやマンガは、推薦図書として挙げられていない。補足図書に、関川夏央・谷口ジロー『かの蒼空に』（『石川啄木』、このカッコ内は推薦図

書（以下同じ）と手塚治虫『陽だまりの樹』（『学園の花ひらいて』）が、わずかながら挙げられているくらいである。

ただし、サブカルチャー的な作品の例として先に挙げた『小説ドラゴンクエスト』や『ロードス島戦記』へ言及している箇所がある。だがそれは、推薦図書や補足図書としてではない。「読書材として価値の高い作品が、時流に乗った作品の陰に隠れて見えなくなることが多い」（22頁）という否定的な対象の例として挙げられているのである。ここには、大人の勤める「良い」読書と若者の読書との乖離が、明らかに見て取れる。

これに関連して、『ハリー・ポッター』と往年の定番的なファンタジー作品である『ゲド戦記』とを比較した、赤木かん子の指摘に触れておきたい。前者の主人公であるハリーは、努力せずとも大人たちによって解決策を提示してもらえる場合もあるが、後者の主人公であるゲドは、自分自身で苦しみながら努力して困難を乗り越える場面が続く。したがって、前者を読んだ若者が、後者を薦められても読み進めるのは難しい、と主張している<sup>25)</sup>。その一方で、先に触れた『何をどう読ませるか』の高校生版には、『ゲド戦記』が補足図書としてあげられている（86頁）。上記の通り、学生が読む書籍の傾向は1980年代から変化しているのに、それに対応した読書指導が適切になされていない状況が、垣間見えるのではなかろうか。

若者が好む書籍を基にした読書指導の重要性については、読書傾向が変化しつつあった1980年に、越谷和子がすでに指摘している。越谷が例に挙げたのは、星新一の短編である。そこには、ペーソスと比喩、幻想的な美、現実的な醜などの観念や感覚が含まれており、読み手が想像の翼を広げさせる余韻すらあると見なす。その上で、高校生はその面白さを自発的に見つけ出したのであり、そこから読書離れを改善できるのではないかと提言している<sup>26)</sup>。

そもそも越谷がこうした提言を行ったのは、そのような指導が十分になされていないとの懸念があったからだろう。実際に、1960年代から、推薦図書は画一的に「良い」図書を提示するだけに留まっているのではないかと、という疑問が呈されていた<sup>27)</sup>。事実、画一的な選書を超えて、若者の状況を踏まえた上で推薦図書を挙げている論者は、特に目立っては見られない。ライトノベルや少女小説を視野に入れた指導の重要性を、1980年代から訴え続けた赤木かんなが挙げられるくらいである<sup>28)</sup>。

こうした指導は、読書をするようになったものの、本格的な読書にはまだ不慣れな若者も多い現在にこそ必要となるはずである。だが、不読書率が減少した2000年代に入ってから、そうした指導を具体的に語っている論者はほとんどいない。勤務先の中学校での梨木香歩『西の魔女が死んだ』や筒井康隆『時をかける少女』を自ら選書して、読み聞かせを続けた宮本由里子や、流行の本を読む中学生との会話を通じて、それぞれに向いている本を薦めた小幡章子らが確認できる程度にすぎない<sup>29)</sup>。これは、若者の読書と大人の読書を結びつけるような、実践的な指導を体系立てようとする動きがほとんど見られない状況を物語っている。不読書率の減少や読書冊数の増加は、地道な読書教育のおかげでもあるだろう。だが、それを踏まえた上で、さらに深い読書世界へと誘う方法論は、まだ十分な議論の対象になっていないと言える。

子供の頃から読書に親しみ、古典的な作品も読んだ経験があると、安易に同じような読書を勧めようとする場合がある。そうした自己の経験に基づく読書教育を否定するわけではない。だがそれでは、読書に親しみがない「生徒たちへの目に見えないプレッシャー」<sup>30)</sup>になってしまいかねない。残念ながら、軽い図書ではなく良い図書を読むべし、というお題目だけが、内実を伴わずに訴えられ続けている。この状況こそが、読書をめぐる生徒と教師の間の断絶

を深め、生徒の読書環境のさらなる改善を阻んでいるように思える。読書習慣が身に付き始めたばかりの生徒に対して、いきなり古典的な作品を薦めた結果として拒絶反応を示されて終わるよりは、現状に応じた図書の推薦方法を考えるべきであろう。

繰り返しになるが、2000年代には不読書率が減って読書冊数も増加傾向にある。サブカルチャー的な流行作品を主として読んでいるとしても、読書習慣を身に付けている若者は増えている。ならば、より文化的または知的な作品へと誘いたいのであれば、サブカルチャー的な作品と結びつけながら、古典的な小説や学術書を推薦すべきではなかろうか。

たとえば、『小説ドラゴンクエスト』や『ロードス島戦記』を端緒として、現在も若者の主たる読書ジャンルとなっているファンタジー小説を読んだ者には、どのような書籍を薦められるであろうか。『小説ドラゴンクエスト』の元になっているゲームの『ドラゴンクエスト』シリーズにはしばしば教会が出てくる。その教会のCGは、十字型をしていることもあれば、尖塔を伴っている場合もあり、内部にはしばしばステンドグラスが描かれている。しかし、教会の形や尖塔、ステンドグラスには、キリスト教の教義と建築学的な問題が組み合わさった必然的な意味がある。これを知るためには、馬杉宗夫『大聖堂のコスモロジー——中世の聖なる空間を読む』が入門書となりうる。中世ヨーロッパとキリスト教の歴史について、教会建築というビジュアル的な観点から学べるため、初学者にも取っ付きやすい。加えてそれらの作品では、姫君との恋物語をはじめとする恋愛が、ゲーム内のイベントの題材となる場合もある。しかし、これらの作品のモチーフとなっている中世ヨーロッパでは、そもそも恋愛という概念が希薄であり、少しずつそのような考え方が「発見されて」きたと捉えられている。こうした事情を知るためには、阿部謹也『西洋中世の男と女』や本村凌二『ローマ人の性と愛』などを紐解いてもらえばよい。人間に普遍的に備わっているように思える「愛」という感情さえも、歴史的に作り出されてきた事実を通じて、歴史の面白さを味わってもらえるのではなかろうか。

そうしたファンタジー作品には、しばしば魔術が登場する。魔術は、前近代的な迷信に連なるのであり、近代的な科学に対置するものと見なされる場合がある。しかしながら、こうした啓蒙主義的な二項対立の世界観は、近代思想史や科学史を紐解けば、

単純すぎるものであると理解できる。たとえば、澤井繁男『ルネサンス』では、一般的に近代の端緒と見なされる時期に、自然の構造や内実を知ろうとする行為が自然魔術と称されていた様相を確認できる。さらにいえば、村上陽一郎『新しい科学論』からは、中世までのキリスト教的な思想こそが近代科学の発想の根源に位置している実態を見て取れる。したがって、ファンタジー世界の魔術や宗教を、非科学的な迷妄と断じるのは危険であり、そうした世界観を持つ作品に内在された論理から近代に通じる概念をも読み取れる可能性もありうる。

ところでRPGには、自分たちが操るキャラクターだけではなく、街のなかには様々な人物が暮らしている設定になっている。そのなかには、道具や武器・防具を売る商人もいるが、大半の人物は街のなかをうろついているだけである。それでは、彼らは働かずにただぶらぶらして暮らしているのであろうか。実はそもそも前近代の人間は、現代のように日中のすべての時間を労働に費やしていたわけではない。武田晴人『仕事と日本人』を読めば、産業革命に至るまでのヨーロッパ人は、時間に追われながら働くような勤勉さを持ち合わせていなかったと分かる。そして日本でも事情は変わらない。明治期に来日したヨーロッパ人は、しばしば日本人は怠惰であり真面目に働かないと書き残しているからである。それを踏まえて夏目漱石『それから』に目を通せば、働きもせず気ままに暮らす主人公の代助に対して歴史的状況を踏まえつつ読み進められるのではなかろうか。

対象となっているのがファンタジー小説であるため、事例が西洋史関係に偏ったものの、ここで挙げた書籍はいずれも新書や文庫であり、高校生であれば、すべてを理解できなくても読み通すのは決して困難ではない。マンガやライトノベルのすべてについて、このような図書紹介はできなくても、自分の専門としている分野に関する図書の紹介は行えるであろう。そのうえで他の教員と連携していけば、読書指導が全体として深まっていくに違いない。その際に、お互いの推薦書とその方法論を持ち寄っていけば、生徒に応じた具体的な指導法も少しずつ積み上げられていくのではなかろうか。内容を自ら確認もせず古くからの推薦書を勧めたり、自分がかつて読んできた「良書」を安易に押しついたりするだけでは、状況は何も変わらないであろう。自らも読書の世界にきちんと踏み込み、必要に応じてその良

さを児童や生徒の趣味や考えに絡めつつ推薦するという努力の先に、読書状況のさらなる改善もあると思われる。

## おわりに

主として学校読書調査を用いながら、小中高生の読書について検討を進めてきた。結果として、以下の3つが明らかとなった。まず、2000年代に入って読書をしない小中高生は減り、読書冊数も増えた事実である。続いて、どのような本を読むのかについては1980年ごろにはエンタテインメント的な方向へと変わり始めたことである。最後に、そうした状況に対応して、若者をさらに深い内容を伴う書籍の読書へと誘うためには、若者の状況と関連して書籍を推薦すべきである、という点である。若者の読書に問題があると考えているのならば、それを若者の問題としてかたづけず、年長者の側もそれに真摯に向き合わねばならないと言えよう。

ところで、大学生においても、対象読書の変化が1980年ごろに生じていたようである<sup>31)</sup>。1980年に大学生であった若者は1970年代には小中高生であった。となれば、若者の読書状況の問題は、1980年代以後に限られるわけではないであろう。したがって、1970年以前の読書状況とそれを巡る言説の検討も必要となろう。これらについては稿を改めて論じたい。

## 注

- 1) “小学生の読書離れ一段と進む”『学校図書館』541、1995、15-17。
- 2) 学校読書調査は、同じく毎年行われる読書世論調査と一緒に『読書世論調査(～年版)』として毎日新聞社から調査の翌年に出版される。ただし、ある年度の調査は翌年版に収録される(たとえば、2014年の調査は2015年版に掲載)。以下、調査そのものに言及する場合には「～年の調査」、本書へ言及する際には『読書世論調査～年版』とそれぞれ表記する。
- 3) 毎年の『読書世論調査』にて「調査のあらまし」の項目に書かれているとおり、対象時期が6月なのは、入学時期や新学期の繁忙期を脱し、また、期末あるいは中間テストなども実施されていない頃で、平常の姿で学習が進められている時期という理由に基づく。教科書・学習参考書・マンガ・雑誌とその付録は対象に含めず、その旨はアンケート時にも伝えられる。なお、読書に関する諸調査は、毎年異なったテーマについて

行われている。

- 4) これも調査時期と同じように、『読書世論調査』にて「調査のあらまし」の項目に書かれている。小中学生については、全国の市町村を大都市（政令指定都市）、中都市（人口20万人以上の都市）、小都市（人口20万人未満の市）、郡部（町村）の4つに分類し、各分類に在籍する児童・生徒数の比率に応じて対象校を定める。高校生については、全日制を9学科に分類し、在籍生徒数の比率に応じて対象校を定める。そのうえで、対象校ごとに、小学生は4～6年生、中学生は1～3年生の各学年1学級を選び、学級全員を対象とする。2014年の調査では、小学生4179人、中学生4499人、高校生4065人が対象となっている。より詳しい比率などは『読書世論調査2015年版』、69を参照のこと。
- 5) 末次則子・今村秀夫“子どもの読書実態と調査—読書と豊かな人間性”『読書と豊かな人間性』（「新学校図書館学」編集委員会編）東京、全国学校図書館協議会、2006、22-26、神永正博『不透明な時代を見抜く「統計思考力」—小泉改革は格差を拡大したのか？』東京、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009、40-43、秋田喜代美・庄司一幸編『本を通して世界と出会う—中高生からの読書コミュニティづくり』京都、北大路書房、2005、6-7。なお、天道佐津子も1969年から2004年までの調査をまとめているが、小中学生の読書傾向の改善に触れつつも、不読者もいる点にむしろ注意を向けている（天道佐津子“子どもたちはどのくらい本を読んでいるか”『読書と豊かな人間性』（「新学校図書館学」編集委員会編）東京、全国学校図書館協議会、2006、31-49）。
- 6) 米谷茂則『児童主体の創造を表現する読書の学習』東京、高文堂出版社、2002、12-14。
- 7) 末次則子・今村秀夫（2006）“子どもの読書実態と調査”『読書と豊かな人間性』（「新学校図書館学」編集委員会編）東京、全国学校図書館協議会、2006、24-25。なお、『読書世論調査2002年版』にも、朝の読書運動の効果について言及がある（88-89頁）。これ以外にも、朝の読書運動が与えた影響に関連する諸調査をまとめたものとして、葉袋秀樹“朝の読書の評価に関するアンケート調査—意義と問題点”『日本生涯教育学会論集』33、2012、103-112がある。
- 8) 朝の読書推進協議会の公式サイト（[http://www1.e-hon.ne.jp/content/k\\_46-0215.html](http://www1.e-hon.ne.jp/content/k_46-0215.html)）には、最新の実施校数と実施率が掲載されている。実施率の全国平均は2015年3月現在で76%である。普及率の低い地域は、大阪・東京・神奈川などの大都市圏と北海道である。
- 9) 総務省“平成13年「通信利用動向調査」の結果”、2002年5月21日公表、2015年3月31日参照、[http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/020521\\_1.pdf](http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/020521_1.pdf)、同“平成21年「通信利用動向調査」の結果”、2010年4月27日公表、2015年3月31日参照、[http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/100427\\_1.pdf](http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/100427_1.pdf)。なお、2009年におけるパソコンの利用率は、6歳から12歳で62.7%、13歳から19歳までで92.1%と、携帯電話よりもさらに高い数値を示している。
- 10) なお、読書世論調査については、永江朗が1988年から2008年の調査結果に基づきつつ書籍の読書率を比較している。そちらでも、年ごとに波はあるが50%弱で推移しており、特に増減は窺えない。永江朗『本の現場—本はどう生まれ、だれに読まれているか』東京、ポット出版、2009、114-117。
- 11) なお、同じく2007年の読書世論調査によれば、テレビの視聴時間が多いほど読書冊数は減っており、読書をしていない人の比率も高い（『読書世論調査2008年版』、40-41）。となると、読書にとっての阻害要因となっているメディアは、インターネットよりもテレビであることになる。
- 12) ケータイ小説として計上したのは、最初にネット上で公開されて後に書籍化された以下の作品である。『Dear Friends』、『Deep Love』シリーズ、『Line』、『LOVE at Night』、『LOVE Heart』、『S 彼氏上々』、『teddy bear』、『赤い糸』、『今でもキミを。』、『永遠の夢』、『幼なじみ』、『片翼の瞳』、『君がくれたもの』、『君空』、『クリアネス』、『クリーム・ソーダ』、『携帯彼氏』、『恋空』、『恋バナ』シリーズ、『心の鍵』、『この涙が枯れるまで』、『こんぺいとう』、『純愛』、『白いジャージ』、『空』、『太陽と月』、『小さな約束』、『翼の折れた天使たち』シリーズ、『天使がくれたもの』、『ドロップ』、『泣き顔にkiss』、『被害妄想彼氏』、『プリンセス』、『星空』、『もう二度と流れない雲』、『もしもキミが。』、『もっと、生きたい…』、『恋愛写真』。
- 13) なお、高校女子は2%ほど下がっているにすぎない。ちなみにその後の小中高生の合計人数は、2008年は762人、2009年は338人、2010年は213人と減少しており、ブームが一段落した状況を見て取れる。
- 14) 米谷茂則『小学校上学年児童から中学生の読書の研究』相模原、現代図書、2009。
- 15) なお、上記の映像化された作品のいずれも、『青春の門』ほどの人数ではない。たとえば1980年の学校読書



- 調査での小中高生の読んだ人数の合計数は、『四季・奈津子』は31人、井上靖『天平の甍』は10人、小松左京『復活の日』は88人、半村良『戦国自衛隊』は40人、山本茂実『あゝ野麦峠』は13人である。ちなみに、同年の『青春の門』を読んだ人数は52人である。
- 16) 米谷、前掲書、180頁。
- 17) “学校基本調査—結果の概要”『文部科学省』[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/1268046.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/1268046.htm)。
- 18) 『読書世論調査1997年版』、121頁（コメントは森洋三による）。
- 19) 特に以下の文献を参照した。東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生—動物化するポストモダン2』東京、講談社（講談社現代新書）、2007、伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド—ひらかれたマンガ表現論へ』東京、NTT出版、2005、新城カズマ『ライトノベル「超」入門』東京、ソフトバンククリエイティブ（ソフトバンク新書）、2006。
- 20) 『ハリー・ポッター』のキャラ的側面からの需要を取り上げた文献として、森有礼“現代表象文化論(1)『ハリー・ポッター』の秘密の部屋—オタク文化とハーマイオニの受容”『国際英語学部紀要<中京大学>』第4号、2004年、1-24頁が挙げられる。
- 21) たとえば以下を参照のこと。杉浦由美子『ケータイ小説のリアル』東京、中央公論新社（中公新書ラクレ）、2008、石原千秋『ケータイ小説は文学か』東京、筑摩書房（ちくまプリマー新書）、2008。
- 22) 『読書世論調査2008年版』、86-88。
- 23) 上野瞭“『不読者』の前の『不読者』”『学校図書館』269、1973、16-17、白上未知子“活字離れの大人たちにすすめる—中学国語教科書の読書案内に挙げられた本”『学校図書館』533、1995、43-52、渡辺茂男“学校での図書推せん—ブック・トークとその周辺”『学校図書館』166、1964、8-11。
- 24) 1990年代には、必読図書ではなく、より柔らかいニュアンスを持つ推薦図書が用いられていくようになった。野口久美子“小学校・中学校における読書指導の実践に関する報告記事の分析—全国学校図書館研究大会を事例として”『Library and information science』62、2009、132。
- 25) 赤木かん子『子どもに本を買ってあげる前に読む本—現代子どもの本事情』東京、ポプラ社、2008、83-87。なお、現在の若者が古い本を読みにくい原因として、内容の古さのみならず、活字体の古さも挙げている（同上、35-59）。
- 26) 越谷和子「生活の中での読書の位置」『読書世論調査1982年版』東京、毎日新聞社、1982、124-25。なお、同様の指摘を行ったものには以下がある。中山春江“学校図書館とマンガ”『学校図書館』354、1980、51-54、村松正志“「軽読書」のすすめ—第21回全国学校図書館研究大会を前にして”『学校図書館』331、1978、45-48。
- 27) 赤木かん子“読書離れを考える—ただのスローガンや偏見で片づけるな”『学校図書館』499、1992、9-12、大石真“『良心的力作』のわざわざい”『学校図書館』269、1973、19-20、椎野正之“批判・高校における読書指導—現在の画一化せるそれはこれでよいのか”『学校図書館』199、1967、33-37、中山春江“学校図書館とマンガ”『学校図書館』354、1980、51-54。
- 28) 具体的なブックリストを伴っている近年の著作としては、赤木かん子編著『こころの傷を読み解くための800冊の本—総解説』東京、自由国民社、2001がある。
- 29) 宮本由里子“子どもたちに言葉のシャワーを—『連続朗読劇場』の力”『本を通して世界と出会う—中高生からの読書コミュニティづくり』（秋田喜代美・庄司一幸編）京都、北大路書房、2005、55-67、脇明子・小幡章子『自分を育てる読書のために』東京、岩波書店、2011。
- 30) 赤星隆子編著『読書と豊かな人間性』東京、樹村房、1999、84頁。
- 31) たとえば、竹内洋がまとめたデータによれば、京都大学の学生は、1980年代に入ると、思想書や教養書を読まなくなる傾向が強くなっている事実が分かる。竹内洋『教養主義の没落』東京、中央公論新社（中公新書）、2003、227。
- (付記)
- 本稿の作成にあたって、河村晃太郎氏から貴重な助言をいただきました。文末ながら記してお礼申し上げます。
- (ひさ あつし 非常勤講師)

## 南京図書館新館・金陵図書館見聞記

鳥井克之

南京市は1973年7月、1980年3月、2011年6月、2014年6月に4回訪問したことがある。最初の二回は旅行者としての2、3日の滞在であったが、あとの二回は南京大学、南京林業大学、南京郵電大学で定年退職後に公刊された拙論「中国語を基軸とする日中比較対照教学文法序説」（『香坂順一先生追悼記念論文集』2006年光生館出版所収）を活用して「中国語構文分析に基づく中文日訳方法論」というコンセプトによるボランティア講義とその合間を縫って日本紫金草合唱団南京公演（合唱朗読構成『紫金草物語』〔日中両国語の歌詞は検索エンジンで参照可能〕の一時プログラム：2011年は南京理工大学大講堂、2014年は金陵図書館報告ホールで数十名による演奏）にテナー歌手の一員として出演したため延6週間大学の専攻楼で生活した。休日には南京市市内の観光スポットを巡り、講義のない日の午後には今回紹介する地下鉄で宿舎からすぐに行ける南京図書館に行き、開架式書架の閲覧室や書庫に並んだ書籍の背中を眺めながら、気になる本は取り出して近くの椅子に座ってぺらぺらと捲り、充実した途轍もなくドデカイ老舗の書店にさまよい入ったような気分浸っていた。

### 南京図書館新館

関西国際空港と南京禄口国際空港間には週往復2便の定期便があり、時期にもよるが搭乗券は往復4、5万円で購入していた。南京禄口国際空港から北上して南京の中心地点新街口までは車で4、50分で到着する。この新街口ロータリーから鼓楼ロータリーまでの約2キロの幹線道路が「中山路」といわれ、それより北西方向にある長江南京埠頭へ続く幹線道路は「中山北路」といい、新街口ロータリーから南下して旧城壁跡に続く幹線道路は「中山南路」と称している。新街口ロータリーから東に向かい南京図書館、南京博物院、中山陵（孫文墓地公園）へと続く幹線道路は「中山東路」と命名されている。

私は通常「中山路」の中間地点にある「珠江路」交差点から西に折れて「漢口路」を100メートル足らず歩いて北側にある南京大学南門にたどり着き、校門から数十メートルの地点にある二階建て瓦葺きの瀟洒な「南京大学南苑会議中心」を宿舎とさせていただいている。

さて南京図書館へ行くには往路は漢口路を東へ100メートル、珠江路交差点から中山路を2キロほど南下し、新街口ロータリーで「中山東路」を東へ約2キロのプラタナスの生い茂った、まさしく「緑樹成陰」というべき街路樹の下を歩き、地下鉄二号線の「大行宮駅」入口の標識と同時に南京図書館の壮麗で重厚な姿が目前に出現する。西側と南側の外装は写真に見られるようにオーソドックスな様式である。地下鉄入口に通じる図書館南入口があるが、初めて図書館を訪れるときは矢張り東側にある正門から入ることを勧めたい。

東壁側面は球状に近いカーブを描いたガラス張りの外装である。地上階<sup>1)</sup>から階段を上り一階入り口を入ると真正面に大きな総合案内カウンターでは手薬煉引いて読者の案内に対応する体制ができていたので、やはり先に地上階<sup>1)</sup>の玄関を通して「六朝遺跡展示ゾーン」に入り、分厚い強化ガラス板越しに足元の「埋没された故宮」を主題とする六朝遼代の「建康（南京の旧名称）」市内の宮廷遺跡を無料でじ



南京図書館西・南側外観

つくりと見学することができるので、この図書館のハイライトスポットになっているとのことであった。

隣接する展覧会場は870平米の広さであり、7月1日の中国共産党創立記念日を迎えるために「中国共産党史展覧会」が写真に見られるような展示物が会場一面に掲示されていた。同じ階の学術報告会場は500平米の広さがあり、不定期の会議、学術報告、講座などの活動に活用されている。隣接する多機能会場は1020平米あり、364の座席が設けられ、ブランド的な公益性の高い文化活動と評価されている「南京図書館講座」がここで毎土・日曜日午後で開催されている。

一階には上述の総合案内カウンター以外に図書検索端末機コーナー、読書相談コーナーがある。総合閲覧室、少年児童と視覚障害者のための書籍定期刊行物貸借閲覧室、江蘇作家作品館、さらに手荷物預かり大型ロッカー44組、引き出し型ロッカー1056口が利用できるようになっている。

一階の総合閲覧室は広さ750平米あり、新聞雑誌閲覧室には最新の中国語新聞約500紙、日遅れの中

国・外国語新聞約1400紙、中国語画報約30誌、中国語庶民雑誌約400誌が提供されており、電子書籍閲覧コーナーでは無料でインターネット・カフェが利用できるようになっていた。

江蘇作家作品館は一階の他の施設とは優雅な仕切と玄関により完全に区分されて640平米の広さがある。館所蔵の原籍が江蘇、江蘇出生あるいは江蘇で勤務経験がある著名な作家の文学作品（小説、ルポルタージュ、ノンフィクション作品、戯曲、随筆、



展覧会場展示物



南京図書館南側外観



南京図書館総合案内カウンター



南京図書館東正門外観



図書検索端末機コーナー



江蘇作家作品館



江蘇作家作品館閲覧コーナー



江蘇作家作品館内展示書籍



南京図書館蔵印

詩歌等を含む)及びこれらを基にしたシナリオによって映像化された映画、テレビ劇、演劇のDVD資料の閲覧・視聴に提供されている。写真に見られるように優雅な雰囲気の中で閲覧・視聴ができ、さらに江蘇作家作品を素材とする文学史を学べる施設が設けられているのに一驚した。

二階はおおむね国内外の書籍の貸し出しと閲覧を取扱い、最近の四年間に中国図書約50万冊(CD/DVD版付を含む)、外国図書原本約3万冊の貸借閲覧サービスに提供された。

三階は閲覧業務を主としており、中国図書、国内外の雑誌の閲覧と国内外の参考辞書類の使用と文献検索コーナーが設けられ、最近の三年間に中国図書18万余冊が閲覧され、中外の参考辞書1.6万冊、検索参考辞書約54種類、データベース60余種類が利用されている。

この三階で私が注目したのは閲覧が高い机の上に本を置いて椅子に腰を掛け行われていたのではなく、低い机の上に本を置き、足をその机の下に伸ばして本を読んでいる姿であった。私の中国体験で初めて目にした光景であった(写真参照)。現代中国では通



南京図書館三階

常の建造物では床は土間そのもので、木材やPタイルを使用してフローリングしている部屋にはほとんどお目に掛かったことがなかった。殆どは椅子の上に腰を掛けて生活していたからである。本当にのんびりと寛いで読書している姿に驚くとともに微笑ましくなるのを感じた次第である。

四階は香港・マカオ・台湾文献、芸術映像資料、民国文献、地方文献など十余種類及び江蘇省政府公開情報資料の特定テーマの文献の閲覧サービスを行っていた。それ以外にこの階には読者の自習室が提供されていた(写真参照)。



南京図書館四階

五階にはインターネットを活用して内外のデジタルデータベース、電子図書、全中国文化教養情報資源を閲覧できるパソコン 250 台を備えた「電子閲覧室」、CD、DVD、BR-DISC 資料を再生して視聴できる設備を備えた「メディア鑑賞室」、新たに複製された古典漢籍 3 万冊、同上マイクロフィルム 1 万リールおよびその部分版、古典漢籍原本とコピーを業務とする「古典漢籍閲覧室」の三室があった。

六・七階は国宝級文献業務区域になっており、国宝級国内外図書文献・外国書・1949 年以降の中国図書の査定とその複製を業務としており、七階には環境が静謐優雅な閲覧室が設けられており、そこで読者が国宝級文献図書類を閲覧することができるようになっていた。

八階は図書館行政管理事務部門のフロアになっていた。

七階から一階まで図書館東壁面を内部から眺めながら下りてきたが、頑丈に組み込まれたパイプに支えられた一面のガラス壁越しに明るい太陽光がさんさんと降り注いでいるように感じた。

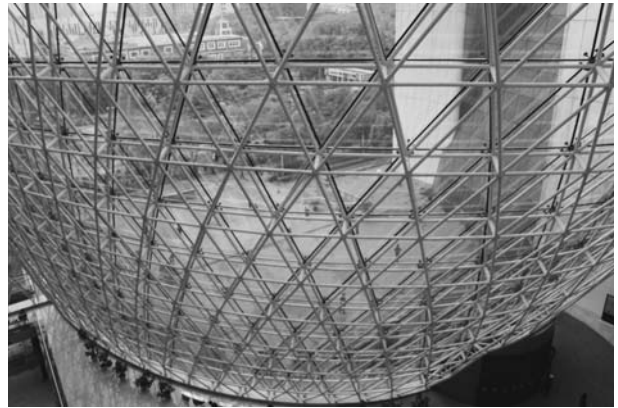
地階にも食堂があるが、私は図書館東に隣接する市民広場の地下にあるスーパーマーケット「カルフル」に行きビールとサンドウィッチを買い、広場のベンチに腰掛けて昼食を摂っていた。

宿舎から図書館への往路は歩いて通っていたが、復路は疲れていたのでは二駅分の地下鉄に乗るかバスを利用するかのを何れかにしていた。

次に南京図書館から頂戴した図書館の公式案内を抄訳したもので南京図書館見聞記の結びとしたい。

.....

南京図書館は江蘇省立図書館で、北京、上海に次ぐ国家一級の図書館でもある。



南京図書館東壁面内側

その前身は 1907 年に清朝両江総督端方により創立された江南図書館は辛亥革命後幾度となく館名を変更したが、1927 年に民国政府が「大学区制」を実施したことにより、『第四中山大学国学図書館』と名を改め、1928 年にはさらに『国立中央大学国学図書館』と改名されたが、1929 年に「大学区制」が廃止されたために『江蘇省立国学図書館』と命名され、江蘇省教育庁の直属になり、新中国誕生当初は華東軍政委員会の文化部の指導を受け、1952 年に『国立南京図書館』に併合された。

他方 1933 年に南京国民政府教育部は蔣復璁に『国立中央図書館』の建設計画を委託して建設された。しかし日中戦争により 1937 年に重慶へ遷都し 1946 年に南京に復帰し、1948 年に蔣復璁は国民政府の命により館蔵の貴重書 13 万冊を台湾に移送したが、1949 年 5 月に中国共産党の南京市軍事管制委員会が接収して管理に当たった。

1950 年 3 月 19 日、南京国民政府の『国立中央図書館』は新中国「中央政府文化部（省）令」により正式名称が『国立南京図書館』となり、中央政府文化部文物局と華東軍政委員会文化部の二重の指導を受けることになった。

しかし 1954 年に中央政府による「大行政区制」がすでに撤廃され同時に江蘇省が省として設けられたために、省立クラスの図書館が必要とされるので、中央政府文化部は同年 7 月に『国立南京金図書館』を『南京図書館』と改名され、江蘇省文化庁に直属してその指導を受けて現在に至っている、歴史が長く、文化的蘊蓄の深遠な図書館である。

現在では江蘇省文献データ資源の保全とサービス・センターとして、南京図書館全体の館蔵資料はすでに社会科学と自然科学<sup>2)</sup> 各領域を包括するデータ資源体系を形成している。2013 年度末現在、南京

図書館所蔵書籍の総数は1100万冊を超え、僅差で(北京)国家図書館と上海図書館に迫り、全国第三位を占めている。中でも貴重書14万冊を含む古書漢籍は160万冊、民国時代の文献70万冊がある。館所蔵の唐代写本、遼代写経、宋・元・明・清歴代の写本刊行貴重書が多数あり、その中から454種類がすでに国家貴重漢籍リストに選ばれている。

南京図書館新館は南京市中心の大明宮地区にあるが、1998年に立案され、2002年に着工し、2006年に落成して一部が公開され、2007年に全面的な公開が実現された。新館の敷地面積は2.52万平米、建築面積は7.87万平米、建設投資額は4億人民元、館内に読者座席が3,000席、情報端末4000余箇所設けられている。機能の配置においては新館では主として「利用」を主とし、読者を中心とする理念で、開架を主要とするサービス方式により、所蔵、貸借、閲覧、情報提供、管理の一体化を実現させている。

グランドフロア(地下一階)には展覧会ホール、多機能ホール、学術報告ホール、六朝遺跡展示区域などの展覧講演活動区域になっている。一階は総合サービス区域及び総合閲覧室、少年児童図書貸借閲覧室、視覚障害者図書貸借閲覧室、江蘇省作家作品館があり、二階では図書館外貸借手続きが行なわれ、三階は一般書閲覧区域、四階は専門書閲覧区域、五階は図書デジタル化区域と古書漢籍研究区域になっている。六・七階は書庫区域、八階が行政事務区域になっている。

南京図書館新館は全面的な無料公開と365日対外サービスを実行して、閲覧、館外貸借、情報提供・コンサルティング、データベース検索、文献転送、国内相互貸借、巡回移動サービス、講座、展覧、育成訓練および読者活動などを行っている。また図書館専門業務のための『新世紀図書館』(月刊)、『江蘇図書館の窓』(隔月刊)および情報や参考資料を提供する『信息傳真』などの定期刊行誌を編集出版しており、南京図書館ネットワークを構築している。

### 金陵図書館

金陵図書館は実は今年の南京公演の会場になると知った時に知った図書館である。宿舎は上述したように地下鉄の「珠江路」駅近くにあるので、金陵図書館とは地下鉄の駅数にして10駅も離れているので、地下鉄に頼らざるを得ない。まず一号線の「珠江路」で乗車して五つ目の駅の「中華門」駅で十号

線に乗り換え、五つ目の「オリンピック中心(オリンピックセンター)」駅で下車したのち、オリンピックセンター公園と長江の間にある広い「濱江公園」を通り抜けると寫真に見られるように右手奥に基督教会の高い尖塔と左手前に平べったい直方体と半球状の屋根らしきものが見える。その左手前に見える建造物が金陵図書館である。

そしてその半球状体の屋根の下に今回の南京公演の公演会場となる700席を有する「金陵図書館報告廳(講堂)」があった。

図書館館内を参観すると一階中央吹き抜け大ロビーの西側では図書貸借閲覧の諸手続き事務を取り扱い、北側には開架式書架に各種図書30万冊が貸借閲覧できる90席が配置され、西側にはCD、DVD、BR-DISCが貸借視聴できる部屋があり、西南側には視覚障害者用閲覧室と少年児童図書貸借閲覧室があり、東南側には新聞雑誌閲覧室が設けられていた。

二階中央吹き抜けの北側はインターネットカフェ形式の98席の端末機が設置された「電子閲覧室」があり、満18歳以上の図書館利用者カード所持者が自由に利用していた。西側にはアート・デザイン・設



金陵図書館遠景



金陵図書館正門



一階吹き抜けロビー

計に関するデジタルソース 10 万余種と外国原版文献 2000 余種が提供される「芸術設計閲覧室」があり、南側は「自習室」、東側は喫茶カフェになっていた。

三階中央吹き抜けの北側は社会科学と自然科学<sup>2)</sup> 図書の閲覧室で座席が 218 席あり、東側には政府公開情報、法律文献、特別参考辞書類の閲覧室があり、南側には「定期刊行物貸借閲覧室」があり、西側はすべて書庫になっていた。

四階中央吹き抜け西側は書庫、北側と東側はすべて事務室になっている。しかし南側には館蔵の特色ある地方文献、歴史文献、有名人秘蔵文庫の 10 万余冊、中でも南京地方文献約 9000 種、館蔵の綾装古典漢籍 50000 余冊があり、これらの閲覧サービスを提供するために閲覧座席 100 席を設けた「特蔵閲覧室」があり、その東端に文化、教育、文学、漫画、歴史、地理など各方面にわたる日本語専門図書 1000 余冊、日本語定期刊行物原版 16 種、日本の最新音楽 CD、DVD 特集資料数百点があり、さらに南京市と姉妹都市関係を結んでいる名古屋市立鶴舞中央図書館から寄贈された日本語専門書 2000 余冊がガラス入り戸棚式書架（写真参照）に収められていた。ただ



名古屋市立鶴舞中央図書館寄贈の日本語専門書

ここ二三年来の日中関係により、利用者数は残念ながら減少しているとのことであった。

以下に図書館からいただいた公式案内を抄訳したもので金陵図書館見聞記の締め括りとさせて頂くことにしたい。

.....

金陵図書館は南京市立図書館で、1927 年（民国 16 年）6 月 9 日に南京特別市が市立（第一）通俗図書館を創設したが、1928 年 7 月に南京市立第一図書館と改称され、1930 年 9 月には南京特別市立民衆図書館と改名され、孔子廟内に設けられた国子監施設に移転し、1932 年 6 月には民衆科学館と合併され、1933 年 9 月には南京市立図書館と改称された。

1937 年 12 月 13 日、日本軍が南京を占領したのち、放火（一説には砲火）により孔子廟ともども市立図書館も焼却され、図書の大多数が灰塵に帰した。その中には元代初めより晚清革命までに収集して購入した全ての「縉紳録（官吏名簿）」が含まれており、この種の文献資料は歴代官吏制度の変遷過程、人物の経歴の考証に対して非常に高い参考価値を有するものであった。現在の金陵図書館には依然として市立南京図書館時代の蔵書を珍藏しており、それは極めて貴重な歴史的意義を有しており、また今後の南京市立図書館史研究を展開する上で価値ある実質的証拠を提供してくれるであろう。

1952 年、南京市は中央特別市（首都クラス）から江蘇省省都に降格されたが、1958 年、南京市政府は新しい市の図書館の建設計画を決定した。経済的に困難な時期や文化大革命の干渉などを受けたが、図書館から出て長江を行き来して、図書を社会の末端組織、田園地帯、田畑にまで長年にわたり届け続けた活動により、1980 年 10 月、南京市長江路 262 号に図書館が建設、公開された。建築面積は 7300 平米、当初は南京市人民図書館と命名されたが、1984 年 10 月に現在の名称に改められた。

その後、建鄴区樂山路 158 号に新館の建設工事が着手され、2009 年に完成して引き渡され、開館の準備作業に取り組み、2010 年 10 月 18 日に新館公開の式典が執り行われた。図書館の敷地面積は 38641 平米、建築面積は 25125 平米、内部には閲覧者座席 1400 席、報告ホール、多機能ホール、展覧会場、視聴覚室、養成訓練施設、食堂、喫茶室、駐車場などの総合的なサービス施設が設けられている。

2009 年、省クラスに次ぐ都市図書館として、国家

文化部より一級図書館の称号を授与された。また『金陵図書館教壇』は数十年にわたり弛むことなく市民大衆に対して公益性のある知識講座を展開し、図書館が展開しうるサービス領域を広く開拓したことにより、2010年に国家文化部が發布する「群星獎」という文化的サービス領域における政府最高の表彰を光栄にも獲得し、同年6月には国務院により第三期『全国古典書籍重点保護単位』という称号を授与されている。

注

- 1) 中国の大型建造物は欧米方式で「1階」は「0階（グランドフロア：底層・首層：-1層）」、「2階」が「1階（一層）」、「3階」が「2階（二層）」と称していることがよくある。
- 2) 中国では人文科学は社会科学の範疇に包含されている。

(とりい かつゆき 名誉教授)



南京図書館フロアガイド



## 『Global Trade Atlas』—貿易データベースの紹介

後藤 健太

関西大学図書館では2014年4月より、世界の主要国の貿易データが体系的に網羅されているGlobal Trade Atlas (GTA)というオンラインのデータベース(ソフトウェア)の購読を開始した。このデータベースは、米国のGlobal Trade Information Services社の提供するサービスで、世界の主な大学や研究機関で導入されているほか、多くの国の政府や国際的なビジネスを展開する企業などでも積極的に利用されている。

同データベースでは、「商品の名称及び分類についての統一システム(Harmonized Commodity Description Coding System)に関する国際条約(HS条約)」で制定されたHSコードによる商品分類に基づいて、その品目ごとの輸出入データを金額および数量で取得することが可能である。このHS分類は、各国で財を輸出入するときにかかる実行関税率と紐付けられており、上6桁まではHSコードを利用する全ての国との間で共通となっている。

その先のHSコード分類の詳細度(桁数)は国によって異なるが、日本では各商品を9桁、米国では10桁まで分類している。具体的な事例で示すと、例えばHS62という分類(2桁)は「衣類及び衣類付属品(メリヤス編み又はクロセ編みのものを除く。)」という大きな商品品目を括る大分類である。つまり、ニット生地を用いない、織物生地を使用した衣類または衣類付属品、ということになる(ニット生地による製品はHS61分類に含まれる)。この大分類は、例えばさらに次のように細分化されている。

- HS62 から派生する4桁コードの例として、HS6201:織物生地をベースとした衣類・衣類付属品(HS62)の中でも、特に「男子用のオーバーコート、カーコート、ケープ、クローク、アノラック(スキージャケットを含む。)、ウインドチーター、ウインドジャケットその他これらに類する製品(第62.03項のものを除く。)」を指す。

- 上記HS6201から派生する6桁コードの例として、HS6201.11:その上位の4桁コード(HS6201)の「男子用オーバーコート…」の中でも、「羊毛製又は織獣毛製のもの」のみを指す。この6けた分類はさらに次のような、9桁のより詳細な基準に分類される。

- 9けた分類の例、HS6201.11.100:その上位の6桁コード(HS6201.11)の商品群の中でも、「毛皮付きのもの」のみを指し、より詳細な商品レベルへと落とし込まれていく。

GTAは、現時点でこうした詳細な商品品目レベルの貿易データを82ヶ国についてカバーしているが、その当該国のデータは、それぞれの国の税関などといった公的なデータ・ソースから、GTAが独自のオンライン・ソフトウェアを通じて利用者に提供するというものである。こうしたデータは、各国の担当部局のデータベースから直接・個別に取得をすることが可能だし、また多くの国の貿易データは国連統計局の運用するUN Comtradeでも入手が可能である。しかし、こうした個別国のデータを一つ一つとっていくのは多くの手間と時間を要し、幅広い商品コードについて、複数国のデータを複数年にわたってとることは現実的でない。また、国連データベースでは、複数国にわたる比較的大まかな分類の貿易データはとれるものの、詳細な9桁や10桁レベルのHS分類データの一括取得はできず、限定的なデータしかとれない。GTAの特に優れている点は、先ほどの例を用いていえば、たとえば日本が中国から輸入している織物生地をベースとした衣類品(HS62)を、その大分類の下にある9桁コードすべての商品品目の輸入数量および金額を一括で表示・ダウンロードでき、さらにこのデータが時系列でも簡単に取得できる点にある。詳細な品目レベルの輸入金額と数量がわかるということは、当然個別商品レベルの輸入単価(およびその経年変動)に関するデータも



ルレベルでの自由貿易体制の深化、また今日とりわけ顕著である二国間の貿易協定の制定、さらには環太平洋パートナーシップ協定（TPP）や東アジア地域包括的経済連携（RCEP）といった特定地域内の貿易協定・経済連携枠組みの出現で、詳細な貿易データを用いた研究・分析の必要性の高まりがこの背景にあるのかもしれない。ただし、他の大学の当データベースのカバレッジが限られたいくつかの国に限られているのに対し、本学の購読条件は最も包括的なデータベースのすべての国・品目を対象としている。この点は他大学の研究者から大変うらやましがられている点である。グローバル化に対応することはどこの大学でも重要な問題だが、関西大学とし

ては、研究面でこれをリードするという意味でも現在の GTA の包括的な購読を継続してほしい。

注

- 1) こうした研究の一例として、拙著 Kenta Goto (2014) “Vietnam: Upgrading from the Export to the Domestic Market” in Fukunishi, Takahiro and Tatsufumi Yamagata (eds.) *The Garment Industry in Low-income Countries: An Entry Point of Industrialization*, New York and Basingstoke: Palgrave Macmillan, pp.105-131. を参照してほしい。

(ごとう けんた 経済学部教授)

# 新たな歴史資料との出会いを求めて —企業史料統合データベース購入にあたって—

橋 口 勝 利

## 1. 図書館と経済史研究

「図書館にある資料だけで研究してはいけません」これは私が大学院生時代に師から学んだ言葉です。もちろん、この言葉は「図書館にいい資料がない」ということを指した言葉ではありません。今から17年前、私は日本経済史研究を志し京都大学大学院経済学研究科に進学しました。当時、近代日本の綿業を研究することだけははっきりと決めていました。しかし、大学時代に調査活動などを本格的に経験したことの無い私は、研究にどう取り組んでいけばいいのか、まるでイメージできていない状況でした。その時に師から早速頂いたのが冒頭の言葉です。

私は、わけもわからず愛知県の知多半島をひたすら歩きました。知多半島は、近代日本において日本有数の綿織物産地だったからです。

現地の研究者や郷土史家のご助力を得て、私は、愛知県常滑市の木綿問屋瀧田家の経営一次史料にめぐり会うという幸運に恵まれました。大学院に入学して間もない時期にこのような一級資料にめぐり会えたことは今でも本当に幸運だったと感じています。(後になってわかりましたが、私が資料にアクセスできるように、師がとりなしてくれていたのです)

そして私は、早速、その経営帳簿『金銭出納帳』をひたすらパソコンのエクセルに入力し続ける作業を約1年半続けました。師から叱咤激励を受けた日々は今でも忘れることができません。

しかし、この資料の入力が進んでいく中で一つの不安も浮かんできました。確かに一級の経営一次史料であったとしても、そこから得られる情報だけでは、瀧田家の経営活動や綿業界における位置づけがわかりにくいという問題でした。今から考えれば、至極当然の問題なのですが、研究者として駆け出しの私には、そんな簡単な問題にすら気づかなかったのです。

そんな折、師から「はい、これ」という一言で受け取ったのが雄松堂刊行のマイクロフィルム版『営

業報告書集成』の目録でした。この目録を見た時の驚きは今でも忘れられません。私が研究対象とする綿業だけでなく、鉄道業、石炭業、銀行業など近代日本を牽引した産業をほぼすべて網羅していたからです。中には、私が研究対象とした知多地方において活躍した「中七木綿株式会社」や「北村木綿株式会社」の姿を見つけることができました。そして瀧田家を始め、知多の綿業関係者にとって大口の取引相手であった「服部商店」の営業報告書も収録されていたのです。私は慌てて、京都大学の図書館で営業報告書のマイクロフィルムを探し出し、そのデータ入力、分析を通じて、知多産地綿織物業の事例分析を重ねていったのです。その際には、各企業が知多地方を舞台に、綿糸の仕入れや綿布の販売で取引活動していくさまが生き生きとイメージできたことを覚えています。営業報告書の分析手法については、大学院入学当初から、山口和雄編『日本産業金融史研究』3部作をテキストに、師から徹底的に教えていただいていたことが大いに役立ちました。後から考えれば、図書館にある資料を利用するときのために、師はしっかりと私にトレーニングしてくれていたのです。

このマイクロフィルム版『営業報告書集成』は本学図書館を始め、いくつかの大学図書館で所蔵されています。

もし大学院に入学して、いきなり図書館にあるマイクロフィルム資料を教えてもらっていたら、あのときほど活用できていたか、今でも自信がありません。まずは自分の足で資料を探し、分析を進めてから、図書館の資料を利用する。少なくとも当時の私には、そのように指導すべきと師は考えてくれたのだと思います。

## 2. オンラインデータベースの登場

それから10数年。

関西大学で研究者活動に取り組む際、マイクロフ

フィルム版『営業報告書集成』は私にとってなくてはならない資料群となりました。営業報告書は、近代日本の歩みを知る上で極めて重要な情報を提供してくれるからです。企業分析を行う際に、重要な分析事項となるのは、資産や負債の動き、そして借入金などを含めた資金調達です。もちろん、各期の概況報告は、その企業の状況だけでなく当時の経済状況を知る上でも重要な情報源ともなります。加えて、私にとって興味深いのが役員や株主構成です。例えば、今から100年前の愛知県の紡績企業の株主構成をみれば、その地域の有力な資産家やそれを基軸とするグループ構成がわかります。企業によっては、東京や大阪の資産家がわざわざ愛知県や三重県の紡績資本に出資するなど極めて広範囲な活動が展開していたことを教えてくれます。

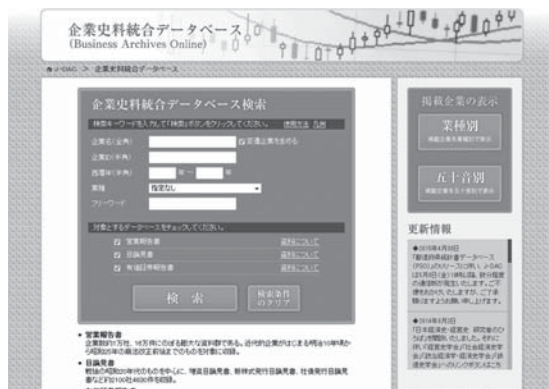
近代日本を牽引した大都市の資産家、そして地域の資産家の活躍に強い魅力を感じた私は、営業報告書を求めて、本学図書館に止まらず、他大学の図書館、資料館、場合によっては郷土史家に至るまで各地を歩きました。今では、一次史料収集と合わせて研究の醍醐味を味あわせてくれる調査活動となっています。

そして、時代は変わりました。

各地を回らねば得られなかった資料がオンラインで手に入れられるようになったのです。

数年前、これだけの資料群がオンラインで検索できるというお話を雄松堂書店から伺った時は、「本当にそんなことが可能になるのか」と信じられなかったことを思い出します。

このたび関西大学が購入したデータベース「企業史料統合データベース(Business Archives Online)」は、その量と範囲において極めて画期的な内容を誇ります。その内容を簡単に紹介いたします。



(企業史料統合データベース検索画面)

### 3. オンラインデータベースの内容

データベースの内容は、営業報告書、目論見書、有価証券報告書と大きく3つに分けられます。

まず、営業報告書は、先述したように、財務諸表をはじめ営業の概況などが記述され、日本の近現代における企業の経済活動の実態を知る上で最も基礎的な資料です。次に目論見書は、企業の事業計画・見通しについて詳細に記述され、数期にわたる比較財務諸表が掲載されている画期的な資料です。

本学図書館ではマイクロフィルム版「営業報告書集成」の第1集から第8集までを積極的に収集し所蔵資料としてきたものの、いまだ第9集は収集できていませんでした。加えて、本データベースでしか参照できない第10集を収録されているなど、これまでにない充実度がわかります。

次に有価証券報告書は、東京大学経済学部で所蔵される資料を底本とし1961年から1985年までの約2,400社の有価証券報告書を参照できます。この有価証券報告書は昭和24年、投資家保護の立場から提出と公開が義務付けられた、「営業報告書」の後身ともいべき資料で、東京大学経済学部所蔵で、原則として東証1部上場企業のものを対象として収録しています。この有価証券報告書を駆使することで、以下の情報を手に入れることができるようになっています。

(1) 企業情報：企業の概況（企業の沿革、事業の内容など）、事業の状況（業績、課題、経営上の重要な契約、研究開発活動など）、設備の状況（設備投資など）、提出会社の状況（株式の総数等、新株予約権等の状況、配当政策、株価の推移など）経理の状況（連結財務諸表と財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書など）、株式事務の概要

(2) 提出会社の保証会社等の情報：保証会社情報・保証会社以外の会社の情報・指数等の情報

(3) 監査報告書：独立監査人（公認会計士または監査法人）の監査報告書（連結と単体二期分）

このように広く網羅的な資料を、図書館に行かなくてもオンライン上で閲覧・利用することができる。これは大学院生時代には決して考えられないことでした。マイクロリーダーがなくても、プリントアウトしなくても、インターネットに繋がったパソコンさえあれば、営業報告書を利用できる時代が来たの

です。資料へのアクセスが飛躍的に便利になった今、本学の経済史の研究水準は飛躍的に向上することが期待できます。

#### 4. これからの経済史研究 ― より一層の創造力を

これほどの資料群が関西大学図書館で閲覧・利用できるようになった今、我々経済史研究者だけでなく、修士論文や卒業論文で経済史研究にチャレンジする学生たちにも、ぜひ積極的に活用してほしいと願います。

資料がオンラインで閲覧できるようになり、資料収集の手間は大いに省けました。移動や印刷のコストや時間も大いに削減されることでしょう。恐らく資料のオンライン化の流れは今後も加速度的に進んでいくものと思いますし、研究の進展には歓迎すべきことです。

ただし、我々研究者はその利便性を前に今一度、襟を正す必要があるように感じます。

もちろん、図書館の中だけで研究すれば良い、ということにはなりません。企業の歩みを克明に記し

たデータや情報を得られるからこそ、そこから新たな歴史像を創造しなければなりません。そのためには、やはり現場へと足を運び、地域の息吹や人との出会いを通じてそのイメージを裏付ける調査活動が生きてくると思うのです。

師は今でも私によく言います。

「資料との出会いを大切に下さい」と。

自分なりの問題意識をもって、熱意をもって現場に足を運んでいけば、資料と出会うことができる。その資料との出会いを大切にこそ、いっばしの研究者になれる。

営業報告書史料とオンラインで繋がった今だからこそ、新たな出会いを求めて現場へと歩き出すことが必要ではないでしょうか。そう考えれば、オンライン上で出会う営業報告書は、新たな資料収集へのきっかけを与えてくれる。そんな気がするのです。

(はしぐち かつとし 政策創造学部准教授)

# 企業の歴史をたどる

## — ProQuest Historical Annual Reports の紹介 —

西村成弘

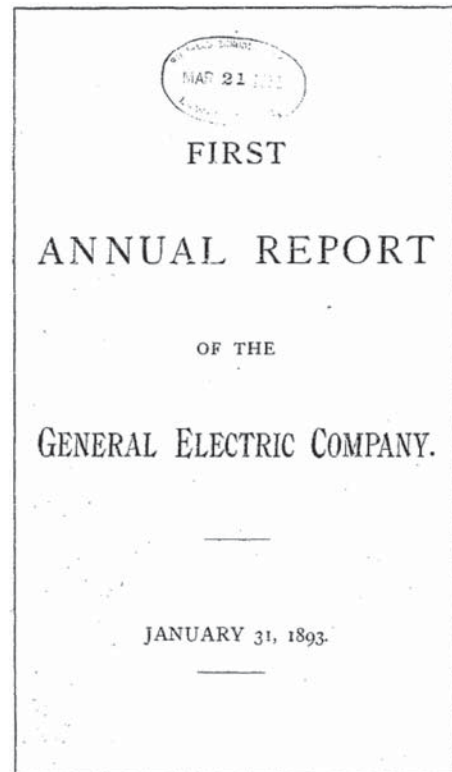
### 1. ビジネス・ヒストリー

筆者は、経営史（ビジネス・ヒストリー）という研究領域を専門としており、商学部で「経営史」講義を担当している。経営史は、広く経営に関する歴史について研究する学問分野である。その特徴は、隣接分野である経済史が、一人当たり GDP や賃金、労働生産性といった指標で市場の成長、一国経済や地域経済の盛衰をマクロ的に論じるのに対して、経営史は企業経営や企業家（アントレプレナー）といったミクロな視点から、経済や社会の来し方行く末を考えるというところにある。

経営史の対象は幅広いが、筆者は、なかでも大企業の展開を通して歴史の流れを読むことに関心を持っている。「大」企業というと、「大」「中」「小」といったあいまいな量的規定性で区別しているようでもわかりにくいので、経営史では大企業を「近代企業」として定義し、それ以前の「近代的でない」企業と区別している。近代企業概念を最初に提起したのは、アメリカの経営史家アルフレッド・D・チャンドラー・ジュニア（Alfred D. Chandler, Jr.）で、彼は近代企業を「複数の事業単位によって構成され、階層的に組織された俸給経営者によって管理される企業」（鳥羽欣一郎・小林袈裟治訳『経営者の時代』東洋経済新報社、1979年）であるとした。つまり、近代企業とは、内部に製品の製造や販売といった複数の機能を合わせもち、トップ・マネジメント（取締役や社長）、ミドル・マネジメント（部長など中間管理職）、ローワー・マネジメント（班長など）といったピラミッド構造をした管理組織によって運営されている会社（このような会社は、現在の日本でも一般的な存在である）のことであるが、このような企業はアメリカにおいては（そして世界的にも）1870年代までは全く存在していなかった。しかしその後30年のうちに近代企業がアメリカで族生し、大企業を中心とする社会へと変化した。それ以前の家族経営や小経営を中心とした社会の、大企業を中心とす

る社会への変化は、人類史的な出来事であった。チャンドラーが言うように（アダム・スミスのな）神の見えざる手によって資源配分がなされていた社会から、大企業のトップ・マネジメントという見える手によって資源配分がなされる社会へと変化したのである（先に挙げたチャンドラー『経営者の時代』の原著タイトルは *Visible Hand* である）。

その後、大企業（近代企業）は、アメリカはもとより、ヨーロッパ諸国や日本でも形成され、今日のグローバル企業へと進化を遂げている。もちろん、中小企業やスタートアップ企業など、大企業でない企業も経済のなかで重要な役割を果たしていることは間違いないのだが、やはり20世紀の歴史的な世界経済の成長の中心にあってそれを主導したもの、科学技術の発展やイノベーションを強力に推し進めたものは、大企業であった。ここに、大企業に焦点を

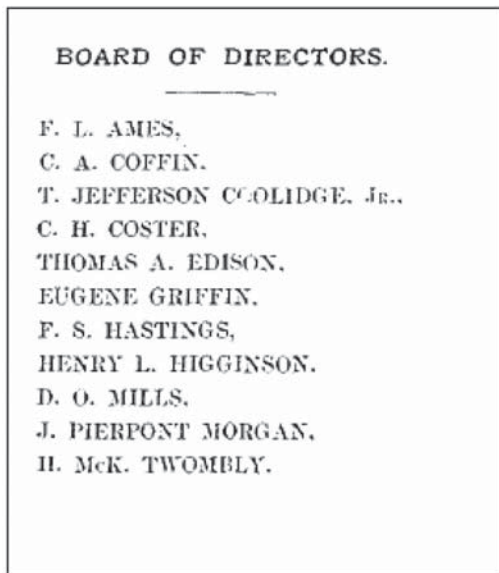


（GE社の年次報告書）

あててビジネス・ヒストリーを研究する面白さがあると筆者は考えている。

## 2. 基礎的資料としての年次報告書

ビジネス・ヒストリーは、先述のように、企業というミクロな視点から経済の発展を分析するものであるから、何よりもまず企業に焦点をあてた分析を行わなければならない。経営史研究では、アメリカ企業やイギリス企業が管理する自社内の文書館や、経営関連史料を広く収集・保存する大学や公共博物館・資料館にて一次資料調査を行い、歴史を発掘するのが主流である。そして、そのような作業を行う前に、最初の作業として行うのが、年次報告書（Annual Report）の調査である。日本企業を対象として同様の調査を行う場合は、有価証券報告書や営業報告書の分析がこれにあたる（関西大学図書館では「企業資料統合データベース(Business Archives Online)」が供用されており、これで日本企業の営業報告書が調査できる）。年次報告書の調査で研究対象企業の大まかな経営の流れや経営者を把握し、研究の焦点を絞り、そこから深掘りしていくのである。



(GE社の1982年度年次報告書。取締役一覧にエジソンの名前を見つけることができる)

年次報告書は、毎年（あるいは毎期）作成され、公開される。報告書には事業の概要・成果（たいていは社長による株主へのレターとして書かれている）、その年に発売された新製品、新サービス、新事業や研究開発プロジェクトの動向、従業員や労務管理の動向、関連企業、財務諸表、そして取締役やト

ップ・マネジメント、ミドル・マネジメントのプロフィールが紹介されている。このような基本項目はいずれの年次報告書にも記載されているので、これを一定期間にわたって通読し整理すると、経営の変遷が克明に理解できる。

## 3. ProQuest Historical Annual Reports

筆者も、これまでアメリカ企業経営史に関する研究を行うに当たって、主要企業の年次報告書を利用してきた。年次報告書は、およそ2000年以降は、各企業のホームページに掲載されており、誰でもダウンロードすることができる。むしろ企業は、IR情報（投資家向け情報）として年次報告書を積極的に公表して事業内容をアピールし、投資家を自社の株式の購入に導こうとしている。しかし、2000年以前の年次報告書を調査しようとする場合は、各社に手紙を書き報告書を送ってもらうか、大学等が所蔵している資料を調査する必要があった（長期間にわたって年次報告書を収集・所蔵し閲覧に供している大学は非常にわずかである）。あるいは、より古い年次報告書については、マイクロ資料「Annual Reports of the Major American Companies」を利用することもできた。このマイクロ資料は関西大学図書館にも所蔵されており、1986年までの年次報告書を見ることができる。1986年の目録を見ると、703社のアメリカ企業の年次報告書を調査することが可能である。筆者も、大学院生時代から、このマイクロ資料を利用して研究を進めてきた。

今回、関西大学図書館が購入した「ProQuest Historical Annual Reports」は、上記のマイクロ資料に含まれているアメリカ企業の年次報告書をPDF化し、テキスト検索できるようにした包括的データベースである。コンテンツの概要を見ると、このデータベースは800社以上のアメリカ企業の年次報告書を網羅しており、なかでも主要企業は160年以上にわたり長期的に継続して年次報告書が蓄積されており、最も古いものでは1844年の年次報告書までを収録しているとされている。比較できるデータがないので正確でないかもしれないが、このデータベースが収録している年次報告書の範囲は、上記のマイクロ資料とほぼ変わらないと思う。しかし、なによりもこのデータベースは、資料がPDF化されテキスト検索できる点に最大の優位性がある。これまでの筆者の研究では、特定テーマに関係するアメリカ

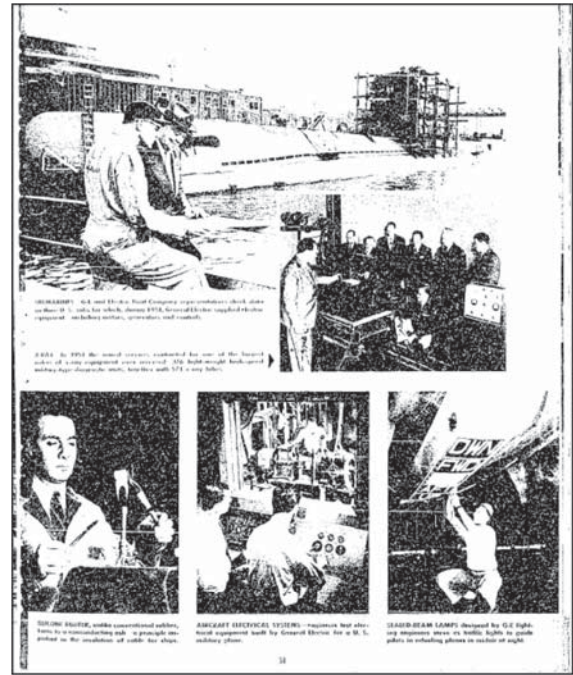


企業の資料を、一社ごとにマイクロ・リールを見ながら調査していたが、どの企業のマイクロ資料を調査するかは、ある意味、勘に頼っていた。というのもマイクロ・リールが企業ごとに編集されており、かつ内容検索の手段もないからである。しかしテキスト検索できるようになると、分析対象とすべき企業が検索結果からわかるようになる（検索語はマーカー付きで表示される）。また、特定のキーワードから企業横断的な検索もでき、非常に使い勝手が良い。これはアメリカ企業経営史の研究を前進させる、非常に有意義なデータベースであると言えよう。

筆者は、関西大学の在外研究員としてロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）に滞在していた2012年頃、このデータベースを利用した経験がある。ロンドンの研究室で作業していたとき、いくつかの事項を確認するため、アメリカ企業の年次報告書を調査する必要が出てきた。そのとき、LSE図書館のオンライン資料の中にこのデータベースを見つけた。当時、このデータベースはLSEだけが導入していたのではなく、ロンドン地域にある大学が共同して契約・導入しており、LSEの図書館IDでこれを利用できたように記憶している。世界各地からやってくる学生が、このような豊かなデータベースに容易にアクセスすることができるというのは、さすがにグローバル都市にある世界一流の大学だと感じていたので、そのようなデータベースが関西大学図書館にも入ると聞いた時には、非常にうれしく思った。

#### 4. 企業の進化と年次報告書

長期にわたって年次報告書を調査・分析していくと、さまざまな発見がある。なかでも、年次報告書の記載内容の変遷は、ある意味非常に興味深い。先のページにはゼネラル・エレクトリック（GE）社の第1回目の年次報告書（1892年の報告書）を掲載しているが、そこには取締役会メンバー、社長による事業の総括のほかに、各種資産の状態が訥々と記載されている。およそ第二次世界大戦までの年次報告書は、次第に記載内容が充実し、詳しい事業の内容や経営課題についても述べられるようになる。じ



（GE社の1951年度年次報告書）

っくり読めば黄金の1920年代、世界恐慌、そして世界恐慌の時代に、それぞれどのような経営課題に挑戦していたかが明らかになる。

しかし、戦後になると年次報告書の体裁がガラッと変わる。それまでの年次報告書は、ほぼ文字だけで事業内容を説明していたのであるが、1950年代になると、写真が多用されるようになる。大戦後、アメリカは唯一の経済大国の地位にあり、その企業は多くの資源を原子力やジェットエンジンなど新しい技術開発へと投資し、それを株主や社会一般にアピールした。この時代の報告書はいずれも、自信に満ち、技術を誇り、そして世界を先導する気概にあふれているように見える。体裁や編集方針を観察するだけでも、まだまだ発見がありそうである。

年次報告書の変遷は、企業経営の進化を示している。グローバル経済が深化し、グローバル企業が世界を牽引している現在、その来し方行く末を知ることがますます求められているように思う。ビジネス・ヒストリー研究の大きな武器として、このデータベースが大いに活用されることを期待したい。

（にしむら しげひろ 商学部教授）

# 平成26年度基本図書購入リスト

1 山一証券株式会社

第1期 第9集、第11集  
第2期 第1集

[平成19年度から継続的に所蔵している「山一証券」に関する資料。今回含まれるものは、小池銀行・山一合資会社資料、戦前期の経費・決算に関する資料や、秘書室資料、社内報『山びこ』、「経営企画室が保有していた文書等である。今年度の購入により、関西大学図書館は、第1期～第2期第1集まで所蔵することとなった。]

3 横濱正金銀行 マイクロフィルム版

第8期 南方(1)  
第9期

[明治13年外国為替・金融の専門銀行として誕生し、以後67年間に渡り波乱と激動の時代を歩んだ横濱正金銀行の歴史を語る未公開行内資料のコレクション。今年度の購入により関西大学図書館は当コレクションの第1期～第9期を所蔵することとなった。]

2 The Japan Times Archives【昭和（戦前、戦中、戦後占領期）セット】

[日本で最も長い歴史を持つ英字新聞であり、世界の政治情勢、国内の政治・経済・社会情勢、教育情勢等幅広い分野に関する詳細な情報を記録した基礎的資料である。今年度の購入により、関西大学図書館は、1926（昭和元）年～1955（昭和30）年までの記事データを提供できることになった。]



[1987年3月22日付 The Japan Times (創刊号)]

# 図書館自己点検・評価について

平成26年度

## □ 目 次 □

自己点検・評価関係資料

- 1 基礎データ（平成26年度）…………… (1)
- 2 平成26年度図書館自己点検・評価委員会名簿…………… (17)
- 3 関西大学図書館自己点検・評価委員会規程…………… (18)

# 自己点検・評価関係資料

## 1 基礎データ（平成 26 年度）

(1) 入館者に関する統計
a 過去 5 年間の館別・月別開館日数
b 館別・所属別入館者数および 1 人当たり平均入館回数
c 館別・月別・資格別入館者数および 1 日当たり平均入館回数
d 時期別・時間帯別総入館者数および 1 日当たり平均入館者数（総合図書館）
e 地域市民の図書館利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）
(2) 図書資料の利用に関する統計
a 館別・月別図書利用者数および利用冊数
b 月別入庫検索者数（総合図書館）
c グループ閲覧室利用状況（総合図書館）
d 文献複写サービス
e 図書館間相互利用件数
f 参考業務（総合図書館）
g 利用指導
h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル
i 文献・情報データベース検索回数
j キャンパス間相互利用件数（予約取寄せ）
k 利用者用パソコン設置台数
(3) 蔵書に関する統計
① 収書状況
a 図書資料の所蔵数（平成 26 年度末現在）
b 過去 5 年間の図書の受入数
c 図書資料異動状況
d 雑誌・新聞受入種類数
② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）
③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）
④ 図書費執行額 5 年間の推移
(4) その他関連統計等
① 図書館職員
② 学生の閲覧座席数（平成 27 年 4 月 1 日現在）
③ 10 年間の展示会テーマと会期
④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

(1) 入館者に関する統計

a 過去 5 年間の館別・月別開館日数

館	月	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合図書館	平成 22 年度	29 (4)	30 (7)	29 (4)	30 (5)	17 (0)	26 (2)	30 (6)	26 (5)	25 (4)	26 (5)	16 (0)	19 (0)	303 (42)	
	平成 23 年度	29 (4)	30 (7)	28 (3)	30 (6)	18 (0)	24 (2)	30 (6)	26 (4)	25 (5)	27 (5)	17 (0)	21 (0)	305 (42)	
	平成 24 年度	30 (6)	31 (7)	29 (4)	31 (6)	19 (0)	25 (2)	31 (5)	26 (4)	25 (5)	25 (4)	16 (0)	20 (0)	308 (43)	
	平成 25 年度	30 (5)	31 (7)	30 (5)	31 (5)	19 (0)	25 (3)	31 (5)	26 (4)	25 (5)	26 (4)	16 (0)	20 (0)	310 (43)	
	平成 26 年度	30 (5)	31 (7)	30 (5)	31 (5)	17 (0)	27 (3)	30 (4)	26 (5)	26 (4)	26 (4)	17 (0)	19 (0)	310 (42)	
高槻 キャンパス 図書館	平成 22 年度	25	23	25	25	14	21	24	21	20	21	16	19	254	
	平成 23 年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	21	258	
	平成 24 年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260	
	平成 25 年度	25	24	25	26	15	21	26	22	20	22	16	20	262	
	平成 26 年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261	
ミューズ 大学図書館	平成 22 年度	22	23	25	25	14	21	24	21	20	21	16	19	251	
	平成 23 年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	21	258	
	平成 24 年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260	
	平成 25 年度	25	24	25	26	15	21	26	22	20	22	16	20	262	
	平成 26 年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261	

堺キャンパス 図書館	平成 22 年度	22	23	25	25	14	21	24	21	20	21	14	11	241
	平成 23 年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	20	257
	平成 24 年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260
	平成 25 年度	25	24	25	26	15	21	26	22	20	22	16	20	262
	平成 26 年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261

注1 ( )内は授業期間中の日曜・祝日開館日数で内数。高槻・ミュージズ・堺の各図書館は、日曜・祝日は休館。

注2 夏季一斉休業期間中の休館 8月11日～8月20日

注3 学園祭による臨時休館 11月1日～3日

注4 冬季一斉休業期間中の休館 12月27日～1月5日

注5 入学試験等による休館 2月1日～2月8日、3月2日～3月4日

注6 年度末休館 3月28日～3月31日

注7 暴風警報発令による臨時休館 10月13日(総合図書館)

注8 暴風警報発令による開館時間の変更 10月6日

総合図書館：13:00～22:00

高槻キャンパス図書館・ミュージズ大学図書館・堺キャンパス図書館：13:00～20:00

#### b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数

所属		館	総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミュージズ大学図書館	堺キャンパス図書館
学部 学生	法 学 部	入 館 者 数	109,003	1	197	119
		平均入館回数	35.4	0.0	0.1	0.0
	文 学 部	入 館 者 数	96,958	0	27	37
		平均入館回数	29.0	0.0	0.0	0.0
	経 済 学 部	入 館 者 数	82,739	2	42	28
		平均入館回数	27.1	0.0	0.0	0.0
	商 学 部	入 館 者 数	77,663	7	23	167
		平均入館回数	24.9	0.0	0.0	0.1
	社 会 学 部	入 館 者 数	77,956	5	56	29
		平均入館回数	22.6	0.0	0.0	0.0
	政策創造学部	入 館 者 数	44,667	4	41	23
		平均入館回数	28.4	0.0	0.0	0.0
	外国語学部	入 館 者 数	14,402	0	20	2
		平均入館回数	19.9	0.0	0.0	0.0
	人間健康学部	入 館 者 数	2,199	2	21	23,389
		平均入館回数	1.5	0.0	0.0	16.4
	総合情報学部	入 館 者 数	1,283	28,314	1,359	107
		平均入館回数	0.6	12.8	0.6	0.0
	社会安全学部	入 館 者 数	1759	12	28,725	5
		平均入館回数	1.5	0.0	25.1	0.0
システム理工学部	入 館 者 数	55,217	0	76	3	
	平均入館回数	23.9	0.0	0.0	0.0	
環境都市工学部	入 館 者 数	31,193	0	28	6	
	平均入館回数	20.8	0.0	0.0	0.0	
化学生命工学部	入 館 者 数	47,496	0	24	8	
	平均入館回数	31.4	0.0	0.0	0.0	
学 部 合 計		入 館 者 数	643,205	28,349	30,639	23,923
		平均入館回数	22.5	1.0	1.1	0.8
大学院学生		入 館 者 数	43,841	874	926	283
		平均入館回数	25.0	0.5	0.5	0.2
専任 教職員	大 学 教 員	入 館 者 数	5,601	403	640	234
		平均入館回数	7.9	0.6	0.9	0.3
	高 中 幼 教 諭	入 館 者 数	33	0	10	1
		平均入館回数	0.2	0.0	0.0	0.0
	事 務 職 員	入 館 者 数	1,746	54	99	50
		平均入館回数	3.4	0.1	0.2	0.1
上記を除く教職員		入 館 者 数	10,784	275	604	326
校 友		入 館 者 数	19,060	35	1,715	250
そ の 他		入 館 者 数	17,374	511	3,950	426
合 計		入 館 者 数	741,644	30,501	38,583	25,493

注1 平均入館回数は、入館者数を利用対象者数(平成26年5月1日現在)で割った、一人当たりの数値である。

注2 その他は、科目等履修生や聴講生、協定大学(関西学院・同志社・立命館・大阪府立・大阪市立・早稲田・大阪)の専任教員や大学院学生、他機関からの利用者である。

## c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数

館・資格 月		総合図書館							日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
		学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計			
4		50,555	4,407	1,898	1,705	1,700	60,265	2257.8	341.8	
5		71,474	5,088	2,173	2,594	1,969	83,298	2627.6	406.3	
6		75,346	5,439	2,060	2,584	2,008	87,437	2844.1	459.2	
7		129,036	4,988	1,859	2,335	1,783	140,001	4453.6	1525.6	
8		8,086	1,530	726	1,035	721	12,098	686.8	0.0	
9		23,440	3,085	1,400	1,611	1,424	30,960	1106.3	338.0	
10		59,998	5,290	1,942	1,729	1,956	70,915	2220.8	351.3	
11		53,478	3,905	1,589	1,315	1,597	61,884	2321.2	436.6	
12		53,158	3,871	1,553	1,230	1,389	61,201	2292.3	427.0	
1		97,428	3,707	1,326	1,242	1,434	105,137	3984.8	1272.8	
2		10,450	1,329	753	807	623	13,962	821.3	0.0	
3		10,756	1,202	885	873	770	14,486	762.4	0.0	
合計		643,205	43,841	18,164	19,060	17,374	741,644	2363.3	616.1	
館・資格 月		高槻キャンパス図書館							日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
		学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計			
4		3,338	98	98	6	14	3,554	142.2	-	
5		3,562	96	75	2	53	3,788	157.8	-	
6		3,517	107	69	3	65	3,761	150.4	-	
7		5,431	111	78	6	66	5,692	218.9	-	
8		332	27	22	3	13	397	30.5	-	
9		1,125	52	53	4	28	1,262	60.1	-	
10		2,935	96	94	1	79	3,205	123.3	-	
11		2,234	86	71	0	62	2,453	116.8	-	
12		2,164	83	67	0	55	2,369	107.7	-	
1		3,615	77	56	3	65	3,816	173.5	-	
2		52	25	16	1	6	100	5.9	-	
3		44	16	33	6	5	104	5.5	-	
合計		28,349	874	732	35	511	30,501	116.9	-	
館・資格 月		ミュージズ大学図書館							日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
		学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計			
4		2,691	102	183	130	479	3,585	143.4	-	
5		3,159	93	149	192	454	4,047	168.6	-	
6		3,759	100	163	240	454	4,716	188.6	-	
7		6,791	124	122	258	380	7,675	295.2	-	
8		323	33	55	140	187	738	56.8	-	
9		927	73	122	111	216	1,449	69.0	-	
10		2,473	98	116	165	400	3,252	125.1	-	
11		2,355	66	107	115	227	2,870	136.7	-	
12		2,189	60	106	116	311	2,782	126.5	-	
1		5,014	92	102	113	262	5,583	253.8	-	
2		562	36	62	51	293	1,004	59.1	-	
3		396	49	66	84	287	882	46.4	-	
合計		30,639	926	1,353	1,715	3,950	38,583	147.8	-	

館・資格 月	堺キャンパス図書館							日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計			
4	2,394	37	70	78	75	2,654	106.2	—	
5	2,457	28	86	33	60	2,664	111.0	—	
6	2,311	16	73	20	47	2,467	98.7	—	
7	4,628	25	61	16	51	4,781	183.9	—	
8	130	6	16	5	7	164	12.6	—	
9	697	28	24	6	34	789	37.6	—	
10	2,155	37	83	24	30	2,329	89.6	—	
11	1,906	35	48	9	28	2,026	96.5	—	
12	2,572	28	67	13	20	2,700	122.7	—	
1	4,046	32	46	16	34	4,174	189.7	—	
2	275	7	13	20	22	337	19.8	—	
3	352	4	24	10	18	408	21.5	—	
合 計	23,923	283	611	250	426	25,493	97.7	—	

注1 「教職員」とは上記b表の専任教職員および上記を除く教職員を示し、「その他」とは上記b表の注2に同じ。

d 時別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）

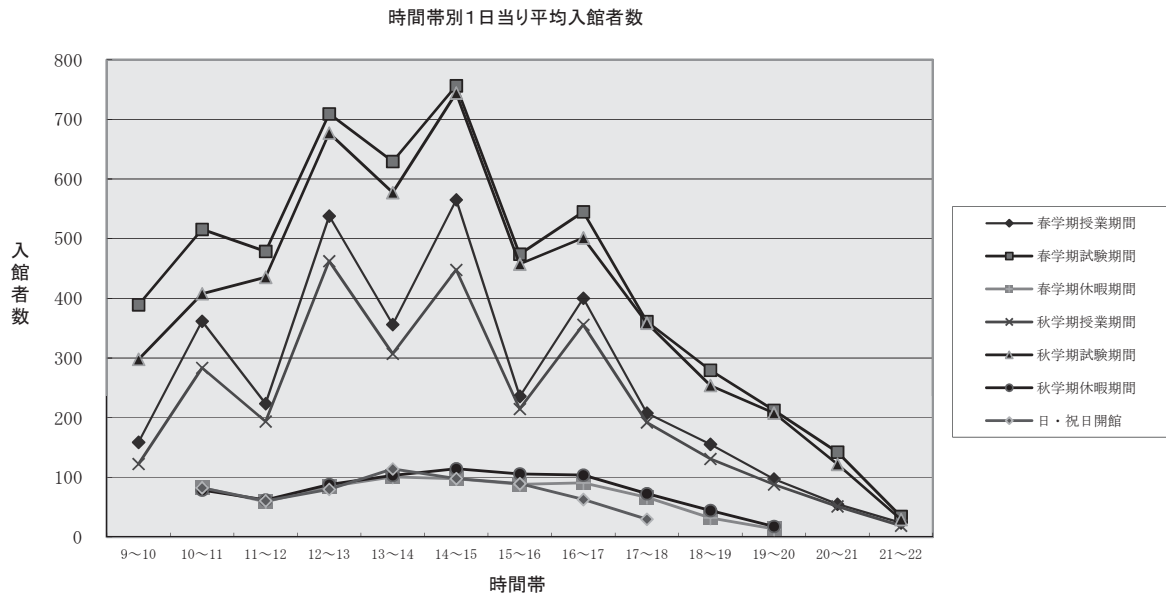
区 分	時間帯	9～10	10～11	11～12	12～13	13～14	14～15	15～16	16～17	17～18	18～19	19～20	20～21	21～22	合 計		
春 学 期	授業期間	総入館者	13,486	30,738	18,995	45,725	30,267	48,041	20,024	34,010	17,645	13,201	8,257	4,662	1,997	287,048	
		1日平均	158.7	361.6	223.5	537.9	356.1	565.2	235.6	400.1	207.6	155.3	97.1	54.8	23.5	3377.0	
	試験期間	総入館者	4,670	6,187	5,745	8,511	7,553	9,077	5,689	6,541	4,332	3,354	2,548	1,706	411	66,324	
		1日平均	389.2	515.6	478.8	709.3	629.4	756.4	474.1	545.1	361.0	279.5	212.3	142.2	34.3	5527.0	
	休暇期間	総入館者	/	3,055	2,182	3,121	3,722	3,610	3,259	3,352	2,455	1,180	501	/	/	26,437	
		1日平均	/	82.6	59.0	84.4	100.6	97.6	88.1	90.6	66.4	31.9	13.5	/	/	2203.1	
	小 計	総入館者	18,156	39,980	26,922	57,357	41,542	60,728	28,972	43,903	24,432	17,735	11,306	6,368	2,408	379,809	
		1日平均	135.5	298.4	200.9	428.0	310.0	453.2	216.2	327.6	182.3	132.4	84.4	47.5	18.0	2834.4	
	秋 学 期	授業期間	総入館者	10,277	23,811	16,254	38,840	25,788	37,605	18,020	29,879	16,126	10,985	7,380	4,302	1,576	240,843
			1日平均	122.3	283.5	193.5	462.4	307.0	447.7	214.5	355.7	192.0	130.8	87.9	51.2	18.8	2867.2
		試験期間	総入館者	3,871	5,301	5,660	8,802	7,505	9,675	5,946	6,518	4,659	3,301	2,699	1,583	380	65,900
			1日平均	297.8	407.8	435.4	677.1	577.3	744.2	457.4	501.4	358.4	253.9	207.6	121.8	29.2	5069.2
休暇期間		総入館者	/	2,909	2,292	3,252	3,818	4,227	3,911	3,833	2,683	1,639	650	/	/	29,214	
		1日平均	/	78.6	61.9	87.9	103.2	114.2	105.7	103.6	72.5	44.3	17.6	/	/	789.6	
小 計		総入館者	14,148	32,021	24,206	50,894	37,111	51,507	27,877	40,230	23,468	15,925	10,729	5,885	1,956	335,957	
		1日平均	105.6	239.0	180.6	379.8	276.9	384.4	208.0	300.2	175.1	118.8	80.1	43.9	14.6	2507.1	
日祝開館		総入館者	/	3,455	2,544	3,350	4,788	4,108	3,750	2,637	1,246	/	/	/	/	25,878	
		1日平均	/	82.3	60.6	79.8	114.0	97.8	89.3	62.8	29.7	/	/	/	/	616.1	
年度合計		総入館者	32,304	75,456	53,672	111,601	83,441	116,343	60,599	86,770	49,146	33,660	22,035	12,253	4,364	741,644	
		1日平均	104.2	243.4	173.1	360.0	269.2	375.3	195.5	279.9	158.5	108.6	71.1	39.5	14.1	2392.4	

注1 春学期 授業期間：4月5日～7月17日 試験期間：7月18日～8月1日 休暇期間：4月1日～4月4日、8月2日～9月20日  
 秋学期 授業期間：9月22日～12月26日、1月6日～1月15日 試験期間：1月16日～1月30日 休暇期間：12月27日～1月5日、1月31日～3月27日

注2 各期間の開館日数および入館者数には、日曜祝日開館に係る数値を含まない。

注3 試験期間とは、図書資料の貸出期間を3日間に短縮した日から試験終了日までを示す。

注4 各小計および年間の時間帯別平均入館者数は開館実日数で除しているが、年間総平均入館者数は年間開館日数で除している。



e 地域市民の図書館利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）

総合図書館	新規	再登録	合計	対象
平成19年度	102	—	102	吹田市在住者
平成20年度	42	50	92	吹田市在住者
平成21年度	95	51	146	吹田市・高槻市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成22年度	60	90	150	吹田市・高槻市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成23年度	59	77	136	吹田市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成24年度	66	89	155	吹田市・池田市・八尾市の在住者
平成25年度	52	101	153	吹田市・池田市・八尾市の在住者
平成26年度	54	99	153	吹田市・池田市・八尾市の在住者

注1 平成17年11月～平成19年3月に図書館一般開放モニター制度を実施し、110名の申込があった。  
 注2 平成22年9月に高槻市民利用が開始されたため、地域市民登録者のうち高槻市在住の3名が高槻市民利用への登録変更を行った。  
 注3 平成26年度の登録者（153名）の内訳は、吹田市149名、池田市3名、八尾市1名であった。

ミューズ大学図書館	新規	再登録	合計	対象
平成22年度	71	—	71	高槻市在住者(地域市民利用から登録変更の3名を含む)
平成23年度	46	19	65	高槻市在住者
平成24年度	68	28	96	高槻市在住者
平成25年度	37	57	94	高槻市在住者
平成26年度	27	64	91	高槻市在住者

注 平成22年9月から高槻市民利用を開始した。

堺キャンパス図書館	新規	再登録	合計	対象
平成24年度	10	—	10	堺市在住者
平成25年度	11	4	15	堺市在住者
平成26年度	6	7	13	堺市在住者

注 平成24年2月から堺市民利用を開始した。



## (2) 図書資料の利用に関する統計

## a 館別・月別図書利用者数および利用冊数

利用者区分		月												合 計	
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
総合 図書館	館内 閲覧	学部学生	429	557	653	584	146	343	691	685	691	438	65	46	5,328
		大学院学生	678	956	1,116	946	326	659	1,248	1,213	1,197	732	125	89	9,285
		教職員	112	125	126	83	49	81	144	128	111	104	30	25	1,118
		その他	222	287	244	168	156	160	331	278	299	222	63	48	2,478
		計	41	55	47	60	31	63	63	61	34	28	15	31	529
	館外 貸出	学部学生	72	113	91	118	47	160	138	159	69	54	27	75	1,123
		大学院学生	178	191	193	216	120	207	238	164	153	139	112	121	2,032
		教職員	412	519	554	669	409	602	735	535	514	421	350	388	6,108
		その他	760	928	1,019	943	346	694	1,136	1,038	989	709	222	223	9,007
		計	1,384	1,875	2,005	1,901	938	1,581	2,452	2,185	2,079	1,429	565	600	18,994
	合 計	学部学生	9,568	13,730	14,947	17,512	2,305	5,481	13,668	12,368	13,200	12,548	1,717	1,297	118,341
		大学院学生	18,096	25,120	27,300	32,359	5,745	11,754	25,292	23,609	26,146	25,304	3,913	2,718	227,356
		教職員	2,701	2,614	2,667	2,260	835	1,542	2,768	2,313	2,126	2,000	722	709	23,257
		その他	5,348	4,919	4,807	4,481	1,905	3,160	5,376	4,436	4,456	4,189	1,492	1,510	46,079
		計	1,485	1,361	1,301	1,205	546	993	1,194	1,023	1,015	944	496	621	12,184
高槻 キャンパス 図書館	学部学生	3,219	2,785	2,611	2,429	1,236	2,241	2,385	2,129	2,222	2,254	1,163	1,347	26,021	
	大学院学生	791	796	835	758	439	680	774	650	607	569	408	435	7,742	
	教職員	1,943	1,830	2,080	1,696	1,171	1,797	1,754	1,437	1,687	1,199	912	1,079	18,585	
	その他	14,545	18,501	19,750	21,735	4,125	8,696	18,404	16,354	16,948	16,061	3,343	3,062	161,524	
	計	28,606	34,654	36,798	40,965	10,057	18,952	34,807	31,611	34,511	32,946	7,480	6,654	318,041	
ミューズ 大学 図書館	学部学生	15,305	19,429	20,769	22,678	4,471	9,390	19,540	17,392	17,937	16,770	3,565	3,285	170,531	
	大学院学生	29,990	36,529	38,803	42,866	10,995	20,533	37,259	33,796	36,590	34,375	8,045	7,254	337,035	
	教職員	368	529	459	418	44	143	410	325	298	297	15	17	3,323	
	その他	701	927	825	812	97	257	707	571	580	604	30	47	6,158	
	計	37	44	54	42	17	16	36	32	39	34	9	3	363	
堺 キャンパス 図書館	学部学生	83	99	125	77	32	29	81	88	91	88	31	8	832	
	大学院学生	27	32	21	29	11	23	28	29	27	16	5	6	254	
	教職員	96	69	59	72	32	36	99	60	86	28	5	11	653	
	その他	56	23	42	54	10	22	42	18	38	41	13	28	387	
	計	155	42	63	83	23	33	49	23	56	62	19	45	653	
総合 図書館	学部学生	488	628	576	543	82	204	516	404	402	388	42	54	4,327	
	大学院学生	1,035	1,137	1,072	1,044	184	355	936	742	813	782	85	111	8,296	
	教職員	300	438	557	842	95	150	458	367	505	852	94	42	4,700	
	その他	585	861	1,103	1,611	261	307	1,048	778	1,177	1,801	206	87	9,825	
	計	43	39	37	30	12	20	26	20	18	25	14	18	302	
総合 図書館	学部学生	71	74	97	62	19	44	44	45	36	63	51	63	669	
	大学院学生	39	26	28	22	9	28	13	16	13	15	20	16	245	
	教職員	89	69	74	45	38	54	30	20	20	38	68	28	573	
	その他	68	102	97	71	32	51	77	62	51	47	38	51	747	
	計	138	181	165	135	66	104	142	130	103	108	82	102	1,456	
総合 図書館	学部学生	450	605	719	965	148	249	574	465	587	939	166	127	5,994	
	大学院学生	883	1,185	1,439	1,853	384	509	1,264	973	1,336	2,010	407	280	12,523	
	教職員	271	349	356	692	37	99	277	274	401	481	34	14	3,285	
	その他	425	633	565	1,306	83	195	495	529	768	854	76	22	5,951	
	計	19	17	4	9	3	14	10	10	5	11	5	2	109	
総合 図書館	学部学生	41	43	7	33	7	30	23	19	13	27	16	4	263	
	大学院学生	39	43	37	20	10	13	34	17	24	17	6	8	268	
	教職員	66	89	76	31	16	39	51	58	44	23	11	16	520	
	その他	61	71	58	43	22	41	45	43	48	35	25	27	519	
	計	107	112	103	63	41	75	70	73	77	62	51	51	885	
総合 図書館	学部学生	390	480	455	764	72	167	366	344	478	544	70	51	4,181	
	大学院学生	639	877	751	1,433	147	339	639	679	902	966	154	93	7,619	
	教職員	271	349	356	692	37	99	277	274	401	481	34	14	3,285	
	その他	425	633	565	1,306	83	195	495	529	768	854	76	22	5,951	
	計	19	17	4	9	3	14	10	10	5	11	5	2	109	

注1 館内閲覧・館外貸出ともに上段は利用者数、下段は利用冊数を示す。

注2 総合図書館の館内閲覧は、書庫図書の出納・取り寄せによる館内閲覧手続を行なったものを示す。

b 月別入庫検索者数（総合図書館）

利用区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合図書館	入庫検索	学部学生	488	853	910	920	214	511	1,059	985	1,126	592	142	136	7,936
	大学院学生	1,028	1,053	1,100	945	334	667	1,193	1,034	902	872	353	346	9,827	
	教職員	778	746	683	673	312	549	609	522	535	500	294	351	6,552	
	その他	35	55	53	74	35	57	70	49	51	31	30	44	584	
	計	2,329	2,707	2,746	2,612	895	1,784	2,931	2,590	2,614	1,995	819	877	24,899	

注1 入庫検索とは、図書館利用規程第13条による書庫図書の利用をいう。  
 注2 「その他」とは、特別の事由により入庫を許可された研究員等を示す。

c-1 3階グループ閲覧室利用状況（総合図書館）

月別	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日平均 (日祝日を除く)
		利用コマ数	69	92	74	55	18	19	50	45	43	24	17		
利用者数	1,200	1,390	1,143	859	241	186	897	757	626	428	174	0	7,901	29.48	

注 授業時間90分をコマ単位としている。

c-2 2階グループ閲覧室利用状況（総合図書館）

月別	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日平均 (日祝日を除く)
		利用コマ数	128	109	193	514	226	278	348	358	188	353	0		
利用者数	518	475	817	1,803	803	1,065	1,599	1,728	724	1,125	0	72	10,729	40.03	

注 1時間をコマ単位としているため、利用コマ数は利用時間を意味する。

d 文献複写サービス

種別・月別	区分	総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	小計
		枚電子式複写	モノクロ	924,038	3,119	
	カラー	12,263	207	128	0	12,598
	マイクロ	5,175	0	0	0	5,175
	合計	941,476	3,326	6,067	2,085	952,954

注1 「モノクロ」はモノクロ複写とモノクロプリントアウトの合計枚数  
 注2 「カラー」はカラー複写とカラープリントアウトの合計枚数

e 図書館間相互利用件数

種別 月別	国内								国外								
	提供				依頼				提供				依頼				
	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	
4月	34	25	232	291	5	34	181	220	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5月	36	59	296	391	13	51	309	373	0	0	0	0	0	0	0	3	3
6月	51	49	277	377	22	68	236	326	0	0	0	0	0	0	0	4	4
7月	53	66	240	359	11	76	226	313	0	0	0	0	1	0	7	8	
8月	27	36	126	189	5	35	134	174	0	0	0	0	3	0	0	0	3
9月	33	48	231	312	11	32	184	227	0	0	0	0	0	0	1	1	
10月	47	89	316	452	13	52	284	349	0	0	0	0	2	0	2	4	
11月	38	48	232	318	8	40	191	239	0	0	0	0	0	0	1	1	
12月	38	61	244	343	11	49	251	311	0	0	0	0	0	0	1	1	
1月	34	55	229	318	13	39	118	170	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	32	33	106	171	12	31	103	146	0	0	0	0	3	1	0	4	
3月	20	50	218	288	5	33	112	150	0	0	0	0	0	0	1	1	
合計	443	619	2,747	3,809	129	540	2,329	2,998	0	0	0	0	9	1	21	31	

注 提供の貸出と複写、依頼の借用と複写の件数にはキャンセル件数を含む。

## f 参考業務 (総合図書館)

(件数)

区 分	学 内 利 用 者				学 外 利 用 者			合 計	
	教職員	大学院学生	学部学生	その他	校 友	諸機関	その他		
調 査	所 蔵	35	29	23	2	4	0	0	93
	事 項	2	1	3	0	5	0	0	11
	そ の 他	4	5	1	1	0	0	0	11
	計	41	35	27	3	9	0	0	115

注1 総合図書館における申込書の提出により処理した件数のみ表す。

注2 学内利用者中の「その他」には、学内他部署からの業務上の問い合わせのほか、科目等履修生および聴講生が含まれる。

## g 利用指導

種 別	区 分	総合図書館			高槻キャンパス図書館			ミューズ大学図書館			堺キャンパス図書館		
		件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数
①	入門ガイダンス「蔵書検索を学ぼう」	105	105	2,408	15	15	285	11	11	290	12	12	317
②	活用ガイダンス「文献のさがし方を学ぼう」	139	139	1,817	7	7	64	20	20	448	5	5	54
③	上位年次生のための入庫ガイダンス	451	193	2,424	1	1	5	10	10	193	2	2	25
④	新入生のための図書館ツアー	9	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—
⑤	図書館プチゼミ	67	—	74	3	—	3	9	—	10	15	—	30
⑥	iPad ガイダンス	81	81	1,937	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注1 件数は実施回数、クラス数は参加したクラス数、人数は参加者のべ人数である。

注2 ①②はクラス・ゼミ・研究室対象、④⑤は個人対象

注3 ③は各図書館で実施した総合図書館地下書庫ガイダンスで、クラス単位と個人単位の総数

## h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル

種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)	種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)
ACS (American Chemical Society)	48	Oxford Journals	284
APS (American Physical Society)	9	RSC (Royal Society of Chemistry)	44
beck-online	126	Sage Premier	648
Cambridge Journals Online	339	OECD iLibrary	1,181
CiNii	7,767	SpringerLINK	1,600
Elsevier ScienceDirect	2,347	Taylor & Francis	1,624
Emerald Fulltext	120	Wiley Online Library	1,701
IEL (IEEE/IET Electronic Library)	468	日経 BP 記事検索サービス	43
JSTOR	177	その他	2,930
		合 計	21,456

注 計数処理の都合により作業時点(平成27年4月)の数字となっている。

## i 文献・情報データベース検索回数

種 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	備 考
beck-online:プレミアム版(ドイツ法情報データベース)	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	
Bibliography of British and Irish History *	—	計数されていない	12	5	9	平成23年5月～
Business Source Complete (ビジネス関連データベース)	—	—	3,640(2-12月)	4,989	7,200	平成24年2月～
CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)	259,915	257,331	257,603	264,408	785,831	平成17年4月～
eBook Collection (EBSCOhost)	—	787	2,626	6,878	13,614	平成23年7月～
EconLit with Full Text	—	—	1,471(2-12月)	3,138	5,091	平成24年2月～
eol (有価証券報告書を含む企業情報データベース)	41,059	62,127	48,207	93,609	139,749	平成18年4月～
Financial Times Historical Archive 1888-2007	—	—	149(4-12月)	51	54	平成24年4月
新・判例解説 Watch *	—	90	233	208	161	平成23年7月～
法律文献総合 Index *	—	200	478	295	231	平成23年7月～
法律判例文献情報(法関連文献索引) *	1,260	1,212	1,283	2,549	2,953	平成18年4月～
International Medieval Bibliography Online *	—	計数されていない	22	10	4	平成23年5月～
ジャパンナレッジ Lib (百科事典データベース) *	1,618	1,785	2,197	2,587	3,507	平成17年4月～
JCIF (国際金融情報センターオンラインサービス)	70	36	48	18	8	平成18年4月～
Jdream III (科学技術情報索引)	64,886	61,342	42,954	15,593	41,426	
Journal Citation Reports	380	338	347	3,677	102(1月-3月)	平成22年4月～
JURIS Online (独国法律情報データベース)	1,189	552	1,101	1,980	1,548	平成16年10月
官報情報データベース ▲	1	1	2	34	13	平成18年4月～
化学書資料館(国内で発行された化学書データベース)	2,713	2,411	4,595	1,780	2,139	平成19年4月～
聞蔵II ビジュアル(朝日新聞記事索引) *	6,823	7,931	11,928	15,845	20,752	平成18年10月～
KISS △	1,716	7,866	6,694	10,712	6,267	平成20年8月～
公判判例集データベース *	—	148	515	511	408	平成23年7月～
LEX/DB インターネット(法律情報データベース) *	6,957	7,108	5,720	5,098	5,683	平成15年4月～
Lexis.com(法情報索引)	12,142	9,306	2,190	2,532	2,704	
Magazine Plus(和雑誌記事索引)	37,394	28,289	15,682	14,566	15,499	
毎日 News パック(毎日新聞記事索引) *	1,698(4-12月)	1,877(1-35-12月)	3,331	3,041	26,498	平成17年4月～
MARQUIS Who's Who on the Web(人名録データベース)	—	—	—	—	—	平成22年3月終了

MathSciNet (数学文献データベース)	12,318	14,817	13,779	12,169	9,753	平成18年11月～
Mergent Online (米国企業情報データベース) *	—	—	—	—	—	平成15年11月～ 平成22年3月
MLA International Bibliography *	—	計数されていない	1,836(4-12月)	498	—	平成23年4月～
Mpac (マーケティング情報サービス)	2,380	6,354	9,962	6,360	1,219	平成19年10月～
日経 NEEDS-Financial QUEST (社会・地域統計) ★	203,453	12,937,605	142	662	7,727	平成14年7月～
日経テレコン (ビジネス情報データベース) ☆	812,061	1,124,522	1,497,617	1,157,022	1,426,705	平成15年10月～
Proquest Basic Search (専門分野型データベース)	3,245	4,085	5,545	8,543	5,542	平成15年11月～
PsycINFO (心理学雑誌記事・文献索引)	計数されていない	計数されていない	4,073	1,695	—	平成18年4月～
Regional Business News (地域ビジネス関連データベース)	—	—	1,521(2-12月)	2,504	4,033	平成24年2月～
SciFinder Academic(旧SciFinder Scholar 化学情報データベース)	33,971	46,256	47,879	47,869	55,108	
Super 法令 web *	—	97	314	163	127	平成23年7月～
The Economist Historical Archive 1843-(5年前)	—	—	149(7-12月)	95	60	平成24年7月～
The Times Digital Archive 1785-1985	—	—	635(7-12月)	140	129	平成24年7月～
Translation Studied Bibliography *	—	—	29(4-12月)	8	10	平成24年4月～
Web of Knowledge (引用情報を含む学術文献データベース) *	12,956	14,929	14,979	11,793	—	～平成25年12月
Web of Science (引用・被引用論文索引)	43,642	40,095	45,332	10,007	22,498	平成13年8月～
Web OYA-bunko (大宅壮一文庫雑誌記事索引) *	252	377	401	527	332	平成17年11月～
Westlaw International (法情報索引)	4,197	5,621	4,766	3,910	3,793	
ヨミダス歴史館 (読売新聞記事索引)	7,030	7,849	13,517	13,193	16,685	平成17年4月～
ゴールドスミス・クレス両文庫所蔵 社会科学系学術図書データベース	—	—	—	6	91	平成25年4月～
18th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	—	—	—	0	0(4-12月)	平成25年4月～
19th & 20th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	54	32	73	0	12(4-12月)	平成21年～
The Illustrated London News Historical Archive 1842-2003	—	—	—	41	75	平成25年4月～
HeinOnline	—	—	計数されていない	492	758	平成24年～
Business Archives Online	—	—	—	100	183	平成25年4月～
Entertainment Industry Magazine Archive	—	—	—	496	—	平成25年4月～
International Index to Music Periodicals	—	—	—	470	—	平成25年4月～
Eighteenth Century Collections Online	—	—	—	1,229	760	平成25年4月～
日本文学 web 図書館 *	—	—	—	598	569	平成25年4月～
integrum	—	—	—	666	96	平成25年4月～
Factiva.com	—	—	—	1,481	1,974	平成25年4月～
Kuselit Online	—	—	—	—	計数されていない	平成26年4月～
World Bank e-Library	—	—	—	—	40(4-12月)	平成26年4月～
19th Century U.S. Newspapers	—	—	—	—	143(4-12月)	平成26年4月～
AFP World Academic Archive *	—	—	—	—	23(4-12月)	平成26年4月～
DBpia	—	—	—	—	805(4-12月)	平成26年4月～
Global Trade Atlas *	—	—	—	—	102(4-12月)	平成26年4月～
医中誌 Web	—	—	—	—	2,206(4-12月)	平成26年4月～
英国王立国際問題研究所(チャタム・ハウス) オンライン・アーカイブ	—	—	—	—	134(4-12月)	平成26年4月～
教保文庫スカラー	—	—	—	—	395(4-12月)	平成26年4月～
山一証券株式会社 第一期・オンライン版 △	—	—	—	—	42(4-12月)	平成26年4月～
The Sankei Archives *	—	—	—	—	1,373(4-12月)	平成26年4月～
Oxford English Dictionary	—	—	—	—	535(4-12月)	平成26年4月～
ProQuest Congressional	計数されていない	計数されていない	計数されていない	28	112	
ICPSR ★	0(7月-12月)	74	31	129	17	平成17年4月～
FranText	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	平成19年10月～

注1 各統計は、1月～12月までの合計である。また、統計値については、データベース提供機関が独自の基準で計数した値をそのまま利用している。したがって、それぞれの統計値が必ずしも同じ算出方法であるとは限らない。

注2 \*はログイン回数、☆は結果表示件数、★はダウンロード件数、△はページビュー数、▲は利用申込者数を示す。

注3 表中の「-」は、当該年度が利用(統計上)開始前または利用提供終了(提供方法変更)後であることを示す。

注4 Proquest Basic Search (IHCSA Illumina)には、ERIC、LISA、LLBA、Worldwide Political Science Abstracts、Sociological Abstracts、PILOTS、Social Services Abstracts、Entertainment Industry Magazine Archive、International Index to Music Periodicals (IIMP)、MLA International Bibliography、PsycARTICLES (平成27年3月まで)、平成18年4月からは PsycINFO (平成27年3月まで)、平成24年10月からは ProQuest Dissertations & Theses Full Text (平成26年4月より ProQuest Dissertations & Theses Globalに変更)、平成26年4月からは Proquest Historical Annual Reports が含まれる。また、平成26年4月より計数の方法が変更になり、統計値には ProQuest が提供する Proquest Congressional も含まれる。

注5 MERGENT Online の平成18年6月7日から平成18年7月6日までの件数は提供機関でのシステムトラブルで作成されなかった為含まれていない。

注6 JURIS Online は平成18年7月に新システムに移行したことにより、統計値には文書取出件数(文書<全文・要約・抄録等>の閲覧件数)を計上している。

注7 ジャパンナレッジは、2008年8月から日国オンラインおよび日本歴史地名大系を含む。

注8 SciFinder については、平成23年の統計より計数の方法が変更になった。

注9 eBook Collection (EBSCOhost) ※旧 Netlibrary については、平成23年7月のプラットフォーム変更以降の検索回数を計数している。

注10 Journal Citation Reports は、平成26年4月からのプラットフォーム変更に伴いそれ以降の利用統計が計数されていない。

注11 Web of Knowledge は、平成26年1月より Web of Science に名称が変更された。

注12 Business Archives Online は、平成26年4月より有価証券報告書を含む。

注13 Jdream II は、平成25年より Jdream III に名称が変更された。

注14 Mpac は、平成26年より計数の方法がアクセス総数から検索回数に変更になった。

注15 CiNii は、CiNii Articles のみの利用統計から、平成26年の統計より CiNii 全体の利用統計に計数の方法が変更になった。

注16 ヨミダス文庫は、平成24年4月よりヨミダス歴史館にバージョンアップした。

注17 毎日 News バックは、平成26年より計数の方法がログイン回数から検索回数に変更になった。

注18 ゴールドスミス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベースは、平成26年4月より The Making of the modern world, Part II :1851 - 1914 を含む。

注19 HeinOnline は、World Constitutions Illustrated、U.S.Federal Agency Documents, Decisions, and Appeals、History of International Law を含む。

注20 18th Century、19 & 20th Century House of Commons Parliamentary Papers (HCPP) は、平成26年4月よりプラットフォームの変更に伴い検索回数からダウンロード件数へ計数の方法が変更になった。

注21 LexisNexis Congressional は、平成24年より ProQuest Congressional に名称が変更された。

## j キャンパス間相互利用件数(予約取寄せ)

		提供冊数(受付館)				合計
		総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	
受入冊数 (依頼館)	総合図書館		1,761	966	1,916	4,643
	高槻キャンパス図書館	1,325		140	206	1,671
	ミューズ大学図書館	2,000	216		229	2,445
	堺キャンパス図書館	631	106	47		784
	合計	3,956	2,083	1,153	2,351	

## k 利用者用パソコン設置台数(平成27年4月1日現在)

総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
132	9	10	16	167

## (3) 蔵書に関する統計

## ① 収書状況

## a 図書資料の所蔵数(平成26年度末現在)

区分	種別	図書の冊数(冊)		定期刊行物の種類数		視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類(点数)
		図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	内国書	外国書		
総合図書館		2,131,730	224,182	15,000 (2,365)	8,743 (1,380)	120,583	21,456
高槻キャンパス図書館		51,399	51,399	269 (168)	242 (68)	338	-
ミューズ大学図書館		41,047	41,047	402 (150)	71 (21)	285	-
堺キャンパス図書館		42,077	42,077	165 (148)	44 (30)	66	-
法学部資料室		30,482	30,482	987 (411)	51 (18)	71	-
経商資料室		31,596	31,596	965 (500)	229 (43)	0	-
社会学部資料室		40,380	40,380	359 (359)	11 (11)	0	-
視聴覚資料関係 (LL資料室、メディアライブラリー1・2)		23,313	-	-	-	23,313	-
法科大学院ロー・ライブラリー		11,159	11,159	131 (77)	1 (0)	0	-
会計専門職大学院図書資料室		2,105	2,105	12 (12)	0 (0)	0	-
東西学術研究所		18,175	0	631 (226)	143 (29)	117	-
経済・政治研究所		19,555	0	83 (83)	1 (1)	0	-
法学研究所		15,990	0	10 (93)	18 (4)	438	-
人権問題研究室		25,991	25,991	106 (106)	1 (1)	897	-
計		2,484,999	500,418	19,120 (4,698)	9,555 (1,606)	146,108	21,456

注1 製本した雑誌等逐次刊行物は図書の冊数に加えている。

注2 視聴覚資料は、マイクロフィルム、マイクロフィッシュが大半を占め、カセットテープ、ビデオテープおよびCD-ROM・DVD-ROM等を含み、図書の冊数の内数である。

注3 定期刊行物の種類数には電子ジャーナルの種類数は含んでいない。下段の( )の数は継続して受け入れている種類数で、内数である。

\* 電子ジャーナルは総合図書館で集中管理をしている

## b 過去5年間の図書の受入数 (単位：冊)

館	年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	総合図書館		37,889	35,247	36,175	31,706
高槻キャンパス図書館		3,695	2,811	2,346	1,942	983
ミューズ大学図書館		11,813	2,344	2,944	1,659	916
堺キャンパス図書館		3,264	4,589	7,131	6,540	1,208
計		56,661	44,991	48,596	41,847	26,514

注1 製本した雑誌等逐次刊行物は図書の冊数に加えている。

## c 図書資料異動状況 (単位：点)

区分	種別	和書	洋書	マイクロ資料		その他	合計
				フィルム	フィッシュ		
取得内訳	購入	15,046	5,729	100	3	22	20,900
	受贈	944	48	0	0	14	1,006
	その他	2,359	2,089	97	0	63	4,608
	合計	18,349	7,866	197	3	99	26,514
	除籍抹消	12,313	141	0	0	0	12,454
	増減計	6,036	7,725	197	3	99	14,060
	期末在高	1,326,519	814,411	95,335	24,132	5,856	2,266,253

注1 平成 26 年度にミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。

注2 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。以下の統計についても同様とする。

注3 「種別」の「その他」は AV 資料、CD - ROM、DVD - ROM 等の資料を含む。

## d 雑誌・新聞受入種類数

区分	種別	雑誌・新聞		
		和	洋	合計
取得内訳	購入	1,703	1,420	3,123
	受贈	1,065	54	1,119
	その他	63	25	88
	合計	2,831	1,499	4,330

注1 平成 26 年度にミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。

注2 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。以下の統計についても同様とする。

## ② 分類別所蔵図書冊数(日本十進分類法による)

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	13,516	11,269	24,785
010	図書館	6,344	4,527	10,871
020	図書・書誌学	16,263	14,444	30,707
030	百科事典	3,528	3,960	7,488
040	一般論文・講演集	17,114	1,502	18,616
050	逐次刊行物・年鑑	22,247	7,741	29,988
060	学会・団体・調査機関	1,257	452	1,709
070	ジャーナリズム・新聞	15,857	7,253	23,110
080	叢書・全集	55,135	18,449	73,584
090	郷土資料	1,238	2,320	3,558
	総記・計	152,499	71,917	224,416
100	哲 学	4,005	4,864	8,869
110	哲学各論	2,397	3,730	6,127
120	東洋思想	17,460	715	18,175
130	西洋哲学	7,427	19,205	26,632
140	心理学	12,817	15,361	28,178
150	倫理学	3,640	1,376	5,016
160	宗 教	5,523	3,964	9,487
170	神 道	2,532	50	2,582
180	仏 教	14,908	1,828	16,736
190	キリスト教	6,214	8,609	14,823
	哲学・計	76,923	59,702	136,625
200	歴 史	6,176	10,600	16,776
210	日本史	50,023	1,196	51,219
220	アジア史・東洋史	30,220	4,939	35,159
230	ヨーロッパ史・西洋史	5,019	17,012	22,031
240	アフリカ史	321	1,545	1,866
250	北アメリカ史	733	2,713	3,446
260	南アメリカ史	96	90	186
270	オセアニア史	88	160	248
280	伝 記	20,867	7,005	27,872
290	地理・地誌・紀行	28,975	6,579	35,554
	歴史・計	142,518	51,839	194,357
300	社会科学	12,698	8,068	20,766
310	政 治	38,287	47,981	86,268
320	法 律	59,255	86,299	145,554
330	経 済	85,176	94,189	179,365
340	財 政	7,395	6,558	13,953
350	統 計	8,947	5,665	14,612
360	社 会	58,655	51,492	110,147
370	教 育	45,111	13,564	58,675
380	風俗習慣・民俗学	16,852	4,298	21,150
390	国防・軍事	3,596	1,377	4,973
	社会科学・計	335,972	319,491	655,463
400	自然科学	7,294	8,782	16,076
410	数 学	9,475	14,894	24,369
420	物理学	5,678	16,147	21,825
430	化 学	6,230	15,072	21,302
440	天文学・宇宙科学	2,215	1,032	3,247
450	地球科学・地学・地質学	6,841	4,454	11,295
460	生物科学・一般生物学	6,063	8,997	15,060
470	植物学	1,127	228	1,355
480	動物学	2,126	474	2,600
490	医学・薬学	22,472	10,415	32,887
	自然科学・計	69,521	80,495	150,016
500	技術・工学・工業	15,264	22,461	37,725
510	建設工学・土木工学	18,040	11,870	29,910
520	建築学	15,165	6,325	21,490
530	機械工学・原子力工学	10,034	8,850	18,884
540	電気工学・電子工学	22,303	18,323	40,626
550	海洋工学・船舶工学・兵器	1,425	373	1,798
560	金属工学・鉱山工学	5,617	6,519	12,136
570	化学工業	6,889	7,197	14,086
580	製造工業	4,407	1,516	5,923
590	家政学・生活科学	1,753	396	2,149
	技術・計	100,897	83,830	184,727

分類	内 訳	和	洋	合 計
600	産 業	5,157	385	5,542
610	農 業	12,140	4,362	16,502
620	園芸・造園	1,196	214	1,410
630	蚕糸業	223	1	224
640	畜産業・獣医学	901	149	1,050
650	林 業	1,332	233	1,565
660	水産業	1,707	274	1,981
670	商 業	16,518	14,413	30,931
680	運輸・交通	8,948	6,858	15,806
690	通信事業	3,315	2,361	5,676
	産業・計	51,437	29,250	80,687
700	芸 術	13,388	6,366	19,754
710	彫 刻	947	295	1,242
720	絵画・書道	17,319	3,761	21,080
730	版 画	825	364	1,189
740	写真・印刷	2,011	503	2,514
750	工 芸	4,147	1,359	5,506
760	音楽・舞踏	6,307	1,596	7,903
770	演劇・映画	13,737	3,166	16,903
780	スポーツ・体育	9,089	2,894	11,983
790	諸芸・娯楽	1,627	202	1,829
	芸術・計	69,397	20,506	89,903
800	言 語	4,645	14,193	18,838
810	日本語	10,785	275	11,060
820	中国語・東洋の諸言語	8,885	1,052	9,937
830	英 語	6,594	8,379	14,973
840	ドイツ語	1,112	4,377	5,489
850	フランス語	1,051	3,003	4,054
860	スペイン語	457	539	996
870	イタリア語	143	394	537
880	ロシア語	380	1,335	1,715
890	その他の諸言語	397	925	1,322
	言語・計	34,449	34,472	68,921
900	文 学	12,291	10,832	23,123
910	日本文学	98,012	1,600	99,612
920	中国文学・東洋文学	28,047	785	28,832
930	英米文学	8,541	24,387	32,928
940	ドイツ文学	3,349	13,360	16,709
950	フランス文学	4,545	12,522	17,067
960	スペイン文学	1,565	10,731	12,296
970	イタリア文学	469	555	1,024
980	ロシア文学	1,912	3,172	5,084
990	その他の諸文学	507	1,392	1,899
	文学・計	159,238	79,336	238,574
	合 計	1,192,851	830,838	2,023,689
	その他			242,564
	図書館蔵書数			2,266,253

注1 平成26年度にミュース大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。

注2 「その他」は、個人文庫などの未分類図書を表す。

## ③ 分類別所蔵雑誌種類数(日本十進分類法による)

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	4,725	964	5,689
100	哲 学	484	519	1,003
200	歴 史	835	337	1,172
300	社会科学	3,979	3,513	7,492
400	自然科学	734	932	1,666
500	技 術	1,709	1,603	3,312
600	産 業	677	354	1,031
700	芸 術	801	165	966
800	言 語	262	265	527
900	文 学	1,619	447	2,066
	その他	11	1	12
	合 計	15,836	9,100	24,936

注1 平成26年度にミュース大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。

注2 重複するタイトルは、カウントしていない。

## ④ 図書費執行額5年間の推移

(単位：円)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
図 書	和	98,071,771	88,725,235	82,509,765	89,904,697	88,473,660
	洋	107,073,292	89,317,650	101,678,792	87,409,825	96,161,156
雑 誌	和	27,597,037	21,979,472	23,842,314	25,009,110	31,078,072
	洋	231,126,763	248,368,306	229,285,579	241,258,144	295,852,763
電子媒体		5,380,577	6,907,986	61,616,606	2,669,303	2,891,499
マイクロ資料	和	7,804,336	0	25,962,701	4,269,195	3,696,387
	洋	56,439,641	51,503,090	13,500,574	21,555,775	491,326
その他の資料		9,771,836	15,213,413	25,082,713	11,220,639	24,023,571
外部データベース		50,396,618	66,823,480	77,430,343	65,133,961	103,340,427
合 計		593,661,871	588,838,632	640,909,387	548,430,649	646,008,861
製 本 費		7,724,600	7,371,672	7,441,140	7,911,540	8,114,010

注1 平成25年度のミューズ大学図書館の図書費執行額13,453,536円、堺キャンパス図書館27,008,648円。

注2 「電子媒体」はCD-ROM、DVD-ROM等を含む。

注3 その他の資料には、追録、AV資料を含む。

注4 平成24年度の執行額には「日本経済再生に向けた緊急経済対策」により、平成25年度執行予定であった基本図書費が前倒しで含まれている。

## (4) その他関連統計等

## ① 図書館職員

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
専 任 職 員 〔人 数〕	24 (11)	22 (11)	22 (11)	21 (11)	21 (11)
定時職員 〔総勤務時間〕	11,050	11,050	10,680	10,754	13,922
備 考	収書チーム業務に3名、私立大学図書館協会事務局業務に1名、計4名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。

注1 定時職員は各人の勤務時間数が異なり、人数での比較が困難なため総予算時間数を記載した。

注2 ( ) 内は女子の人数で内数を示す。

## ② 学生の閲覧座席数 (平成27年4月1日現在)

図書館の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合 A/B*100 (%)	その他の学習 室の座席数	備 考 【学生収容定員内訳】
総合図書館	2,260	23,562	9.59	—	(千里山キャンパス) ① 学部 21,668名 ② 大学院 2,014名
高槻キャンパス図書館	235	2,274	10.33	—	(高槻キャンパス) ① 学部 2,090名 ② 大学院 184名
ミューズ大学図書館	134	1,145	11.70	—	(高槻ミューズキャンパス) ① 学部 1,100名 ② 大学院 45名
堺キャンパス図書館	272	1,340	20.30	—	(堺キャンパス) ① 学部 1,320名 ② 大学院 29名
計	2,901	28,321	10.24	—	① 学部 26,178名 ② 大学院 2,272名



## ③ 10年間の展示会テーマと会期

年 度	展示のテーマと講演会の演題		会 期
平成 17 年度	春季特別	「日本・明治期の新聞」	平成 17 年 4 月 1 日～5 月 15 日
	秋季特別	「八代集の世界—古今・新古今を中心に—」 記念講演会 「本を写すことと切ること」	平成 17 年 11 月 14 日～12 月 17 日 平成 17 年 11 月 29 日
平成 18 年度	春季特別	「大阪の女流文学」	平成 18 年 4 月 1 日～5 月 21 日
	商学部創設 100 周年記念展示	「近世・近代における商（あきない）の諸相と商学部 における学（まなび）の礎」	平成 18 年 5 月 27 日～6 月 24 日
	関西大学創立 120 周年記念展示	「大坂画壇の絵画—文人画・戯画から長崎派・写生画 へ—」 記念講演会 「大坂画壇の絵画」	第 1-3 部、平成 18 年 10 月 15 日～ 12 月 16 日 平成 18 年 11 月 16 日
平成 19 年度	春季特別	「子どもの遊びと絵本」	平成 19 年 4 月 1 日～5 月 20 日
	秋季特別	「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」 記念講演会 「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」	平成 19 年 11 月 12 日～12 月 15 日 平成 19 年 11 月 29 日
平成 20 年度	春季特別	「百珍って何？—今に引き継ぐ江戸の食文化—」	平成 20 年 4 月 1 日～5 月 18 日
	特別企画展	「内藤湖南—近代日本の知の巨匠—」	平成 20 年 6 月 12 日～7 月 12 日
平成 21 年度	秋季特別	「目で見る江戸俳諧の真髄—芭蕉・蕪村、そして俳諧の美—」 記念講演会 「芭蕉と蕪村の「奥の細道」」	平成 20 年 10 月 27 日～12 月 13 日 平成 20 年 11 月 17 日
	春季特別	「長谷川貞信—大阪の浮世絵師—」	平成 21 年 4 月 1 日～5 月 17 日
平成 22 年度	特別展	「伊勢物語の世界」 記念講演会 「『伊勢物語』の成立と享受—展示品を中心に—」	平成 21 年 10 月 1 日～10 月 31 日 平成 21 年 10 月 20 日
平成 22 年度	特別展	「資料に描かれた象—渡来象を中心に—」	平成 22 年 4 月 1 日～5 月 16 日
平成 23 年度	特別展	「大坂文人・学者の世界—江戸時代を中心に—」	平成 23 年 4 月 1 日～5 月 15 日
平成 24 年度	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのメガネ男子」	平成 23 年 5 月 20 日(金)～6 月 3 日(金)
平成 24 年度	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「LOVE LETTER from Europe」	平成 24 年 5 月 28 日(月)～6 月 11 日(月) (6 月 5 日(火)除く)
平成 25 年度	特別展	「なにわユーモア画譜」展特別企画としての「プレ展覧会 春爛漫コレクション」	平成 25 年 4 月 1 日(月)～4 月 8 日(月)
		大正葵丑蘭亭会百周年（おおさか）記念行事	平成 25 年 4 月 1 日(月)～5 月 19 日(日) (総合図書館第一会議室及び展示室)
	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示 「EU 諸国の言語に翻訳された日本の小説」	平成 25 年 6 月 3 日(月)～6 月 14 日(金)
平成 26 年度	図書館・博物館連携 企画展	関西大学名品万華鏡—館選イチョシ！— (於：関西大学博物館)	平成 26 年 4 月 1 日(火)～5 月 18 日(日)
	関西大学図書館創設 100 周年記念展示	関西大学図書館 100 年のあゆみ展	平成 26 年 4 月 1 日(火)～5 月 18 日(日)
	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「アナザー・ワールド」	平成 26 年 6 月 30 日(月)～7 月 14 日(月)
	関西大学創立 130 周年記念展示	科学と芸術—著名院士学者書法展—	平成 27 年 3 月 27 日(金)～4 月 23 日(木)

注 展示会のうち場所を示していない場合は、総合図書館展示室において開催した。講演会はすべて総合図書館のホールで行っている。

## ④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

依頼機関	展示会・番組等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料	請求記号
天門美術館	大坂画壇の絵画展 関西大学図書館 コレクション	平成 26 年 4 月 9 日～ 30 日	不二之画 盃流之図 湖辺雪中図 他	C2*721.7*I2*1 C2*721.3*I1*1 C2*721.6*U4*1
大阪ぐらしの 今昔館	「再現！道頓堀の芝居小屋 —道頓堀開削 399 年—」 展	平成 26 年 4 月 19 日～ 5 月 25 日	紙治 / 岡本大更図 獅子舞図 / 北野恒富画 [北條秀司写真] 北條秀司原稿 [北條秀司自筆原稿] アンカラ / 自筆北條秀司著 北條秀司色紙 北條秀司色紙 王将一代 / 北條秀司原作 劇作二十年 / 北條秀司著 他	C2*774.28*N10*1 C2*721.9*K1*1 LO2*H*2*78 C*915.6*H1*1 LO2*H*2*66 LO2*H*2*24 LO2*H*2*32 LO2*H*2*54 LO2*H*2*59 LO2*H*2*65
NHK 大阪放送局	「歴史秘話ヒストリア —与謝蕪村—」	平成 26 年 6 月 25 日放送	夜半楽 / 谷口蕪村編 から檜葉 上巻 / 几董 [編] から檜葉 下巻 / 几董 [編] 其雪影 首 / 高井几董 [編] 其雪影 尾 / 高井几董 [編] 他	N8C2*911.34*502 C*911.46*K6*1-1 C*911.46*K6*1-2 C*911.46*K6*2-1 C*911.46*K6*2-2
朝日放送 株式会社	環境特番 「ワンダー・アース」	平成 26 年 4 月 29 日放送	伊勢物語（慶長版）九段・富士山 伊勢物語（1747 年版） 九段・富士山	電子展示室
姫路市 市長公室 広報課	サンテレビ「姫路のひろば」 (姫路市提供)	平成 26 年 6 月 21 日、28 日 放送	日本輿地新增行程記大全 大日本道中行程細見記大全	N8*291.09*14 N8*291.09*12
NHK エデュケー ショナル・ 特集文化部	「日曜美術館」	平成 26 年 8 月 24 日放送	湖南肖像	L21**7*27-2
ytvNextry	読売テレビ 「OSAKA 仰天ヒストリ —諸説あり 2—」	平成 26 年 9 月 14 日放送	「三都大相撲取組之図」	電子展示室
鹿角市 教育委員会	鹿角市先人顕彰館特別展 「内藤湖南没後 80 年展」	平成 26 年 8 月 1 日～ 9 月 30 日	内藤文庫書簡 明治 33 年 4 月 11 日、8 月 31 日、 明治 34 年 4 月 17 日、5 月 30 日、 明治 35 年 5 月 31 日 明治 39 年 9 月 8 日、12 月 20 日	1、71、65、66、47、 他 2 通
龍谷大学 龍谷ミュー ジウム	特別展「二楽荘と大谷探検 隊—シルクロード研究の原 点と隊員たちの思い—」	平成 26 年 10 月 4 日～ 11 月 30 日	関西農報	M*610.5*K1
読売テレビ	「朝生ワイド す・またん & Zip」	平成 26 年 10 月 9 日放送	大根一式料理秘密箱 豆腐百珍 / 何必醇編 萬寶料理秘密箱巻 1 萬寶料理秘密箱巻 3 萬寶料理秘密箱 2 編巻 2	L24*596.21*9216*46 L24**21-78 L23**500*12 L23**500*13 *596*E24*48-2-2
大阪城 天守閣	大坂の陣 400 年記念特別展 浪人たちの大坂の陣	平成 26 年 10 月 11 日～ 11 月 24 日	大坂陣山口休菴咄	*210.499*Y1*1
大阪商業 大学 商業史 博物館	企画展 「浪花慕情—菅橋彦と その世界—」	平成 26 年 10 月 15 日～ 11 月 29 日	名士書画寄書帳 加納諸平に門人安田某が謁する図 楯彦素描巻物 楯彦素描巻物 楯彦素描巻物 曝書図	LO2*S*20*15 LO2*S*20*1 N8C2*721.9*2 N8C2*721.9*3*1 N8C2*721.9*3*2 LO2*S*20*12

依頼機関	展示会・番組等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料	請求記号
池田市立 歴史民俗 資料館	特別展『モダニズムの記憶 —建築でたどる北摂の近 代—』	平成 26 年 10 月 17 日～ 12 月 7 日	甲子園住宅経営地案内 [ちらし]. ヴォーリズ建築事務所作品集	L22*674**245 N8*520.8*18
佛教大学 宗教文化ミ ュージウム	秋期特別展 「近代の大蔵教と浄土宗 —縮刷蔵経から大正蔵 経へ—」	平成 26 年 10 月 18 日～ 11 月 3 日	木活字版 大般若波羅蜜多經	L23**C*3133
Museum Rietberg	「宇宙観の違い」	平成 26 年 12 月 12 日～ 平成 27 年 5 月 31 日	夢ノ代, 12 巻 / 山片蟠桃	C*914.5*Y1*1-1
NHK 大阪放送局	「ニューステラス関西」	平成 27 年 2 月 10 日放送	大坂陣山口休菴咄	*210.499*Y1*1
NHK 京都放送局	「ニュース 610」の 「京いちにち—和菓子」	平成 27 年 2 月 10 日放送	男重宝記.	*918.5*KI467*5-17
株式会社 NHKエンタ ープライズ	番組「歴史秘話ヒストリア 大坂城落城その時おんなた ちは!？」を、CS放送、ヒス トリーチャンネルへ提供し 放送する	平成 27 年 1 月 15 日放送	お阿無物語. おきく物語	LH2*2.02**103
堺市博物館	堺市立歴史文化にぎわいプ ラザ内与謝野晶子記念館 (常設展) における展示	平成 27 年 3 月 開館	婦人画報 67-68 婦人画報 230-231	M*051*F7 M*051*F7

2 平成 26 年度 図書館自己点検・評価委員会名簿

	氏 名	備 考
規程第 5 条 1 号委員	内 田 慶 市	委員長・図書館長
規程第 5 条 2 号委員	小笠原 盛 浩	図書委員会委員（社会学部選出）
	小 室 弘 毅	図書委員会委員（人間健康学部選出）
	西 村 弘	図書委員会委員（社会安全学部選出）
	竹 中 俊 英	図書委員会委員（化学生命工学部選出）
規程第 5 条 3 号委員	篠 塚 義 弘	学術情報事務局長
規程第 5 条 4 号委員	山 崎 秀 樹	学術情報事務局次長（図書館担当）
規程第 5 条 5 号委員	金 東 澄	図書館事務室
	高 橋 真 澄	図書館事務室
	濱 生 快 彦	図書館事務室

【事務局（図書館事務室）】 金 東澄

### 3 関西大学図書館

#### 自己点検・評価委員会規程

制定 平成6年1月28日

##### (趣 旨)

**第1条** この規程は、関西大学図書館規程第7条第2項の規定に基づき、関西大学図書館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

##### (任 務)

**第2条** 委員会は、図書館における教育研究の支援活動及び管理運営の自己点検・評価の取り組みを行うため、次の事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の方針の策定並びに点検項目の設定及び変更
- (2) データの収集、分析及び検討
- (3) 報告書の作成
- (4) その他自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

##### (各機関の協力)

**第3条** 委員会は、前条第2号に規定するデータ収集のため、それに係わる各機関に対して協力を求めることができる。

##### (報 告)

**第4条** 委員会は、自己点検・評価の結果を図書館長に報告し、図書委員会の議を経て公表することができる。

##### (構 成)

**第5条** 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 図書館長
  - (2) 図書委員のうちから図書館長が指名する者若干名
  - (3) 学術情報事務局長
  - (4) 学術情報事務局次長（図書館担当）
  - (5) 図書館事務職員から若干名
- 2 図書館長が必要と認めた場合、2名以内に限り、図書委員会の議を経て大学内外の有識者に委員を委嘱することができる。

##### (委員長等)

**第6条** 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は図書館長をもって充てる。副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

##### (委員の任期)

**第7条** 第5条第2号及び第5号に規定する委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

##### (運 営)

**第8条** 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。

- 3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

##### (事 務)

**第9条** 委員会の事務は、図書館事務室が行う。

##### 附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

##### 附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

##### 附 則

この規程（改正）は、平成12年4月1日から施行する。

##### 附 則

この規程（改正）は、平成13年10月1日から施行する。

##### 附 則

この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

##### 附 則

1 この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

- 2 この規程（改正）施行後最初に第5条第3号及び第4号の規定により選出された委員の任期は、第7条第1項本文の規定にかかわらず平成16年3月31日までとする。

##### 附 則

この規程（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

##### 附 則

この規程（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

##### 附 則

この規程（改正）は、平成26年4月1日から施行する。

## 総合図書館ラーニング・コモンズについて

広瀬 雅子

### 1. はじめに

平成 27 年 4 月 6 日、凜風館コラボレーションコモンズ、IT センターサテライトステーションに続く学内 3 番目のコモンズとして、千里山キャンパスの総合図書館にラーニング・コモンズが完成、オープニング・セレモニーが行われた。学長、図書館長の挨拶の後、テープカット、見学会と続き、大学執行部、法人からも多数出席頂き盛況の内に終えることができた。

### 2. 経緯

お茶の水女子大学や大阪大学の先行事例や、同志社大学良心館ラーニング・コモンズ、関西学院大学アカデミックコモンズの例にもあるとおり、近年の大学図書館においてラーニング・コモンズの設置は、アクティブ・ラーニング—学生が主体的に問題を発見し解を見いだす能動的学習—を支援するための施設として重要視されている。本学でも、平成 22 年度に学長の下に設けられた「図書館のあり方検討プロジェクト」で「教育と図書館」の具体的な施策として、ラーニング・コモンズの設置が提案された。

平成 25 年 10 月図書館長の提案により図書委員会の下に専門部会が設置され、6 回の審議を経てまとまった設置計画概要を学長に報告、了承を得て、ラーニング・コモンズ設置への具体的な動きが開始された。平成 26 年度に館内で若手職員を集めてプロジェクトチームを結成し、詳細を詰めて文科省の「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」および「ICT 活用推進事業」への補助金申請を行い、その承認をもって改修工事を始めることができた。ただし、当初計画案に盛り込まれていたすべての機能を実現するには想定していた以上の予算が必要となることから、一部の機能については、今後の検討課題として見送ることとした。

### 3. 設置場所について

ラーニング・コモンズの設置場所として図書館内で当初から想定されていたのは東閲覧室であった。この場所は平成 23 年 12 月にそれまでの事務室を閲覧室に改装したばかりであり、期間を置かず改装することはためらわれたが、もともと事務室として作られた場所でエリア内での声が外にもれにくくコモンズに向けた構造だったため、再度の改装を行うこととなった。改装にあたっては、東閲覧室設置当時の目的であった座席数の確保が強く求められ、図書館としては改装後の座席の再配置に頭を抱えることになったが、何とか工夫し座席を振り分けることができた。

アクティブ・ラーニングを可視化して、学生に学習の動機付けを与えるためのしかけとして、1 階北側中央部にワークショップ・エリアを設置することが計画されたが、それにはいくつもの困難が伴った。ここは東閲覧室のすぐとなりのエリアだが、2 階から見下ろす風景が図書館を紹介する写真に必ず取り上げられるような見事な吹き抜けスペースであり、防音および遮光の問題があったからである。改装工事に当たっては様々な対策を施し、最終的に防音はほぼ問題ないところまで持って行けたが、遮光については、できうる限りの装置を用意したものの、ガイダンスなどでの PC 画面の投影には問題ないが、映画などの動画を上映するには少し厳しい状況となっている。

### 4. 備付機器と什器

備付機器は表 1 の通り貸出用ノートパソコン、短焦点プロジェクター、電子黒板、ワークショップ・エリア用の大型スクリーンとそれに伴う AV 装置、マイクである。

貸出用ノートパソコンは、IT のサテライトステーションと同様に仮想デスクトップを構築する方式を

表1 機器一覧

種別	数	利用場所	利用方法
ノート PC	1	コモンズ・カウンター	カウンターでの管理業務用
	6	ライティング・エリア	ライティング指導をする TA 用
	50		貸出用
DVD ドライブ	3	ラーニング・コモンズ 各エリア	ノート PC で DVD を利用するため
プロ ジ ェ ク タ ー 等	短焦点 プロジェクター	6	ノート PC の画面を投影できる
	プロジェクター 一体型	2	設置場所での利用 ノート PC の画面を投影できる 電子黒板機能
	ホワイトボード	1	
	電子黒板	1	
操 作 卓	マイク	3	ワークショップ・エリアでの利用
	DVD プレーヤー	1	
大型スクリーン	1		

とることにより、ソフトウェアの管理を簡便化し、専用無線LANの設置による回線の確保を図った。また利用者の持ち込みPCに対応するため、従来のKU Wi-Fiのアクセスポイントをラーニング・コモンズ全域に用意することとした。

机と椅子はすべてアクティブ・ラーニングにふさわしい可動式とし、特にラーニング・エリアについてはいろいろな組み合わせができるような様々な形のテーブルを用意した。(表2参照)

討論内容をまとめたり、パソコンの画面をプロジェクターで投影したりするためのホワイトボードを、数人のグループに対して各1台を用意した。ワークショップ・エリアでは、集合型のイベントに加えて、数人毎のグループに分かれてのワークショップ型のイベントもできるようにしている。

## 5. 工事期間について

工事に当たっては利用者への影響を最大限抑えるため、騒音の発生する作業を大学入試期間と春休み中の日曜日、開館前、閉館後の時間帯に行うこととし、工事のための休館をせずに改装工事を終わらせることができたが、残念ながら、昨年度からテスト的に実施した入試期間中の教員・大学院生への利用サービスは中止せざるを得なかった。

また、工事に先立ってワークショップ・エリア予定地にあった雑誌架を移動するため休館日の前日から新着雑誌の利用ができなくなったこと、工事期間中座席位置や時間帯によっては若干騒音が発生したこと、北口通路(旧研究者専用通路)を閉鎖したこ

となど、利用者にご迷惑をおかけすることとなってしまった。

表2 什器一覧

什器名称	タイプ	サイズ等	数	設置場所
テーブル	楕円形		6	ライティング・エリア
	勾玉形		6	ラーニング・エリア
	台形		10	
	矩形		6	
	会議用	1800×900	6	ワーキング・エリア
		1500×600	8	
		1800×500	4	
フラップテーブル			106	ワークショップ・エリア
椅子	アクティブ・ラーニング用チェア	ブルー	24	ライティング・エリア
		オレンジ	50	ラーニング・エリア
		グリーン	62	ワーキング・エリア
	スタック型チェア	インディゴブルー	106	ワークショップ・エリア
	補助椅子	3色	30	
合計			272	
ホワイトボード	可動式縦型	H1500	6	ライティング・エリア
			9	ラーニング・エリア
	壁取付型	W1800	2	
	可動式横型	W1915	10	ワーキング・エリア
	可動式縦型3連	H1800	3	ワークショップ・エリア
	可動式縦型	H1800	6	
	可動式縦型	H1500	29	
合計			65	
展示パネル	木製R型両面ホワイトボード		2	ラーニング・エリア
書架	(特注品)		1	
ブックトラック	書籍配架用	ミニサイズ	2	ライティング・エリア
キャビネット	備品収納用		2	

## 6. 4つのエリアについて（口絵サエラ参照）

### (1) ワークショップ・エリア

マイクや大型スクリーンを備えたスタジオで、ゼミ発表やガイダンス、小グループに分かれてのディスカッションができる設備となっている。

現在、これまで3階の多目的閲覧室（旧図書館ホール）で行っていた図書館ガイダンスをこちらで行っており、一般の利用予約はガイダンス申込確定後の利用13日前からの受付としている。また利用予定のない時には、(3)のラーニング・エリアと同様にグループ学習に利用させることとしている。

当初から東西の2室に分けての利用を想定して来たが、天井が高くホワイトボードをパーティションとするしかない状態であり、遮音上の心配もあって慎重にすすめていきたいと考えている。

### (2) ワーキング・エリア

16人用1室、8人用2室、5人用6室の個室があり、発表の準備やグループ学習ができるスペースである。4室は14日前から予約を受け付けており、補助椅子を入れれば最大20人以上入れる部屋もあるため、ゼミ単位での利用も可能である。

各室を区切るパーティションは透明なものとし、かつ上部の空間が繋がった形になっているため、お互いの姿や声が刺激になってさらなる学習効果が期待される。また、隣の部屋との仕切り部分には目隠し用のロールカーテンも用意している。

### (3) ラーニング・エリア

ラーニング・コモンズの中心とも言えるスペースで、予約なしに小人数でのディスカッションなどさまざまなグループワークを行うことができる。人数に合わせて、空いている机を自由に組み合わせることが可能である。

### (4) ライティング・エリア

レポート、卒業論文、授業の発表資料（レジュメ・スライド）等、日本語の文章作成について、大学院生のTA（ティーチングアシスタント）が個別にアドバイスを行うスペースである。TAは教育開発支援センター配下のライティングラボから派遣されており、ライティングラボのサイトから予約することができる。

ライティングラボ使用時以外は、ラーニング・エ

リアと同様に利用させている。

### (5) コモンズ・カウンター

ラーニング・エリアの中心に位置し、各種機器の貸出やワーキング・エリアの予約受付と鍵の貸出、その他利用案内を行っている。こちらには学生スタッフと派遣職員を配置している。

データベースの利用指導や専門的なレファレンスサービスについては、レファレンス室のレファレンスカウンターが担当しており、コモンズ・カウンターとの棲み分けを行っている。

なお、椅子の色に合わせた各コーナーのイメージカラーを使用した4つのエリアを示すロゴマークは、プロジェクトメンバーがデザインしたものである。

## 7. 学生スタッフについて

計画時には、大学院生のTAの活用も検討されていたようだが、実質的に計画する段階では、コモンズ・カウンターに配置するスタッフとして、学生スタッフを置くこととなった。

採用に当たって授業支援ステーションのSA採用手順を参考に募集したところ、100名近くの応募があり、面接を行って選考した。1コマ2ないし3時間単位でシフトを組み、1週当たり1人1コマから3コマの範囲で23人に勤務してもらっている。中には、授業支援ステーションのSAや、併設校での授業サポートを行っている学生もおり、積極的に活動してくれて頼もしい限りである。

## 8. 終わりに

開室から1ヶ月ほどたち、利用状況は期待以上の面とそれほどでもない面が交錯している。

ラーニング・エリア、ワーキング・エリアについては、よく利用されている。ゼミなどの多い時間帯のワーキング・エリアの16人用の部屋については予約が重なることも出てきている。またよく利用するリピーターも現れているようで、曜日や時間帯によってはラーニング・エリア、ワーキング・エリアともに満席に近い状況になる場合もある。

グループでの課題学習が増えているのか、ホワイトボードを利用して討議内容をまとめたり、グループで討議をしたりと、大変にぎわっている。ワーキ



ング・エリアでは、プロジェクターで白壁に PC の画面を投影しながら、ホワイトボードにまとめている姿も見られた。

一方、貸出用ノートパソコンについては、ワークショップ・エリアでの多数の利用を認めていないこと、ワーキング・エリアでの予約も極力抑えていることもあって、今のところ全台が貸し出されるという状況は発生していない。ワークショップ・エリア(106席)で、ノートパソコンを配付してイベントを

行うためには、現在の台数(50台)では不足するのは明らかなこともあり、今後の動向や利用者からの要望を注視する必要がある。

今後は、アクティブ・ラーニングを浸透させるためのイベント等の計画が必要と考えている。ワークショップ・エリアで学内者を対象に授業とは異なる催しを行えないか模索していきたい。

(ひろせ まさこ 図書館事務室)

# 第75回 (2014年度) 私立大学図書館協会研究大会に参加して

鶴谷 かおり

## 1 はじめに

平成 26 年 8 月 29 日(金)に、岡山理科大学 25 号館 8 階ホールにて開催された私立大学図書館協会主催の研究大会に参加させていただいた。今年度図書館事務室へ配属されて、初めての研究大会への参加で、私立大学図書館の実情と問題点を学ぶよい機会を与えていただいたことを大変感謝している。

私立大学図書館協会は、全国 536 校の加盟校からなる大学図書館の改善発展を図ることを目的とし、これに関する調査・研究及びその成果、研究会・講

演会等の開催、機関誌の刊行、対外関係活動等の諸事業を行っている組織である。

文部科学省は、2012 年の中央審議会の答申で「質的転換答申」において、「生涯に亘って学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」と指摘し、従来の知識詰め

第 75 回 (2014 年度) 私立大学図書館協会総会・研究大会 第 2 日 研究大会 日程表

内 容	所属大学	報告者	時間
受 付			9:00 ~ 9:20
オリエンテーション			9:20 ~ 9:30
2013 年度海外集合研修報告	関西大学図書館 中村学園大学図書館 明治大学図書館	加藤 博之 今藤 覚 矢野 恵子	9:30 ~ 10:00
質疑・応答			10:00 ~ 10:10
海外派遣研修報告			
(1) 2012 年度海外派遣研修報告	聖路加国際大学学術情報センター図書館	佐藤 晋巨	10:10 ~ 10:40
(2) 2013 年度海外派遣研修報告	亜細亜大学図書館	藤懸 徳仁	10:40 ~ 10:50
質疑・応答			10:40 ~ 10:50
2013 年度研究助成発表(1)			
題 目 「Moodle 等の ICT ツールを活用した学習支援活動の研究」	湘南工科大学付属図書館	高池 宣彦 渡辺 重佳	10:50 ~ 11:20
質疑・応答			11:20 ~ 11:30
昼食・施設見学 (自由見学)			11:30 ~ 13:00
2013 年度研究助成発表(2)			
題 目 「米国の大学図書館の組織開発 (OD) と学習支援の諸課題の実証的分析～ペンシルベニア州の大学図書館の事例研究と POD 年次大会への参加～」	龍谷大学図書館	村上 孝弘	13:00 ~ 13:30
質疑・応答			13:30 ~ 13:40
講 演(1)			
演 題 「電子学術書の現在と今後：ipad で学術書が読めるか？」	慶応義塾大学メディアセンター	島田 貴史	13:40 ~ 14:40
質疑・応答			14:40 ~ 14:50
休 憩			14:50 ~ 15:05
講 演(2)			
演 題 「機関リポジトリの運用と展開」	岡山大学付属図書館鹿田分館 (DRF 企画 WG)	大園 隼彦	15:05 ~ 16:05
質疑・応答			16:05 ~ 16:15
閉会式			
閉会の挨拶	立命館大学図書館長	平野 仁彦	16:15 ~ 16:30
次期当番挨拶	明治学院大学図書館長	秋月 望	
開会の辞	岡山理科大学図書館長	山本 英二	

込み型中心の教育から、学びの意味を学生に分かりやすく理解させた上で、教員と学生が相互に知性を高めていく学生主体型の学士課程教育に換えていくことが重要であるとしている。

学びの転換期を迎えた大学の図書館が、今後どのようにその運営に取り組んでゆくことが必要かを考える上で、今回の研修報告は、非常に有意義なものであった。

本研究大会では、延べ7時間30分にわたって、①3件の海外研修報告、②2件の研究助成発表、③2件の講演会が行われた。

この研究大会への参加目的は、図書館業務の経験がない課員として、海外研修報告や研究発表・講演を積極的に拝聴し、広く図書館事情を学ぶことにより、さらに本学図書館でも2015年4月から設置され、私も強く関心を持っているラーニング・コモンズへの理解を深めることであった。

## 2 海外集合研修

海外集合研修とは、私立大学図書館協会が主催し、日本の私立大学図書館に最新の情報と制度を取り入れるべく一般ではなかなか入れない海外図書館で研修し、取り入れるべく研修した情報を全国大会の講演や電子誌資料および冊子で共有し私立大学図書館員にスキルを高めてもらうことを目的とした研修である。

今回は「デジタルアーカイブ運用の実態を学ぶ」というテーマで、環太平洋デジタル図書館連合(PRDLA Pacific Rim Digital Library Alliance)の創設メンバーである香港大学において「蔵書のデジタル化の実際」と公開するための「著作権処理」、学術図書館間における「ネットワーク形成の実際」を研修した報告を関西大学図書館加藤博之氏、中村学園大学図書館今藤覚氏、明治大学図書館矢野恵子氏から伺った。

香港の8つの大学(香港教育学院、香港中文大学、香港科技大学、香港浸会大学、香港城市大学、香港理工大学、香港大学、嶺南大学)は1992年に本土返還が決定した際、頭脳の流出を防ぐため、政府機関である大学補助金委員会(UCG University Grants Committee)を創設し人件費、学費、奨学金等の資金提供を受け高等教育の質の向上をはかり、世界ラ

ンキングの上位に位置する大学の育成に成功している。この集合研修はその中の4つの大学図書館で行われた。

香港大学のHKUScholarsHubは学術系出版物を集めて公開する機関リポジトリとして、大学の予算を得て業者と共同で研究情報管理システムを充実させ運営も行い、広範囲の研究情報システム(Current Research Information System = CRIS)へと発展させ研究活動へのサポートを確立させた。資料のデジタル化も1995年から行っており、32種類のコンテンツが図書館のウェブサイト上で提供されている。デジタル化にあたり、香港大学独自の2段階の基準を設け選定し、第1段階は香港大学の特別コレクション専門の図書館員が行い、第2段階は委託業者により選定され決定される。デジタル化は委託業者がおこない、図書館員が確認し、図書館資料として公開される。これらの中には、貴重書や劣化の進んだ資料から過去の定期試験までデジタル化されている。デジタル化に選定された資料の確認が最も困難な作業であるとのことであった。

香港の学術機関ネットワークJULAC(Joint University Librarians Advisory Committee)は、1967年に8つの大学図書館の情報資源とサービスについて協力し、学生、教職員、来客に提供する組織として設立された。大学の個性にあった資源とサービスを拡大、強化、捕捉していくプログラムを実施している。常に多くの委員会が活動しており、1年に1度フォーラムを開催し、直面している課題についての忌憚のない意見交換を行うとともに、加盟館や各委員会が、その年のテーマに沿った内容のプレゼンテーションを行っている。

JULACアクセス・サービス委員会は、資料の相互利用ネットワーク構築するためHKALL(Hong Kong Academic Library Link)を用いて、参加図書館間での直接訪問やILLが行われている。また長期的な観点から機能向上と資料保管に取り組むため、収蔵庫の増設を香港大学を中心に行っており、収蔵可能冊数は、当初630万冊で2030年までに995万冊を目指しているとのことである。

PRDLA(The Pacific Rim Digital Library Alliance)1995年に太平洋を囲む28の大学図書館により、各館のデジタルコレクションのアーカイブデータを提供してもらい、主要な研究資料のオンラインアーカイブ化したものを掲載した。2002年以降は年間会費とメンバーシップ制で運営を行っている。新

ポータルサイトができ充実を図っており、2013年以降はPRDLAのメンバーの中で専門的技術をより深く掘り下げ、新しい発想を生み出していけるようなスタッフの育成と大学の管理組織が、目的・目標達成に向けて十分機能するよう、管理運営や教育・研究支援にかかわる事務職員・技術職員または、その支援組織の資質向上のために実施される研修を行い、交流の促進を行っていくようである。

### 3 海外派遣研修

2012年に実施されたアメリカイリノイ大学のモートンソンセンターが提供するアメリカ国外の図書館員のためのモートンソンセンターのアソシエイティブプログラムの研修者の報告をいただいた。

この組織の目的は、世界の図書館員の人材育成を目的とし、国際的な教育、理解、平和の振興のために図書館及び図書館員同士の国際的な絆を強めることにある。様々な背景を持った世界中の図書館員が年度ごとのテーマに沿って、リーダーシップ、コミュニケーション、マネジメント、デジタル及び紙のコレクション、技術、資金獲得、政策提言、専門家としてネットワークを築く方法などについて講義が行われた。また、アメリカの図書館や専門協会の革新的なサービスや成功事例を研修するために、国内の14の州の図書館を見学に訪れた。このような図書館員の育成プログラムを多数実施し、1986年の設立当初から現在まで90か国、900人以上の図書館員が参加されているとのことであった。またアメリカの図書館における資料のデジタル化・学習機会のe-Learning化における図書館の変化については、日本においても、STM（Science Technology Medicine）分野の資料がデジタル化していく様子を目にしており、インターネットを通じて書架を図書館内から撤去したJohn Hopkins大学のWelch Medical Libraryのような本のない図書館の事例を見た。また、アメリカの大学図書館ではデジタル資料のアクセス契約している場合でも、当面の間は紙の資料も全て保存する方針を取っていた。アメリカの図書館では、敷地に余裕があり大学内に保存書庫を建てられること、万が一電子資料へのアクセスが途切れた際に紙の資料を処分することにより図書館に何も残らないことへの懸念があったようだ。しかし、デジタル資料の増加、ネットワーク環境の整備、学習方法の変化により、図書館を利用する人の行動の変化、

図書館外の保存書庫の資料を移動して、より広い閲覧空間を作ることになった。勉強を開始する夜間から早朝にかけてe-Mail、チャットを使って図書館員へ質問する学生が増加し、夜勤の図書館員を1人配置して対応、時間帯の異なる地域の大学と連携して24時間学生からの問い合わせに対応できる体制を整えていた。レファレンスカウンターの利用が減少したため、毎週決まった時間帯に質問を受ける時間を「レファレンス」を「Ask here」「Ask」に変更し、「何でも聞いて」という雰囲気を作り出した。モバイル機器を身につけて図書館内を巡回する図書館員「Roving librarian」を配置し、図書館員が利用者のところに行ってサービスする新たなサービス提供を行っていた。e-Learningで学べる課程ができたため、図書館に来ない学生が増加した。いずれはe-Learningの充実をはかって利用教育にかかる費用を削減したいという考えが見られた。日本でも18歳人口が減少していく中で、学生獲得のため、e-Learningコースが開設されるようになると、大学図書館でも来館しない学生への対応が求められるようになることが予測されるとの報告があり、本学においてもこのことを視野に入れた、将来ビジョンを考えておくことが必要かもしれない。

### 4 研究助成

アメリカの大学図書館の組織開発（OD）は、Organizational Developmentの略称であり、FD（Faculty Development）やSD（Staff Development）を包括した概念としてとらえることができる。ODにおいては、大学管理職、大学教員、大学職員の関係性を重視した組織開発が志向されている。ラーニング・コモンズの登場とともに、これからの大学においては、図書館の存在意義が従来にも増して重要なものになってきた。学士課程教育の充実と学位の質保証の観点から、図書館はこれまで以上に各教学主体と連携した学習支援機能の充実が求められている。学習成果（ラーニングアウトカム）の向上を図るために、図書館における学習支援体制を、強化することが重要な課題として浮上している。これらのことから、図書館は他部署から隔離した存在ではなく、様々な学習支援の連携拠点として機能していくこと、ODが求められているといえる。また大学図書館のフルタイム職員と図書館司書の人数が比較されているペンシルベニア大学では、フルタイム職員370人中111

人が図書館司書であり、ピッツバーグ大学では、382人中120人が図書館司書である。巨大な図書館組織の中のさらに一番大きな母集団が図書館司書である。大学によっては、図書館司書は組織の一員であり、教授会のメンバーの場合もある。図書館運営が図書館司書中心となるのは必然の結果なのである。この意味では、図書館司書という存在そのものがないわが国とアメリカの大学図書館のODの実態を把握する際には、アメリカのモデルを継承するだけでは限界があるとのことであった。

龍谷大学図書館村上孝弘氏の報告で、研修の一つに大学図書館や公共図書館を訪問するプログラムが生まれ、各担当の責任者・サポートスタッフに案内してもらい、その場でヒアリングも可能であった。訪問した図書館では共通して、ゲート付近にコーヒーショップが設置してあり、購入したコーヒーやジュースなどを持ち込んでもよいとのことであった。6～7年前までは日本と同様に不可能であったが、インターネットの普及による来館者の減少を阻止するため検討した結果、それぞれの図書館の事情に合わせて、大手コーヒーチェーンによるカフェ文化の定着を背景に「コーヒーショップを図書館に設置する」という結論になったようだ。今回の研修でもっとも興味深い報告であった。

電子書籍について、年々増加の一途にある電子書籍サービスは、大学図書館や公共図書館でも導入しており、イリノイ大学の街にあるChampaign Public Libraryでは、2008年から続いているサービスでAmazon社のReader「Kindle」に利用者の読みたい電子書籍をあらかじめダウンロードし、専用の袋に入れて2週間の貸出をしているとのことであった。

## 5 ラーニング・コモンズについて

今回の研修目的の一つであるラーニング・コモンズについて、海外集合研修報告にあった香港の大学においても、それぞれ充実した施設を設け進化しているようだとの報告と、海外派遣研修のアメリカの大学図書館についての報告の中で若干触れられた以外は、あまり多く関連した事項はなかったが、もっとも関心のあるテーマなので、一文を記してみたい。

本学図書館でも2015年4月から導入されるラーニング・コモンズの設置は、この能動的学習（アクティブラーニング）のための場所として設置される予定である。「コモンズ」とは元来、広場や共有地を意

味する言葉であり、ラーニング・コモンズは「学習のための共用スペース」である。大学図書館はもとより「ラーニング・コモンズ」であろうとしてきた。サービス面では、以前から学習用図書整備やレファレンスサービス、情報リテラシー教育などの学習支援を行ってきた。施設面を見ても、協同学習に対応した施設はグループ学習室として、コンピュータはPCルームなどとして、既に多くの大学図書館が提供しているものである。ではなぜ、ラーニング・コモンズを設置することに意味があるのか。従来の施設やサービスを統合的に提供する意義はもとより、大学図書館がより積極的に学修支援を行うというメッセージを発信することであり、また新たな学びのスタイルを学生や教員に提示する必要があるのである。しかしながら授業形態や学びの形態、学生の気質などによって、従来の静かな図書館や個室へのニーズも必要であり、本のある静かな場所というのは図書館のブランドイメージでもある。ラーニング・コモンズは、必ずしも大学図書館内に必要ではないかもしれないが、多くの学生が図書館に集まって来ることが示すように、大学図書館には知が集積された場所として、人を集め学びへ導く場所という他にはない特質がある。その図書館の特質を活かしつつ、学生間にも刺激をもたらす場として、ラーニング・コモンズには、図書館が最もふさわしい場所であると考えられる。また、今後資料や授業の電子化、ネットワーク化がより進んでも、人が集まり刺激を与えあう場所は、将来も残ると思われる。それが大学の本来の機能であり、それはまた図書館の機能としても同じに違いない。

図書館が資料や施設、サービスの提供を従来から行っていたと主張しても、それが社会や所属する組織において、広く認知され受容されていなければ、その提供主体は必ずしも「図書館」であり続けるとは限らない時代が来ている。そこにおいて、図書館は、今まで以上に自身の強みや本質を見据えながら、求められているものを読み取ることで、そして積極的に自ら変化し、また自らをプロデュースしていくことが必要とされている。

そのとき、人が集まり何かを生み出す場所というあり方は、これからの図書館の姿と思われる。

大学図書館において、社会や大学、学生の変化に応じて、「ラーニング・コモンズ」という形で新たな図書館の姿を自ら積極的に示すことで、有効な戦略となる。そこでは、そうした「場」を創り、機能さ

せ、さらに図書館の外側に繋げていくプロデューサーとしての役割が、大学図書館員に強く求められており、それはこれからの図書館員に共通する役割であると思う。

（つるたに かおり 図書館事務室）

## ラーニング・コモンズに関する研修を受講して

上 田 夏 実

### 1. はじめに

平成 27 年 4 月本学総合図書館に新しく学びの空間が誕生した。本学では既に「コラボレーションコモンズ」「サテライトステーション」が設置されており、学内 3 番目のコモンズとして「総合図書館ラーニング・コモンズ」が開設した。

私は平成 26 年度に入職し、右も左も分からないながらも開設準備に参加させていただいた。その際、関係する研修に参加させていただいたので本レポートではその内容を報告する。

### 2. 研修報告

#### (1) 学習環境の変化とアクティブラーニング

そもそも、ラーニング・コモンズ（以下、LC という。ラーニングコモンズも同義とする。）の目的であるアクティブラーニング（以下、AL という。）とは何を指すのか、また、どのような効果や課題を生むのかを本研修で学んだ。

現代の仕事はワーカー個人で解決できる問題ではなく、社内でコミュニケーションを取りながら、グループで課題に取り組むものが主流だ。社会の課題が複雑化しているため、働き手に求められる要件も変化し、企業は主体的で課題解決型の学生を欲している。そのニーズに応えるために、大学の学び方や学ぶ場も変化しなければならない。

研修名：学習環境の変化とアクティブラーニング

研修日：平成 26 年 7 月 23 日(水)

会 場：グランフロント大阪ナレッジキャピタル  
ワー C

#### (ア) なぜアクティブラーニングか

京都大学高等教育研究開発推進センター  
教育学研究科

溝上 慎一氏

大学と社会の機能が合わなくなってきた昨今、そのチューニングのために AL が必要となった。

1990 年代のアメリカでは全入時代に突入し、従来の教育方針では授業がなりたたなくなるという問題が浮上する。また、社会自体も共同作業で複数人と課題をシェアするというプロジェクトベースの仕事が主体となってきた。

そこで、社会へと繋がる学生を育成するべく、AL が誕生する。ここでの AL の定義は「一方向的な知識伝達型講義を聴くという学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習」である。能動的な学習とはアウトプットのトレーニングを指す。このトレーニングを如何にデザインしていくかが、授業にうまく取り込めるか否かの鍵となるのだ。

そして、上記の問題は今やアメリカのみならず、世界的なものとなっている。特に日本では、学生たちが主体的に学ぶ力が低いと言われている。将来への問題意識が、対課題への積極性を生むのだが、その思考は公共圏（共通する問題への関心によって成り立つ関係領域）の人々と触れ合うことで身に付くものだ。親密な間柄の人間としかコミュニケーションを取らない人は情報・知識の収集・分析、思考を磨くことが出来ない。

ただ、AL によって育つ能力を適切に表現しきれないという問題点がある。あくまでアウトプットの作業であるため、インプットされた知識の有無がその価値を大きく左右する。AL 単体での的確な評価は難しいのが現状だ。

また、知識とはただインプットすべきものでもない。現代では ICT の発展により知識の社会的機能が完全に变化した。自らの知とするためには、数多の情報を整理し、活用する力が必要なのは明白である。

結論として、AL とは変化する環境に対応するため、「対課題」「対他者」「対人生」への積極性を修得する学習方法である。

(イ) アクティブラーニングと学習環境

東京大学 情報学環

山内 祐平氏

溝上氏の講義と一部重複するが、アメリカの大学が大衆化する中でALは誕生した。第一危機として講義型授業の破綻が起こり、第二危機として社会の変化が発生したためである。日本ではこの2つの危機が同時に起こっているため、ALの整備は火急の用である。

この100年間、講義の形式は変化してこなかった。つまり、サクセスパターンとされているものが古いのである。そのため、現在の問題には対応できないことが発生するのだ。本講義でALの技法として挙げられていたものは以下の12項目である。

1. コンセプトマップ  
(抽象的なアイデアを図にする)
2. 協同的執筆  
(分担して執筆し、持ち寄ってまとめる)
- 3.ブレインストーミング  
(意見を集約する)
4. 協調学習  
(グループで話し合いながら学ぶ)
5. ミニツッパーパー・自由記述  
(教員からの問いかけで、数分間に短い文を書く)
6. シナリオ・事例研究  
(教員のシナリオ等についてディスカッションする)
7. Problem-Based Learning  
(あらかじめ答えのある問題設定型学習)
8. チーム学習  
(グループで応用課題に取り組む)
9. 事例設定教授  
(必要な知識・技能について学び、その後現実状況に学んだことを活かす)
10. パネルディスカッション  
(発表した事柄に関して質問を受け議論する)
11. 相互教授  
(教え合う)
12. ロールプレイ、演劇、シミュレーション  
(体験する)

しかし、ALの定義や技法は様々あり大学により事情も違うので、目的や運用により型は異なる。大

切なのは学習環境(空間・活動・共同体)のマネジメントである。まず、活動や共同体を想定しデザインする。そして、それらの基地となる空間を作る。箱となるものがあることで、最初に想定していたもの以外の活動も呼び込むことができる。

LCとALはセットであり、授業を行う場所とグループ活動の場を分け空間の位置づけを区別することに意味がある。学習環境は空間・活動・共同体という3つで構成されている。ALはグループで通常の授業よりも激しく活動するため、意味を感じられるものでなくては学生がついてこない。誰がどこで何を行うのか、しっかりとマネジメントすることでALは成績上位・中位・下位すべての群に対して効果を発揮するのだ。

(ウ) 働く場所から見る学びの変化

コクヨファニチャー株式会社

松本 毅氏

社会の変化を受けて、大学が変化している。そのため、大学よりも先にその変化を体験した企業の対策に、今後大学が取るべきヒントがある。

変革のキーワードは「場・技・型」だ。「場」は空間やインフラ、「技」は意欲やスキルを指し、「型」とはルールである。

企画が発生しやすいのはどういったときか。それは人が計画的に会い、関心を示す態度を取った時である。見て見られることによる「刺激」を得るために会う機会を増やすべく、コクヨファニチャーではオフィス内にチーム横断型の休憩スペースを設け、コーヒー等はその場所で飲むように工夫されていて、さながらカフェのような空間が存在している。

企画立案率と姿勢の関係性

		企画立案率		
		計画的に会う	偶然に会う	会わない
姿勢	関心あり	◎	○	×
	普通	○	△	×
	なし	△	×	×

また、オフィス全体がこの企業のモデルルームとなっており、実際に商品である什器等がどうやって活用しているのかが分かりやすい施設だった。今回の見学会では写真撮影ができなかったが、「総合図書館ラーニング・コモンズ」にもこちらの企業の椅子等を採用している。



## (2) 龍谷大学ラーニングコモンズ開設記念

### 第10回龍谷大学FDフォーラム

本学LCと同時期にオープンを抑えた龍谷大学の構想を伺い、今後の参考としようとして参加した。また、基調講演では、関西学院大学の巳波弘佳先生が、関西学院大学アカデミックコモンズの取組みについて講演され、運用開始からしばらく経過した大学の状況も把握することが出来た。

龍谷大学では学生の主体的な学びを支援するため、学生生活から多様な学びをサポートする。学ぶ学生の集う、学ばせる大学がこれから求められている。

研修名：ラーニングコモンズを学びの空間として育てていくために

研修日：平成27年3月13日(金)

会場：龍谷大学 和顔館

#### (ア) 基調講演

##### 学生とともに創るアカデミックコモンズ

関西学院大学学長補佐 理工学部情報科学科教授  
アカデミックコモンズ活性化委員会コンビナー  
巳波 弘佳氏

関西学院大学はコモンズに力を入れている。「アカデミックコモンズ」の運用を既に開始しており、その事例は大変貴重な資料である。しかし、以前にも関西学院大学の方のお話を伺ったが、一貫して主張していることは「コンセプトを明確にすること」だ。自学では何を学生にさせたいのか、コンセプトを持たなければ生き残れない。そのため、他大学の事例を参考にしてもそのままそれを自学に適用できることは限らないということを念頭におく必要がある。

アカデミックコモンズでは、生きた学びの場として「出会う→気づく→深める→形にする→共有する(→出会う)」といった循環を目標としている。まずは、教職員が主体となり、イベントをできるだけたくさん企画する。学生にコモンズの使い方や可能性を知ってもらうきっかけとするためだ。次に、そのイベントに参加した学生にこちらから声をかけ、潜在的な学生の興味関心を表面へと引き出す。今後、新しいイベントを企画する学生の登場を待つのではなく、こちらから可能性のある学生を育てるためだ。また、イベント等を行う集団としてプロジェクトなるものが存在し、学生の申請が通れば活動場所を得

ることができる。その申請条件の一部として、特定のゼミや集団と関わらないことというものがある。できるだけ様々な環境の人と一つのものを作り上げた方が発見することは多いからだ。これらの活動により、社会人基礎力である前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を養うことができる。

コモンズに完成などなく、常にその時々々の学生とともに作り上げ続けるものであるということだった。教職員側と学生で議論しあい、学生が何を求めているのか、そのために教職員はどんなサポートができるのか、対峙する熱意と覚悟が必要になる。

#### (イ) 報告 「龍谷大学ラーニングコモンズ」の構想

龍谷大学 大学教育開発センター長 経営学部教授  
長谷川 岳史氏

龍谷大学図書館長 文学部教授 安藤徹氏  
龍谷大学国際センター長 経営学部准教授

ホワイト・ショーン氏  
各コミュニティ 学生スタッフ

4月に開設を抑えた龍谷大学のコモンズは全面ガラス張りであり、見通しが大変良い。遠くまで見えることで、高揚感を得ることができるとのことだった。外からも目に触れやすいため、建物に入ることへの垣根が低くなる効果もあるそうだ。そして、教育・研究・学生生活が関わっている施設が全て1つの建物内にあるということも魅力的だ。様々な施設があるため、便利な反面、学生にとってはどこに行けば良いのかわからなくなりやすくもあるが、龍谷大学の長谷川先生は「サービスはできるだけワンストップにし、学生を動かす時は的確に〇〇に行ってください、と伝える」とおっしゃっていた。

コモンズは「グローバルコモンズ」「スチューデントコモンズ」「ナレッジコモンズ」の3つのエリアに分かれており、それぞれに学生ボランティアスタッフが割り当てられている。無償でありながらも、今回の発表に参加する学生もおり、とても活気に溢れた活動をしていることが伺える。また、これらのボランティアとは別にコモンズ共通の有償スタッフも配置されている。彼らは学習支援を主に担当しており、特定の所在地は決まっていない。さらに、図書館では図書館業務を行う有償の学生スタッフも雇っているとのことであり、学生と共同していることが強く感じられた。

何より、私がこの報告で強く感じたことは「学生

を一人の大人」として扱っているということだった。「当たり前の忠告はしない。だから、掲示物はほとんどない。」と長谷川先生はおっしゃっていた。確かに、館内はすっきりとしていて本当に必要最低限の説明しか目にしない。上述した学生スタッフとの関わりもしかり、龍谷大学では学生とできるだけ対等な付き合いをしようとしている。それは学生の主張と向き合うことだと私は思っていたが、学生を甘やかさない、ということも含まれているのだと実感した。研修当時はまだ運用が開始されていなかったが、教職員は学生のためにできる限りのサポートをし、その代わりに、学生は基本的なことについては、自分で責任を持つ、という関係はまさに理想的だと感じた。

### 3. おわりに

まず、このように勉強する機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。業務を進めるにあたり LC とは、その目的である AL とは、から始まり、実際の他大学の様子まで学べたことはこれ以上なく有難いことだった。

LC は完成がゴールではない。研修で学んだように、始動してからが本当の始まりである。文部科学

省のホームページによれば LC とは「複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする『場』を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。」とされている。図書館に LC があるということは情報収集から思考のアウトプットまでを一つの場所で行えることを意味する。考える材料が近くにあり、すぐに実行まで進められる「知」の象徴としての図書館であるから、図書に関するだけでなく可能性は幅広い。「考動」の基地として学生の知的好奇心をくすぐり、刺激的な学生生活を創り上げることができるよう、LC 関係者の一員として職員・教員・学生の 3 者が一体となってお互いの可能性を引き出せるにはどうすれば良いかを知るところから始めたい。

運用開始後、私は直接の LC 業務を外れることになってしまったが、「総合図書館ラーニング・コモンズ」がこれから多くの学生に受け入れられ、共に育ち、より大きなものになっていくことを期待している。

(うえだ なつみ 図書館事務室)

## 平成26年度図書館活動報告

### 1 図書委員会

第1回：平成26年4月30日(水)

- 審議事項（平成25年度図書費決算について、平成26年度図書費予算について、香港城市大学との相互協力覚書について）
- 報告事項（Elsevier Science Direct 購読希望維持のためのタイトル追加について、平成25年度購入基本図書について、選書協力依頼について、関西大学図書館創設100周年記念行事 書の展示とCSAC国際シンポジウムの中止について、平成26年度図書委員会開催予定について）

第2回：平成26年6月18日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等の購入希望について）
- 報告事項（ラーニング・コモンズ設置計画案について、廃棄雑誌の譲渡について、主要電子ジャーナルパッケージの利用統計について、平成26年度基本図書費の執行について）
- その他（図書館プチゼミの開催について、車いすによる書庫利用の件について）

第3回：平成26年7月16日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等の購入希望について、バックナンバーの購入希望について、平成26年度基本図書費の執行について）
- 報告事項（高額図書資料の購入について、ラーニング・コモンズについて）
- その他（『図書館フォーラム』第19号の刊行について）

第4回：平成26年8月21日(水)

- 審議事項（ラーニング・コモンズ設置に係る私立大学等教育研究活性化設備整備事業およびICT活用推進事業への申請について（持ち回り審議））

第5回：平成26年9月17日(水)

- 審議事項（平成27年度図書費予算申請について、逐次刊行物等の購入希望について）
- 報告事項（ラーニング・コモンズ設置に伴う雑誌架の移設について、2014年度自己点検・評価報告書の提出について）
- その他（図書館プチゼミガイダンス（秋学期）の実施について）

第6回：平成26年10月10日(金)

- 報告事項（図書委員の交代について、図書購入希望の提出について、スエッツ社の破産について、学園祭期間中の図書館の閉館について（持ち回り事項））

第7回：平成26年11月19日(水)

- 審議事項（購入希望の受付中止について）
- 報告事項（基本図書の募集について、スエッツの破産問題について、図書館向けデジタル化資料送信サービスの利用提供開始について、ラーニング・コモンズの進捗状況について、関西大学図書館所蔵文書（未整理分）の調査に関する大阪市史編纂所との協定締結について、図書館創設100周年記念国際シンポジウムについて、スマートフォンアプリ版 KOALA の公開について）

第8回：平成26年12月17日(水)

- 審議事項（平成27年度図書館開館日程について）
- 報告事項（平成27年度関西大学図書館市民利用の募集について、図書費予算について、ラーニング・コモンズの進捗状況について、スエッツ社破産のその後の対応について）

第9回：平成27年2月18日(水)

- 審議事項（平成27年度図書費予算配分について、データベースの契約見直しについて、基本図書の選定について、洋雑誌の契約形態変更に伴う購読の中止について）
- 報告事項（平成26年度図書費執行状況について、KOALAの停止について、サテライトキャンパスへの雑誌譲渡希望調査について、2015年度図書館ガイダンス実施計画について、ラーニング・コモンズの進捗状況について）

第10回：平成27年3月18日(水)

- 審議事項（平成27年度図書費予算案について）
- 報告事項（平成26年度図書費予算執行状況について、購入希望の受付について、平成27年度新任教員対象オリエンテーションについて、ラーニング・コモンズ開設に伴うオープニングセレモニーの開催について、図書館ウェブサイトのリニューアル及びCSACアーカイブズとのリンク形成について）
- その他（利用者サービス業務委託先の変更について）

### 2 図書館自己点検・評価委員会

2011年度報告書をベースとし、これに2013年度図書館自己点検・評価委員が作成した新たな「評価の視点」と「評価指標」に基づく記述を加えることで2014年度自己点検・評価報告書を作成した。

第1回：平成26年6月18日(水)

- 審議事項（副委員長選出について、2014年度自己点

検・評価報告書の作成について 他)

- ・報告事項 (大学評価 (認証評価) 結果について 他)

第2回:平成26年7月16日(水)

- ・審議事項 (2014年度自己点検評価報告書の作成について、今後の日程について)

### 3 図書館会議

図書委員会開催の前々週と前週に図書館長と図書館職員で「図書館会議」を開催し、次回図書委員会事項等を協議している。

### 4 関西四大学図書館長会議

- ・開催日:平成26年9月24日(水)
- ・場所:同志社大学 (今出川キャンパス) 有終館
- ・出席者:関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学

#### (1) 報告事項

- ① 関西四大学図書館連絡会 (平成26年7月29日開催) について
- ② 関西四大学図書館相互利用担当者会 (平成26年9月24日開催) について
- ③ 関西四大学図書館職員研修会 (平成26年11月25日開催予定) について

#### (2) 近況報告・情報交換

- ① 図書館の図書資料費予算について
- ② 電子情報の利用および発信について
- ③ 利用者サービスについて
- ④ 課題および将来計画について
- ⑤ その他

### 5 第35回 (2014年度) EUi セミナーへの参加

- ・会期:平成26年10月30日(木)~31日(金)
- ・会場:福山大学 大学会館3階 会議室1

### 6 セミナー・講習会等の開催

図書館利用者教育の一環として、各種ガイダンスを実施した。

#### ○「入門ガイダンス」

新入生のクラスを対象に図書館の使い方や蔵書検索方法を説明した。

- ・実施期間:春学期 4月7日(月)~6月30日(月)  
秋学期 9月22日(月)~11月29日(土)

#### ○「活用ガイダンス (定型内容による実施)」

レポートや論文作成に役立つ文献のさがし方および入手までの流れについて説明した。

- ・実施期間:春学期 4月7日(月)~5月24日(土)

#### ○「活用ガイダンス (自由選択方式による実施)」

前述の「定型内容」では取り上げない特定の専門分野

のデータベース (例:判例データベース、理工系学部向けのデータベース等) についての22種類のガイダンス項目を組み合わせ、内容をカスタマイズできるガイダンスを実施した。

- ・実施期間:春学期 5月26日(月)~6月30日(月)  
秋学期 9月22日(月)~11月29日(土)

#### ○「図書館プチゼミ」 (自由参加型ガイダンス)

自由参加方式により基本的なデータベース等を約15分で紹介した。

- ・実施期間

総合図書館:春学期 6月9日(月)~6月30日(月)  
秋学期 10月6日(月)~11月14日(金)

高槻キャンパス図書館:

春学期 6月9日(月)~6月30日(月)

秋学期 10月6日(月)~11月14日(金)

堺キャンパス図書館:

春学期 6月9日(月)~6月30日(月)

秋学期 10月6日(月)~11月14日(金)

ミューズ大学図書館:10月6日(月)~11月14日(金)

### 7 展示会

#### ○図書館・博物館連携企画展

「関西大学名品万華鏡 ―館選イチョシ!―」

平成26年4月1日(火)~5月18日(日)

於:関西大学博物館

2014年に図書館創設100周年、博物館開設20周年を迎えることを記念して、また2016年の本学創立130周年に向けた記念事業の一環として開催。図書館・博物館双方の名品・優品を相互に関連させて構成し、館の名品約110点を展示した。

#### ○関西大学図書館創設100周年記念展示

「関西大学図書館100年のあゆみ展」

平成26年4月1日(火)~5月18日(日)

於:関西大学図書館展示室



関西大学図書館100年のあゆみ展 (2014.4)

大正3(1914)年に当時の福島学舎に本学最初の図書館を創設して100年になることを記念し開催。図書館の歴史年表パネル、追想写真、戦前の図書館委員会記録など、図書館運営の歴史的資料などを展示した。

○ EUi 企画

「日・EU フレンドシップウィーク展示  
アナザー・ワールド」  
平成26年6月30日(月)～7月14日(月)  
於：総合図書館展示室

毎年、EU創設記念日である5月9日の「ヨーロッパ・デー」にあわせ、駐日欧州連合代表部の後援のもと、全国のEU情報センターで「日・EUフレンドシップウィーク」がさまざまな催しを実施している。EU情報センターを設置している本学図書館ではSFやファンタジー、哲学における不条理な心理世界など、現実世界とは異なる少し不思議な世界に足を踏み入れた人々をテーマに原作がEU諸国である小説を紹介した。

○ 関西大学創立130周年記念展示

「科学と芸術 ― 著名院士学者書法展 ―」  
平成27年3月27日(金)～4月23日(木)  
於：総合図書館展示室、3階

本学創立130周年および図書館100周年を記念し、相互協力協定を締結している香港城市大学図書館とのコラボレーション企画である。中国の著名な院士・学者諸氏によって書かれた約60作品は、中国のいわゆる伝統的「学者」「文人」とは、まさにかくあるべしという姿を具現化した風格ある作品群であった。



関西大学創立130周年・関西大学図書館100周年記念展示「科学と芸術 ― 著名院士学者書法展 ―」の開会式(2015.3)

8 シンポジウム

図書館創設100周年を記念し、図書館界の現代的課題として『Libraries in the Digital World ― 図書館電子化時代と今後の図書館のあり方 ―』をテーマに、国際シンポジウムを開催した。

平成26年11月8日(土) 10:00～17:00  
於：千里山キャンパス 100周年記念会館 大ホール



関西大学図書館創設100周年記念国際シンポジウム(2014.11)

9 平成26年度文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助

図書館関係の申請については、図書委員会で選定して次の3件が採択された。

- (1) 「山一証券株式会社」  
第1期第9集・第11集、第2期第1集
- (2) 「The Japan Times Archives」  
昭和(戦前、戦中、戦後占領期)セット
- (3) 「横濱正金銀行 マイクロフィルム版」  
第8期南方(1)・第9期

10 図書館の刊行物等

- (1) 『図書館利用案内』2014年版
- (2) 本誌第19号を発行し、図書館ウェブサイトにて公開(第15号より冊子による刊行は中止した)
- (3) KULione (Kansai University Library's info for Everyone) Vol.4、Vol.5
- (4) 関西大学図書館創設100周年記念誌

## 図書館出版物案内

### 1 冊子目録等

- 細江文庫目録……450円 ※  
わが国英語学界の重鎮、故細江逸記の旧蔵書目録。
- 大阪関係資料目録……650円 ※  
昭和35年1月1日現在所蔵の大阪府、市関係の図書・地図・近世文書・堂島文書・芝居番付・明治中期広告の総合目録。
- 生田文庫・穎原文庫目録……非売品 ※  
在野の万葉集研究家故生田耕一の旧蔵書の一部と、故穎原退蔵旧蔵書の目録。
- 吉田文庫目録……1,300円 ※  
元トルコ駐在特命全権大使であった故吉田伊三郎の旧蔵書目録。
- 岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録……1,500円 ※  
江戸時代末期の国学者岩崎美隆の旧蔵書目録と、幕末の漢学者五弓雪窓の旧蔵書目録。
- 増田涉文庫目録……6,000円 ※  
わが国魯迅研究の第一人者であった元文学部教授故増田涉の旧蔵書目録。魯迅の全著作の初版本他。
- 矢口文庫目録……2,700円 ※  
本学の元学長で、イギリス経済史学界の重鎮であった故矢口孝次郎の旧蔵書目録。
- 極東国際軍事裁判資料目録……非売品 ※  
極東国際軍事裁判における検察側及び弁護側提出の書証と関係資料の目録。
- 泊園文庫蔵書書目ならびに索引の部……品切 ※  
幕末の浪速私学「泊園書院」の旧蔵書目録。
- 近世文書目録 ※  
その一……1,350円、その二……2,000円  
大阪周辺の庄屋文書を核に、ほぼ全国各地の近世文書を加えたコレクション。
- 大阪文芸資料目録……3,500円 ※  
明治以降の、大阪にゆかりのある作家・画家・芸能人

などの作品や大阪を題材とした作品などの本学所蔵コレクションの目録。

- 内藤文庫漢籍古刊・古鈔目録……2,500円 ※  
内藤湖南・伯健父子旧蔵書の一部善本類の目録。
- 内藤文庫リスト No.1～No.5…非売品 (ただし、No.1は品切) ※
- 芝居番付目録……8,000円 ※  
大阪を中心とする宝暦から昭和に至る歌舞伎、浄瑠璃等の芝居番付約6,500点の目録。
- 大坂画壇目録……品切
- 摂津国嶋上郡高浜村西田家文書目録……非売品
- 河内国丹北郡六反村谷川家文書目録……非売品
- 摂津国住吉郡中喜連村佐々木家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡豊田村小谷家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡岩室村中林家文書目録……非売品

### 2 CD-ROM版

- 内藤文庫目録 KUL-bijou……非売品

### 3 図書館出版図書

- 江戸書状 (全三巻)  
旗本鈴木家と庄屋西田家との往復書簡集  
第一巻 (天保七年から弘化四年) ……品切  
第二巻 (嘉永元年から安政六年) ……品切  
第三巻 (万延元年から明治元年) ……品切
- おおさか文藝書画展 図録……2,000円  
平成6年9月、図書館創設80周年記念・文学部創設70周年記念として開催した「おおさか文藝書画展—近世から近代へ—」の図録
- 展示目録 大坂の書と画と本……品切

以上

注 ※印のものは関西大学図書館ウェブサイトの特別蔵書 (コレクション) にて目録を公開しています。  
(<http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/library/collection/>)

## 『図書館フォーラム』投稿要項

制定 平成 8 年 3 月 31 日

『大学図書館研究』の原稿募集要項に準じて、概要を次のように定める。

### (1) 原稿執筆者の範囲

原則として、依頼記事・寄稿記事いずれの場合も、本学の教育職員並びに本学図書館所属の職員を執筆者とする。

### (2) 原稿の内容

次のいずれかで、執筆者自身の未発表原稿とする。

- ア 研究論文・研究ノート
- イ 図書館に関する調査・意見
- ウ 本学所蔵資料の紹介
- エ 図書館職員のレポート
- オ その他図書館に関する記事

### (3) 取 載

寄稿原稿が予定の紙幅を超える件数があったときは、取載順序を図書館長が決める。

### (4) 謝 礼

依頼記事の執筆者（図書館職員は除く）には、若干の謝礼を贈呈する。ただし、抜刷は提供しない。

### (5) 投稿先

関西大学図書館事務室（TEL 06-6368-1157）  
電子メール（lib-ent@ml.kandai.jp）

### (6) 執筆要領

- ア 本誌 1 ページにつき 2,070 字相当とする。
- イ 原稿は横書き、電子メールまたはフロッピーでの提出を原則とし、手書き原稿も可とする。
- ウ 電子メールまたはフロッピーで提出する場合は、プレインテキスト（txt）形式もしくはワープロ（Word）形式を原則とする。
- エ ワープロを使用の場合は、1 行を 23 字とし 45 行を 1 ページとして設定する。
- オ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。
- カ 原稿は次の順に記載する。
  - ① 標題、② 執筆者名、③ 本文、④ 注記、⑤ 引用文献、⑥ 参考文献、および⑦ 執筆者名の読みがな・職名
- キ 原稿の表記は、次に従うものとする。

① 漢字は原則として常用漢字を用い、新かなづかいによる。書誌学的な理由などから、特に旧字体を使用する必要がある場合は、原稿用紙の右欄外にその旨を記す。また、欧文原稿を除き句読点は「。」「、」を用いる。

② 数字は、引用文および漢語の一部として漢数字が習慣

的となっている場合を除き、原則としてアラビア数字を用いる。

### ③ 引用文献、参考文献の記載方法は、次のとおりとする。

#### a. 雑誌論文の場合

筆者名“論文標題”『雑誌名』巻（号）、年月、ページ

#### b. 図書の中の一部引用の場合

著者名“論文標題”『書名』（図書の著編者名）出版地、出版者、出版年、ページ

#### c. 図書の場合

著者名『書名』出版地、出版者、出版年

d. 欧文の場合は、著者名を転置形として、雑誌名または書名には『 』を付さずにアンダーラインで示す（印刷では、イタリック体活字になる）。

[例] Downs, Robert B. “How to start a library school.” *ALA Bulletin* 52 (6), 1995.6, pp.32-48.

#### e. インターネット上の文献

著者名“文献標題”[参照年月日]（URL）

[例] 永沼博道 “21 世紀の大学図書館に向けて—伝統と現代化の相克” [参照 2003.1.20]  
（URL [http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib\\_pub/forum/2002\\_vol7/2002\\_01.pdf](http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib_pub/forum/2002_vol7/2002_01.pdf)）

ク 図・表は、図 1、図 2、表 1、表 2、fig. 1 のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するとき、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図 1、図 2、表 1、表 2 のように番号を鉛筆書きのこと。

ケ 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。

### (7) 掲載した著作物の電子化と公開許諾について

本誌に掲載した著作物の著作権は執筆者に帰属するが、次の事項について執筆者はあらかじめ了解するものとする。

ア 関西大学図書館ウェブサイトにて公開されること

イ 国立国会図書館が行う電子メディアに収録されること

以 上

〈平成 21 年 12 月 1 日改正〉

## 編集後記

今年も図書館フォーラムをお届けできる運びとなりました。これもひとえに、お忙しい中原稿をお寄せくださった皆様のご協力があったこと、あらためて深く感謝申し上げます。

本年4月、館内に待望のラーニング・コモンズがオープンしました。口絵に写真を掲載しておりますのでご覧ください。学生たちには、グループ学習ができるラーニング・エリア、ワーキング・エリアが好評なようです。さっそく活発なディスカッションが繰り広げられており、学習スタイルの変化は、知的好奇心を刺激する空間を必要としていたことを今更ながら実感しています。とは言え、従来の「静謐な空間」が求められていることも確かです。

私たちはこれからも、大学を取り巻く状況の変化を敏感に受け止め、利用者の多様なニーズに応えられる図書館づくりをしていきたいと思います。どうぞ今後ともご指導ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

(E.T.)

---

図書館フォーラム編集担当

加藤 博之・嶋田 有理香・田中 恵美

---

---

## 関西大学 図書館フォーラム 第20号 (2015)

平成27年6月30日発行

編集・発行 関西大学図書館  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-1157  
<http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/>

制作 (株)遊文舎  
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31  
TEL 06-6304-9325

---

---